

水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第12集

面 塚 遺 跡

1999

財団法人 水沢市埋蔵文化財調査センター

序 文

本報告書は、水沢市佐倉河字面塚地内における宅地開発に伴う緊急発掘調査として、平成10年4月28日から同年6月22日まで実施した結果をまとめたものです。

面塚遺跡は、5世紀後半ごろのわが国最北の前方後円墳として知られる国指定史跡「角塚古墳」の北東約3.4kmに位置し、周辺には高山遺跡をはじめ古墳時代（4世紀から7世紀ごろ）の遺跡が多く分布しています。また、(財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが平成10年4月から同年9月まで発掘調査を実施した「中半入・蝦夷塚古墳」もあり、同遺跡からは、古墳時代中期後半の竪穴住居跡が数多く検出されています。

面塚遺跡の調査の結果、古墳時代のものとしては竪穴住居跡3棟、坏・壺・甕などの土師器・石製紡錘車などが発見されました。

今回の調査で、今まで岩手県内では類例の少ない古墳時代中期後半（5世紀後半）の住居跡や当時の土器の良好な一括資料の発見があったことで、角塚古墳前後の当地域の集落や生活・文化の様子がより深く考察されていくものと期待されます。

発掘調査および報告書作成にあたり、県埋蔵文化財センターはじめ研究機関、研究者の方々のご支援ご指導と、地元の発掘作業員の皆様、(株)大栄土地開発様のご協力に対し、心から感謝申し上げます。

今後とも、埋蔵文化財への深いご理解とご協力をお願いいたしますとともに、この報告書が研究者および関係者はもとより、広く一般の方々にもご活用いただければ幸いです。

平成11年3月

水沢市埋蔵文化財調査センター
所長 朴 澤 正 耕

例 言

- 1 この報告書は宅地造成に伴う面塚遺跡の緊急発掘調査の報告である。
- 2 岩手県の遺跡台帳に登録されている遺跡番号はNE16-0102で、遺跡略号はOD-98である。
- 3 発掘調査は平成10年4月28日から同年6月22日まで行われた。
- 4 発掘調査および整理作業は佐藤良和、千田幸生が担当した。
- 5 原稿の執筆はⅠ、Ⅱを佐藤良和が行った。そのほかは佐藤及び千田幸生で分担した。なお文末には執筆者名を記している。
- 6 調査対象面積は1400㎡で、調査実施面積は897.5㎡である。
- 7 遺構の平面位置は平面直角座標第Ⅹ系で表示し、高さは標高値をそのまま使用している。
- 8 土層の観察にあたっては「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄(1967))を参考にした。
- 9 遺構名称は溝跡にはSD、井戸跡にはSE、竪穴住居跡にはSI、土坑にはSK、その他にはSXを冠し、検出順に通し番号を付した。
- 10 空中写真撮影は(株)アクト企画に委託した。
- 11 現地での発掘調査や室内での整理作業にあたり、地元の方々をはじめとして、以下の関係機関および諸氏からご指導・ご協力を得た。(敬称略)
株式会社 大栄土地開発 有限会社 高橋創建 水沢市教育委員会 財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 神原 雄一郎 高木 晃 高橋 千晶 高橋 誠明 辻 秀人 中村 浩 林 謙作 藤沢 敦 村田 晃一
- 12 使用した地形図は国土地理院発行5万分の1「水沢・北上」及び水沢市発行2,500分の1の地形図を使用した。
- 13 遺構の図版は原則として1/20の縮尺とし、それ以外の縮尺にはスケールを付した。
- 14 遺物の図版は原則として1/3の縮尺とし、それ以外の縮尺にはスケールを付した。
- 15 図版に使用したスクリーントーンは以下の内容を示す。



焼土



地山

- 16 写真図版の縮尺は不定である。
- 17 野外調査に伴う出土遺物および諸記録・室内整理の諸記録は、水沢市立水沢市埋蔵文化財調査センターに保管してある。

目 次

序文

例言

[本文]

I	遺跡の立地と環境	1
II	調査の方法	1
III	検出された遺構と遺物	5
1	基本土層	5
2	遺構と遺物の概要	5
	S I 01 竪穴住居跡	5
	S I 02 竪穴住居跡	8
	S I 03 竪穴住居跡	12
	S D 01～05 溝跡	12
	S E 01 井戸跡	17
	S E 02 井戸跡	17
	土坑	17
	S K 37 近世墓	17
	S X 01	26
	遺構外出土遺物	26
IV	まとめ	
1	縄文時代	33
2	古墳時代	34
	結びにかえて	36

[図表]

表 1	土坑一覧表	37	表 4	石器観察表(1)	39
表 2	土師器等観察表	38	表 5	石器観察表(2)	40
表 3	縄文土器観察表	39			

[図版]

第 1 図	周辺の遺跡位置図	2	第 6 図	S I 02 竪穴住居跡	9
第 2 図	面塚遺跡周辺地形図	3	第 7 図	S I 02 竪穴住居跡出土遺物(1)	10
第 3 図	面塚遺跡遺構配置図	4	第 8 図	S I 02 竪穴住居跡出土遺物(2)	11
第 4 図	S I 01 竪穴住居跡	6	第 9 図	S I 03 竪穴住居跡	13
第 5 図	S I 01 竪穴住居跡出土遺物	7	第 10 図	S D 01～05 溝跡	14

第11図	S D 01溝跡出土遺物	15	第20図	S K 37近世墓	25
第12図	S D 02・04出土遺物	16	第21図	S K 37近世墓出土遺物	26
第13図	S E 01・02井戸跡	18	第22図	S X 01	27
第14図	S K 01~08土坑	19	第23図	S X 01出土遺物	28
第15図	S K 09~14土坑	20	第24図	遺構外出土遺物(1)	29
第16図	S K 14~20土坑	21	第25図	遺構外出土遺物(2)	30
第17図	S K 21~28土坑	22	第26図	遺構外出土遺物(3)	31
第18図	S K 29~34土坑	23	第27図	遺構外出土遺物(4)	32
第19図	S K 35・36土坑	24	第28図	土師器分類表	35

[写真図版]

写真図版 1	面塚遺跡全景(1)	写真図版 15	S K 24~37土坑
写真図版 2	面塚遺跡全景(2)	写真図版 16	S K 28~32土坑
写真図版 3	S I 01竪穴住居跡	写真図版 17	S K 34~36土坑
写真図版 4	S I 02竪穴住居跡(1)	写真図版 18	S K 37近世墓
写真図版 5	S I 02竪穴住居跡(2)	写真図版 19	S X 01
写真図版 6	S I 02・03竪穴住居跡	写真図版 20	S I 01・02竪穴住居跡出土遺物
写真図版 7	S D 01・02溝跡	写真図版 21	S I 02・03竪穴住居跡出土遺物
写真図版 8	S D 03~05溝跡	写真図版 22	S D 01~05溝跡出土遺物
写真図版 9	S E 01・02井戸跡、S K 01・02 土坑	写真図版 23	S E 01井戸跡、S K 01~36土坑 出土遺物
写真図版 10	S K 01~06土坑	写真図版 24	S K 37近世墓、S X 01、遺構外 出土遺物
写真図版 11	S K 07~10土坑	写真図版 25	遺構外出土遺物(2)
写真図版 12	S K 11~14土坑	写真図版 26	遺構外出土遺物(3)
写真図版 13	S K 15~19土坑		
写真図版 14	S K 20~23土坑		

I 遺跡の立地と環境

水沢市は、北上山地西部の丘陵地帯、奥羽山脈から東流する胆沢川の作った胆沢扇状地と、その間にあって中央部を北上川が南流する北上川縦谷の三地形からなっている。胆沢扇状地は胆沢川、北股川～衣川間の広大な扇状地で、扇頂を胆沢町の若柳、市野々として、東方に約20 kmの半径をもって円弧を描いて北上川に及んでいる。扇面は扇頂から等しい距離で等しい傾斜を示す同心円状の等高線を描く典型的な扇状地ではなく、扇状地形成後、多くの変動をうけたようで、扇頂から扇端に傾斜するとともに南部から北部にも次第に高度を減じながら階段状に多くの段丘面が段丘崖をはさんで配列している。これらの段丘群は大別して上位・中位・下位の段丘となり、それぞれ一首坂・胆沢・水沢段丘と称されている。胆沢扇状地は奥羽山脈の隆起に伴い、胆沢川の堆積と侵食によって形成された開析扇状地で、その形成は洪積世と考えられている。

面塚遺跡は水沢市佐倉河字面塚地内に所在し、東北縦貫自動車道水沢インターチェンジから南へ約800mほどのところの下位段丘の水沢段丘微高地上に位置する。標高は58m前後で、遺跡から北西へ1.7 kmほどのところには胆沢川が東流している。胆沢川南岸の水沢段丘上には4世紀後半頃と思われる高山遺跡を始めとして、古墳時代～奈良時代の遺跡が多く分布している。古墳時代の遺跡に関しては現在までのところ、この地域以外に発見されているものはない。

面塚遺跡は昭和49年（1974年）に市内遺跡分布・確認調査により、前期土師器、須恵器片が採取されたため、その所在が明らかにされた。当時記述された須恵器片の説明を以下に示す。

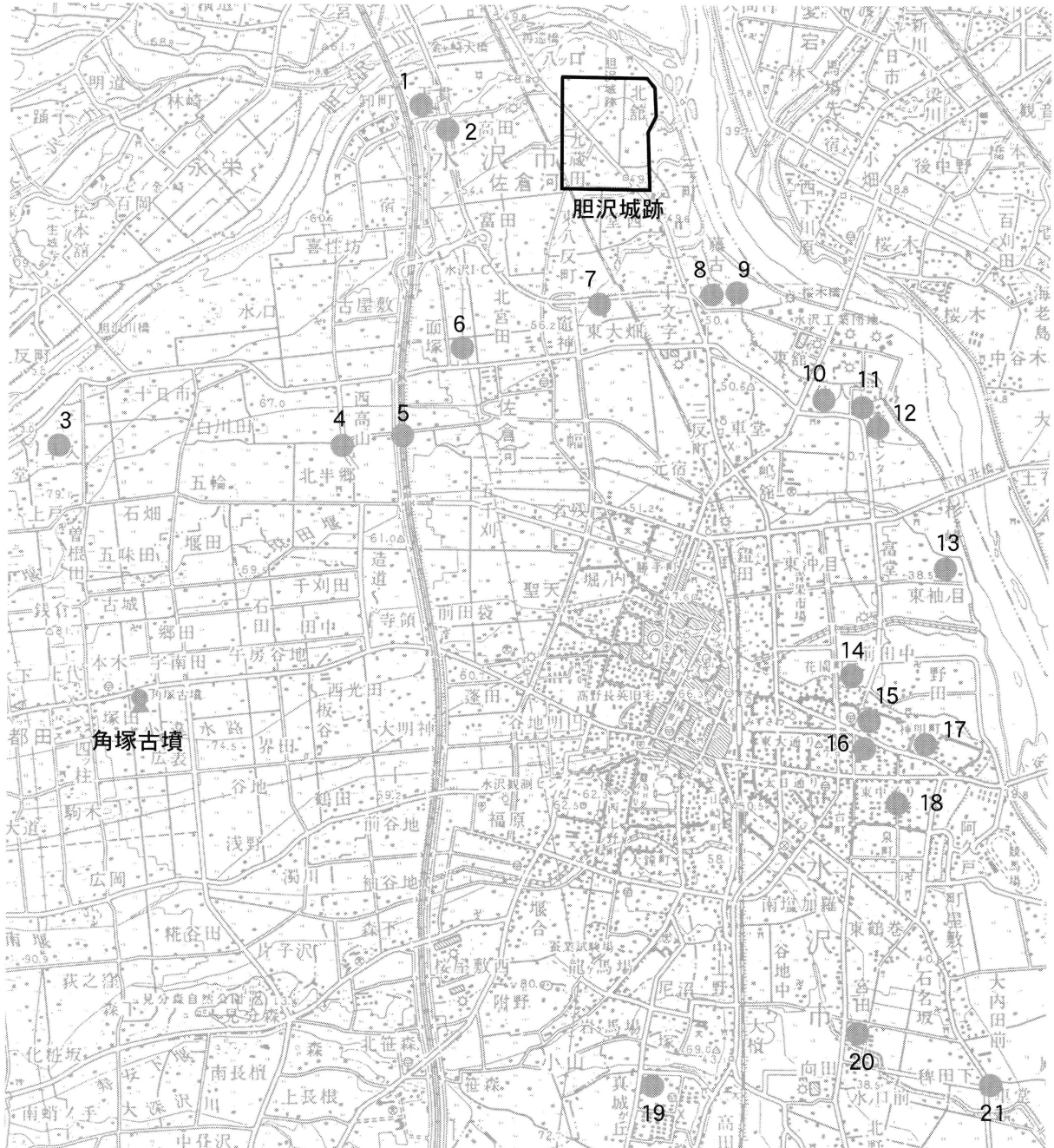
甕か埴形須恵器の破片と思われ、胴部中央には上下1本ずつの沈線に挟まれた細かい数条の櫛描波状文が規則的にめぐっている。焼成は堅緻に焼き上げられ、外面上部沈線付近までは灰かぶりがあり黒色を示している。その下の表面は同じ灰かぶりであるが、やや薄い褐色がかったねずみ色を示す。内面は明るいねずみ色である。

この須恵器片は現在、残念ながら所在を欠いているが、当時から古墳時代の遺跡が知られていたことは確かなようである。

その後、昭和55年に墓地の区画整理事業に伴い本格的な調査が行われ、古墳時代中期及び奈良時代の竪穴住居跡がそれぞれ一棟ずつ検出されている。今年度の調査区は昭和55年次調査の北側にあたり、二度目の本格的な調査となった。

II 調査の方法

発掘調査は重機による表土剥ぎを行い、その後作業員によって遺構の検出及び精査を行った。各遺構は半切または土層観察用のベルトを残して掘り下げた。土層は写真撮影を行った後、標高値を用いて図面に記録した。完掘後、平面写真撮影を行い、その後平面直角座標第X系を用いて図面に記録した。



- | | | | |
|---------|----------|------------|------------|
| 1 玉貫遺跡 | 7 東大畑遺跡 | 13 東袖ノ目遺跡 | 19 雷神Ⅰ遺跡 |
| 2 膳性遺跡 | 8 白井坂Ⅱ遺跡 | 14 常盤広町遺跡 | 20 林前遺跡群 |
| 3 中半入遺跡 | 9 白井坂Ⅰ遺跡 | 15 常盤小学校遺跡 | 21 姉体車堂Ⅱ遺跡 |
| 4 高山遺跡 | 10 仙人西遺跡 | 16 跡呂井遺跡群 | |
| 5 西大畑遺跡 | 11 仙人東遺跡 | 17 杉の堂遺跡 | |
| 6 面塚遺跡 | 12 沢田遺跡 | 18 熊の堂遺跡 | |

第1図 周辺の遺跡位置図



第2図 面塚遺跡周辺地形図



第3図 面塚遺跡遺構配置図

写真撮影には6×7版大型カメラ1台と35mmカメラ2台を使用した。35mmカメラにはモノクロ、カラーリバーサルフィルムをそれぞれ使用した。なお空中写真撮影に関してはバルーンを用いた。調査終盤には現地説明会を開催した。

III 検出された遺構と遺物

1 基本土層

本調査区は現況が畑地であり、耕作土で覆われていた。耕作土は20～30cmほどの堆積で、その直下が遺構検出面であった。単層であったため、図面等は記録していない。

2 遺構と遺物の概要

今回の調査では、古墳時代中期（5世紀後半頃）の竪穴住居跡3棟、中世と思われる井戸跡2基、近世と思われる墓坑1基、時期不明の溝跡4条及び土坑36基が検出された。調査区の南側では小穴が200以上確認されたが、建物跡を構成するような形跡は見られず、また物によってはビニールなどが出土するものがあったため、遺構として登録はしなかった。

S I 01 竪穴住居跡（第4・5図、写真図版3・20）

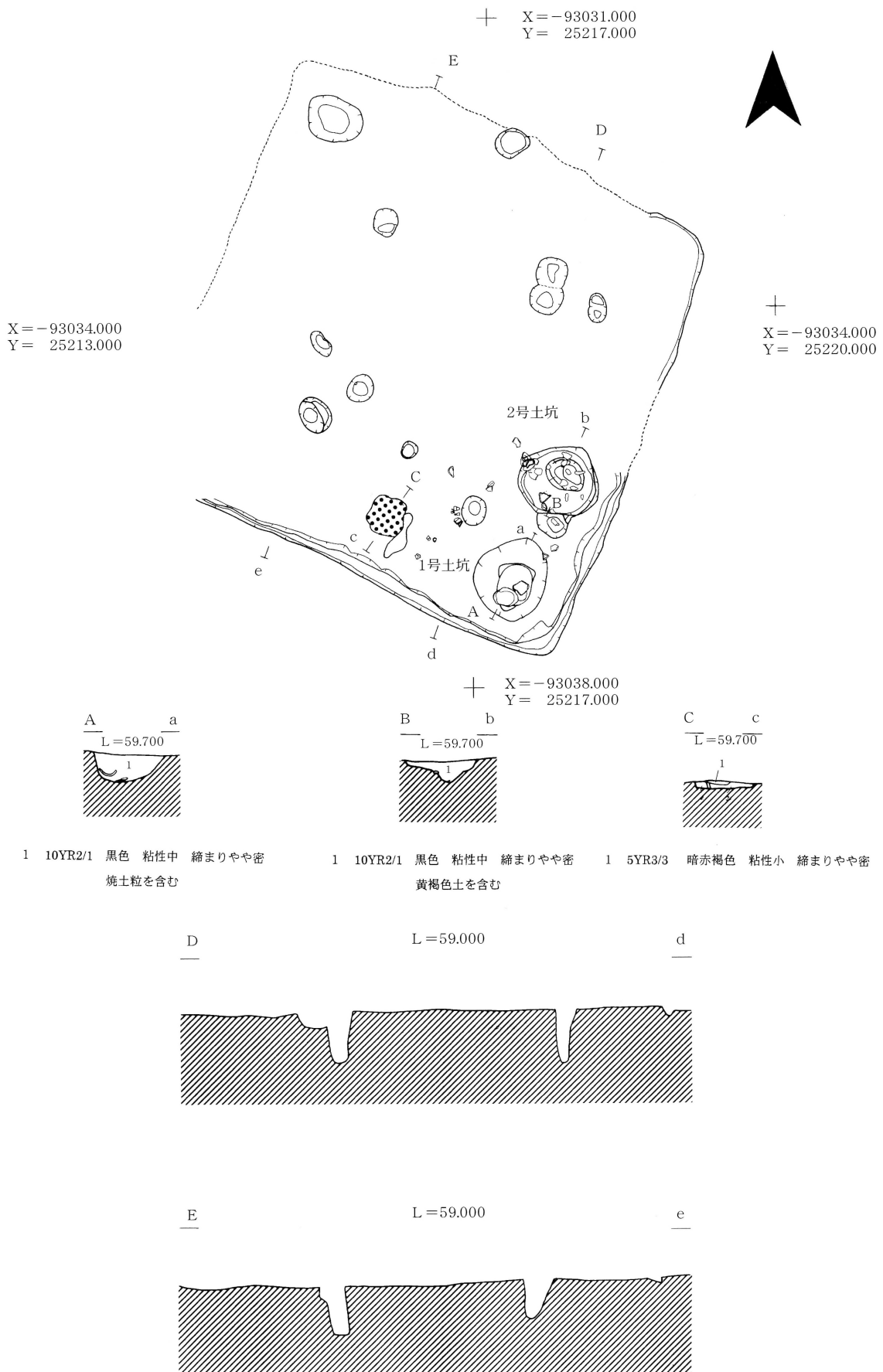
調査区中央西寄りで検出した。耕作土直下での検出で、且削平されているため埋土の様子はほとんどわからず、壁際に周る溝によって検出できた。したがって規模も推定に頼らざるを得ないのであるが、約5m四方の方形の竪穴住居跡と思われる。南壁際のほぼ中央と思われるところに焚き口と思われる焼土の広がり確認できることから、この位置にカマドが付設されていた可能性がある。煙道、煙出しは確認できなかった。柱穴は4つ確認でき、床面からの深さは50cm前後を計る。南東コーナー付近には土坑が見られ、1号土坑中には胴部ほぼ中央に穿孔された甕の上半が、白色粘土を用いて据えられていた。この甕の他の破片は、床面などからも出土している。2号土坑からは椀状の坏が出土している。

遺物は甕の他に坏が2点、椀状の坏が1点、須恵器の小片2点が出土している。

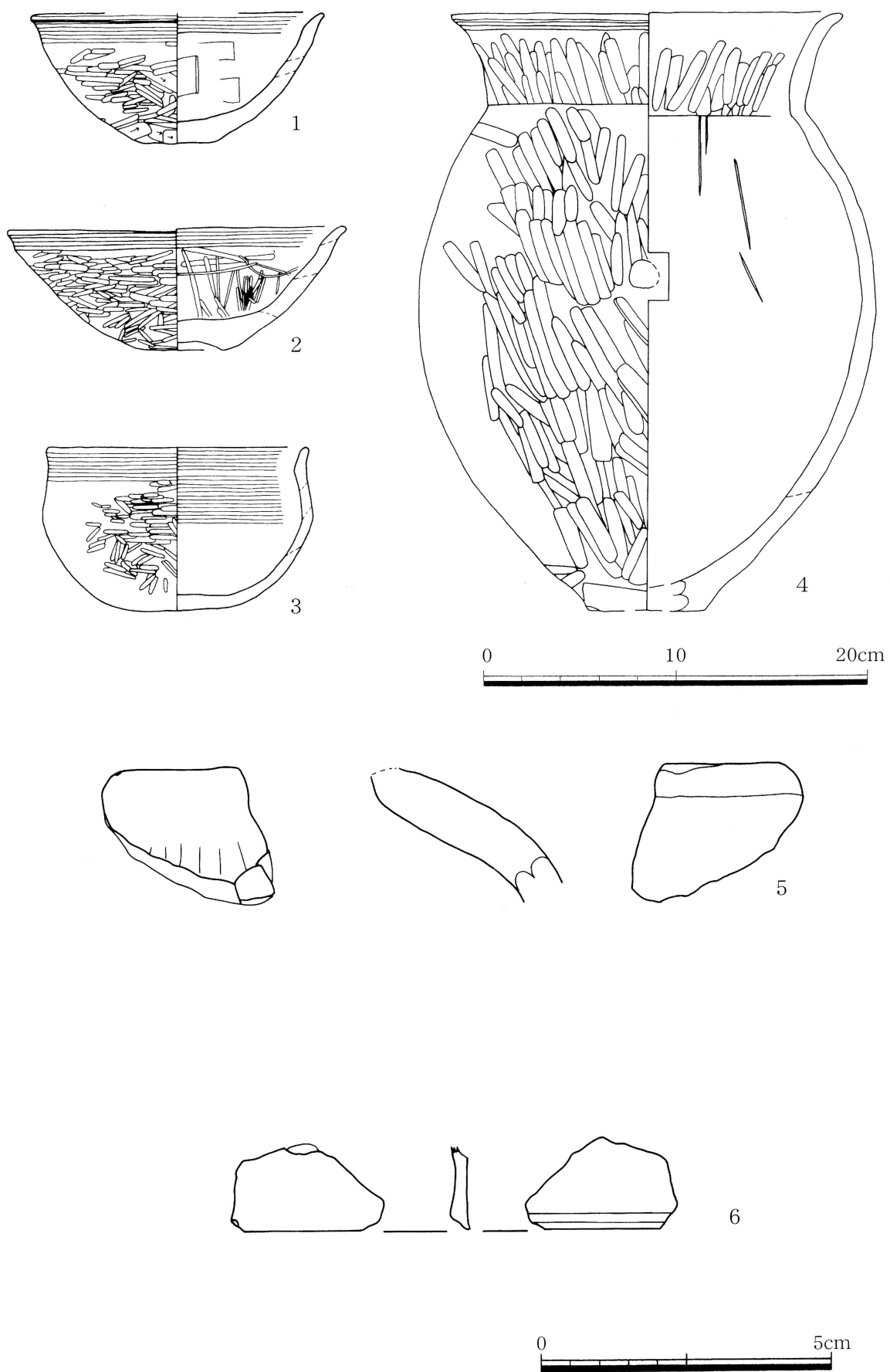
1は口径15.2cm、底径4.0cm、器高6.7cmの平底の坏で、外面にはミガキ、底部付近はケズリ、内面にはヘラナデと思われる調整が施される。底部から内湾気味に立ちあがり、口縁端部にいたると摘み上げられるようにやや外傾し、内面には稜がつく。また、口縁端部付近の内外面にはヨコナデが施されている。口縁端部付近には赤色塗彩が見られるが、その他の部位では現在では確認できない。また底部外面では完全に平底になっているが、内面は平底になりきれていない。

2は2号土坑からの出土で、口径17.8cm、底径4.4cm、器高6.3cmの上げ底の坏である。内外面ともにミガキが施され、口縁端部には赤色塗彩がなされ、内外面ともヨコナデが施される。赤色塗彩は体部内外面には現在では見とめられない。器形は坏1と同様、口縁端部付近で摘み上げられるように外傾する。底部の器厚は1.1cmと厚めである。

3は2号土坑から出土した椀形の坏で、口径17.6cm、底径6.0cm、器高8.5cmの平底のものである。底部から丸みを持って立ちあがり、胴部中ほどで内湾をはじめる。口縁部は外反気味に開き、胴部との



第4図 SI01 竪穴住居跡



第5图 S101竖穴住居跡出土遺物

境の内面には稜がつく。口縁部は内外面ともヨコナデが施され、体部外面にはミガキが、胴部は器面が荒れているためはっきりとはわからないが、ナデが施されると思われる。器厚は1、2の坏と比較すると薄く、外面には赤色塗彩の痕跡が残る。

4は長胴の甕で口径20.5cm、底径6.0cm、器高31.5cmのものである。口縁端部付近にヨコナデが施されるほかは、口縁部、胴部ともにミガキが施される。胴部内面はヘラあて痕が認められるが、調整ははっきりとわからない。口縁部と体部の境では内面に鋭い稜がつき、また、胴部中ほどには直径1.5cmほどの小孔が焼成後穿たれる。

5、6はともに須恵器の小片である。5は甕の肩部と思われる破片（中村浩氏のご教示による）である。推定現存高は2.4cmで器厚が0.9cmのものである。外面には黄灰色の灰釉がかかっており、胴部には叩き目のような痕跡が残っている。

6は短頸壺の蓋と思われる破片で、推定現存高が1.5cmの小片である。外面は青黒色の灰釉がかかっている。

S102竪穴住居跡（第6～8図、写真図版4～6・20・21）

S101竪穴住居跡の東側に検出された。規模は約4.7m四方である。埋土は5層から構成され、ほぼレンズ上の堆積を示す。壁際には溝が確認されず、柱穴は4つ確認した。深さは46cm前後を計る。カマドは北東壁ほぼ中央に付設され、煙道、煙出しは確認できなかった。カマドのそでの片方は土坑によって壊されている。住居内には5基の土坑が確認できるが、1、4、6号土坑に関しては、本竪穴住居跡よりも新しいものである。この1、4、6号土坑出土の破片と床面または埋土中出土のものが接合していることから、本竪穴住居廃絶に伴って一括廃棄されたものと捉えることにする。

遺物は土師器の坏（7から13）、小型壺（14）、鉢（15）、甕（16、17）、甑（18）石製紡錘車（19）、黒曜石（20、21）が出土している。坏の内外面はすべて赤色塗彩がなされた痕跡が見られる。

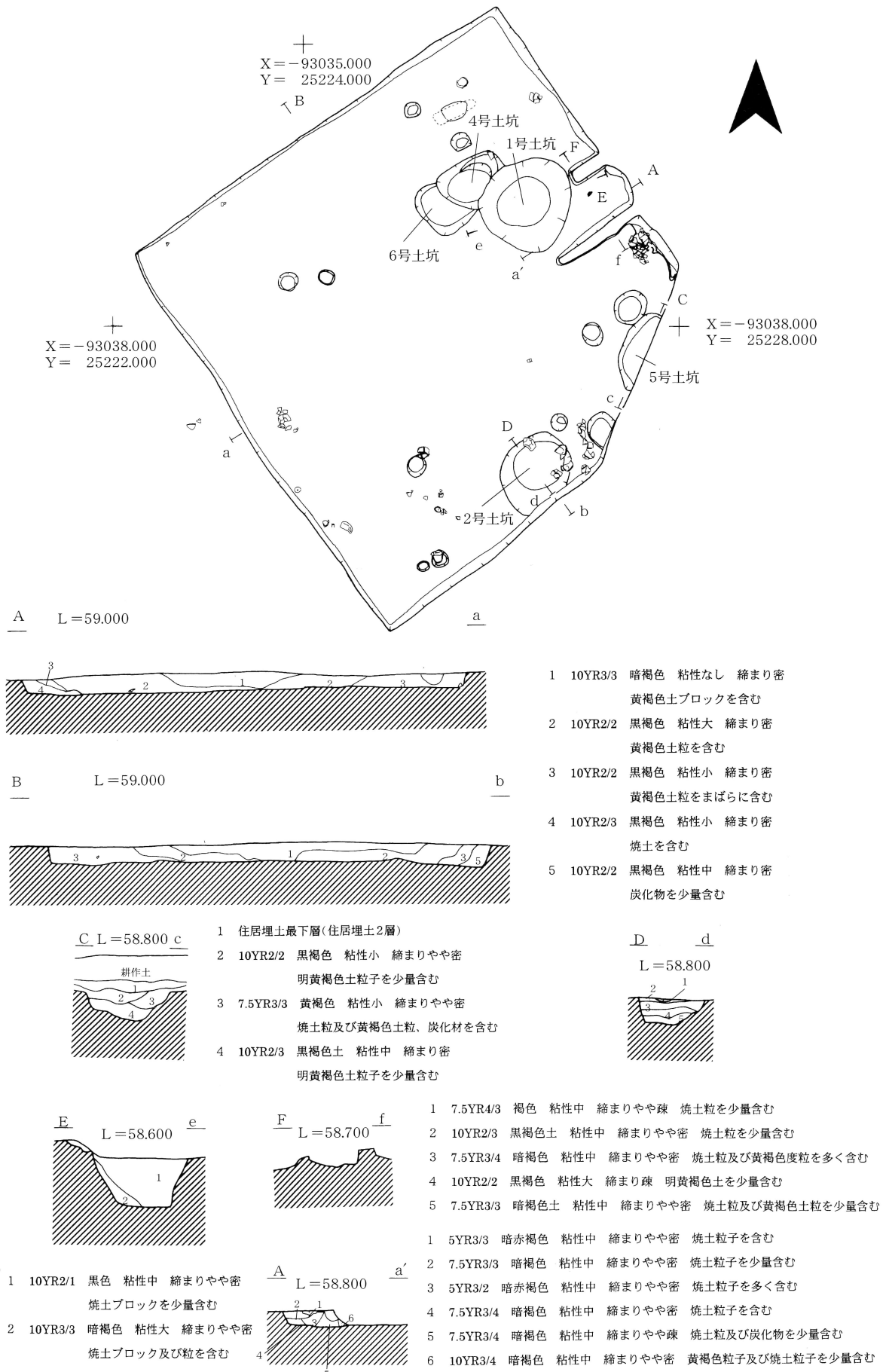
7は平底の坏で、2、4号土坑から出土している。推定法量は口径12.6cm、底径3.2cm、器高5.9cmである。内外面ともにミガキが施され、口縁部は直立する。口縁部と体部の境には外面には稜が付き、内面には屈曲線が見られる。

8は床面付近からの出土で、口径14.4cm、底径4.9cm、器高6.5cmの平底のものである。内外面ともにミガキを中心とする調整が施されるが、外面の底部付近にはケズリが、口縁部付近にはヨコナデが施されている。また外面の一部にはハケメ調整の痕跡が確認できることから、ハケメ→ミガキ→ヨコナデの調整順番が考えられる。口縁部はやや内湾気味に立ちあがり、体部との境の外面には稜線が、内面には屈曲線が見られる。内面には靱厚痕が観察できる。

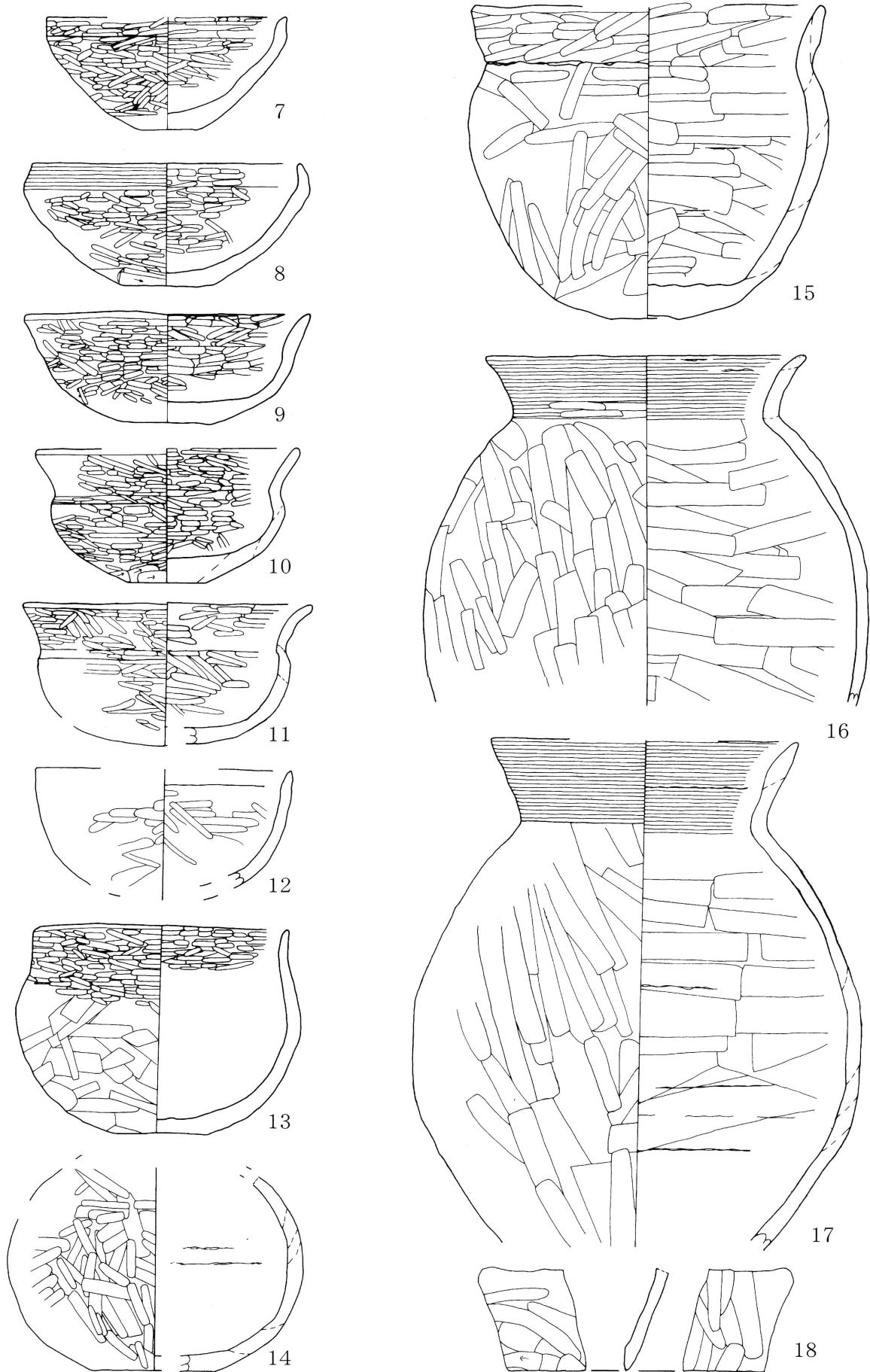
9は床面付近からの出土で、口径15.2cm、底径3.0cm、器高6.0cmの平底の坏である。外面にはハケメ調整の痕跡が残存しており、その上にミガキ調整が施されている。また、内面に施される調整はミガキである。体部は内湾しながら立ちあがり、口縁部付近で外傾する。体部と口縁部との境内面には軽く稜線がつく。

10は床面付近からの出土で、推定口径14.0cm、推定底径4.2cm、器高7.1cmの平底の坏である。外面底部付近にケズリ調整の痕跡が見られ、内外面にはミガキが施されている。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部にいたると外傾する。体部と口縁部の境の外面には稜線および屈曲線が、内面には比較的鋭い稜線がつく。底部の器厚は、体部、口縁部が0.6cmほどであるのに対し、1.2cmと厚めである。

11は床面およびカマド付近、1号土坑からの出土で、口径15.4cm、現存高7.4cmの平底に近い丸底の坏で、体部、口縁部ともにミガキが施されている。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部にいたる



第6図 SI02竪穴住居跡



第7图 S102竖穴住居跡出土遺物(1)

と外湾する。体部と口縁部の境には外面に稜線および屈曲線が、内面には比較的鋭い稜線がつく。また、内面には粘厚痕がみられる。

12は椀形を呈する坏と思われ、推定口径17.6cm、現存高が6.3cmのものである。内外面ともにミガキが施されるようであるが、口縁端部付近は器面荒れのため、はっきりした調整がわからない。

13は床面付近、2号土坑から破片が出土し、椀または鉢形を呈する坏と思われる。口径13.4cm、底径5.4cm、器高16.0cmの平底のもので、外面には煤が付着している。外面体部にはケズリともミガキともつかない調整が施され、口縁部にはミガキが施されている。内面体部は器面荒れのためはっきりした調整がわからない。底部には指ナデと思われる調整が、口縁部にはミガキが施される。底部から体部にかけて内湾しながら立ち上がり、口縁部は直立する。体部と口縁部の境には、稜線や屈曲線は見られない。

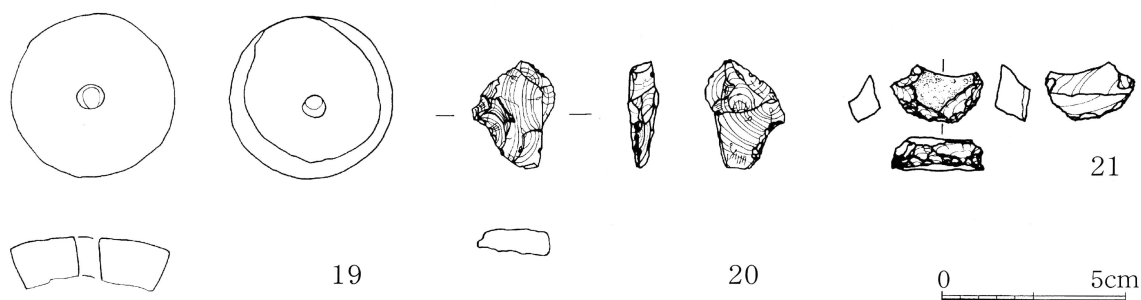
14は1号土坑出土の小型の平底壺と思われるものである。推定底径が5.6cm、体部最大径が中央やや下半よりで計測でき推定16.0cmで現存高は10.7cmである。外面には単位が非常に粗いミガキともケズリともつかない調整が施されている。内面にはナデ調整が施されるようだが、粘土積み上げ痕を消しきれずにいる。赤色塗彩の痕跡は確認できない。

15は1号土坑出土の鉢と思われるものである。推定口径18.6cm、推定底径4.0cm、器高16.6cmの法量を持ち、底部は上げ底気味である。内外面にミガキともケズリともつかない調整が施され、赤色塗彩がなされた痕跡が残る。器厚は底部が1.8cmと厚く、口縁部と体部の境には、口縁部に積んだ粘土積み上げ痕がこのころ。胎土は粗く、雑なつくりである。

16は床面およびカマド付近からの出土で、口径17.0cm、現存高18.6cmの長胴の甕と思われる。体部には内外面ともミガキともケズリともつかない調整がなされ、口縁部にはヨコナデが施される。胴部の最大径は中ほどに求められ、23.6cmを計る。口縁部は外湾気味に立ちあがる。

17も床面付近から出土した長胴の甕と思われる。口径16.0cm、現存高27.0cmで、胴部の最大径は中ほどやや下半気味のところに求められ、23.7cmを計る。調整は胴部内外面にはミガキともケズリともつかない調整が、口縁部には内外面にヨコナデが施される。口縁部は外反気味に立ちあがる。

18は5号土坑から出土した甑の底部と思われる破片で、現存高は5.4cmである。内外面にはケズリともミガキともつかない調整が施されるが、内面底端部付近にはケズリが施され、面が作り出されている。



第8図 SI02竪穴住居跡出土遺物(2)

19は石製の紡錘車で、直径4.0cm、厚さ1.2cm、重さ31.24gのもので、中央に直径約0.8cmの小孔を持つ。裏面は破損している。

20、21は黒曜石のスクレイパーと思われる。20は長軸2.8cm、短軸1.9cm、厚さ0.7cmのものである。自然面は残らず、また刃部もはっきりしない。21は長軸2.5cm、短軸1.2cm、厚さ0.8cmのもので、自然面を持ち、また刃部も持つ。

S I 03 竪穴住居跡 (第9図・写真図版6・21)

SI02竪穴住居跡の北から検出された。本竪穴住居跡のほとんどが調査区外にのびるため、はっきりとした規模はわからないが、1辺が5m前後の隅丸方形を呈する竪穴住居跡と推定する。耕作土(I層)直下で検出された。1層は張り床と思われ、その上から柱穴や土坑が掘りこまれたと思われる。柱穴は1つ確認され、深さは張り床面から約60cmほどである。柱穴からは25の小型壺が出土した。土坑は3基確認しているが、1号土坑から24が、2号土坑から22が、3号土坑から23が出土している。

22は丸底の坏で、推定口径13.6cm、器高7.0cmを計り、内外面にミガキ調整が施され、赤色塗彩がなされる。底部から内湾気味に体部が立ちあがり、口縁部はやや内傾気味に立ちあがる。体部と口縁部の境には稜線や屈曲線は見られない。また、内面底部には凹凸が見られる。

23は丸底気味と思われる坏で、推定口径15.4cm、現存高5.5cmを計り、内外面とも赤色塗彩がなされている。内面にはミガキ調整が施され、外面にはハケメ調整の痕跡が残るものの、最終調整にはミガキが施されるようである。底部から体部への立ちあがりには22の坏よりも緩やかに立ちあがり、口縁部はやや内傾気味に立ちあがる。体部と口縁部の境には外面に稜線が、内面に屈曲線が見られる。

24の坏は22、23の坏とはタイプが違う坏で、口縁部が外傾気味に開いている。推定口径は17.8cm、現存高は5.7cmを計る。体部外面はハケメ調整が施された後に体部にミガキ調整、口縁部にヨコナデ調整が施される。内面は体部、口縁部ともにミガキ調整が施されている。口縁部と体部の境には外面に屈曲線が、内面には稜線がみられる。また、内外面は赤色塗彩がなされる。

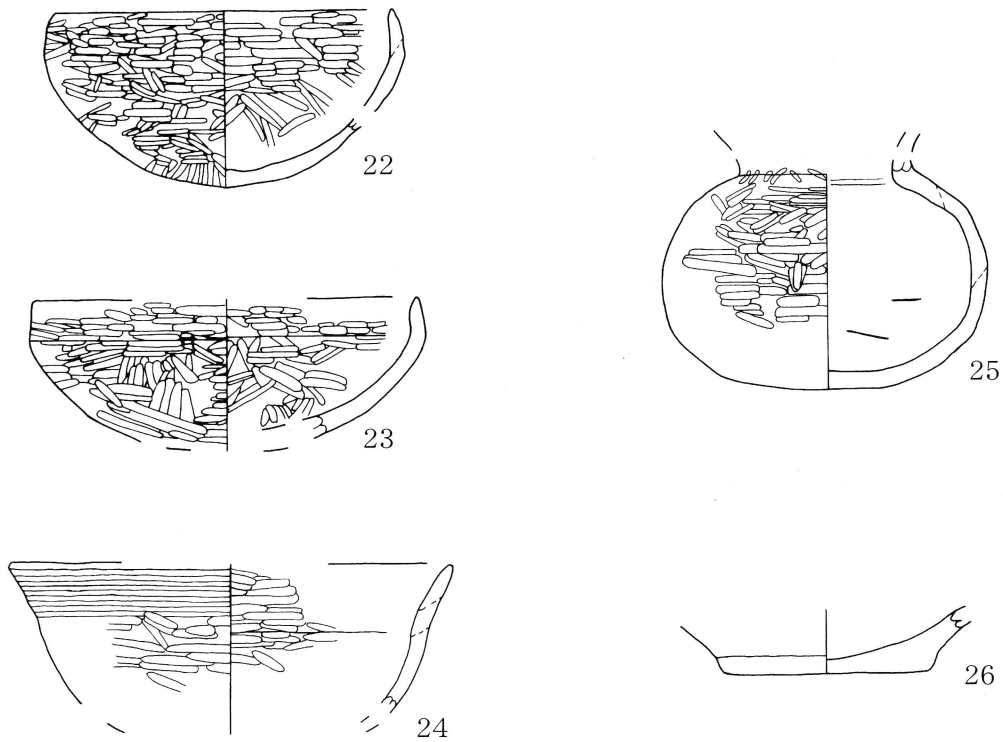
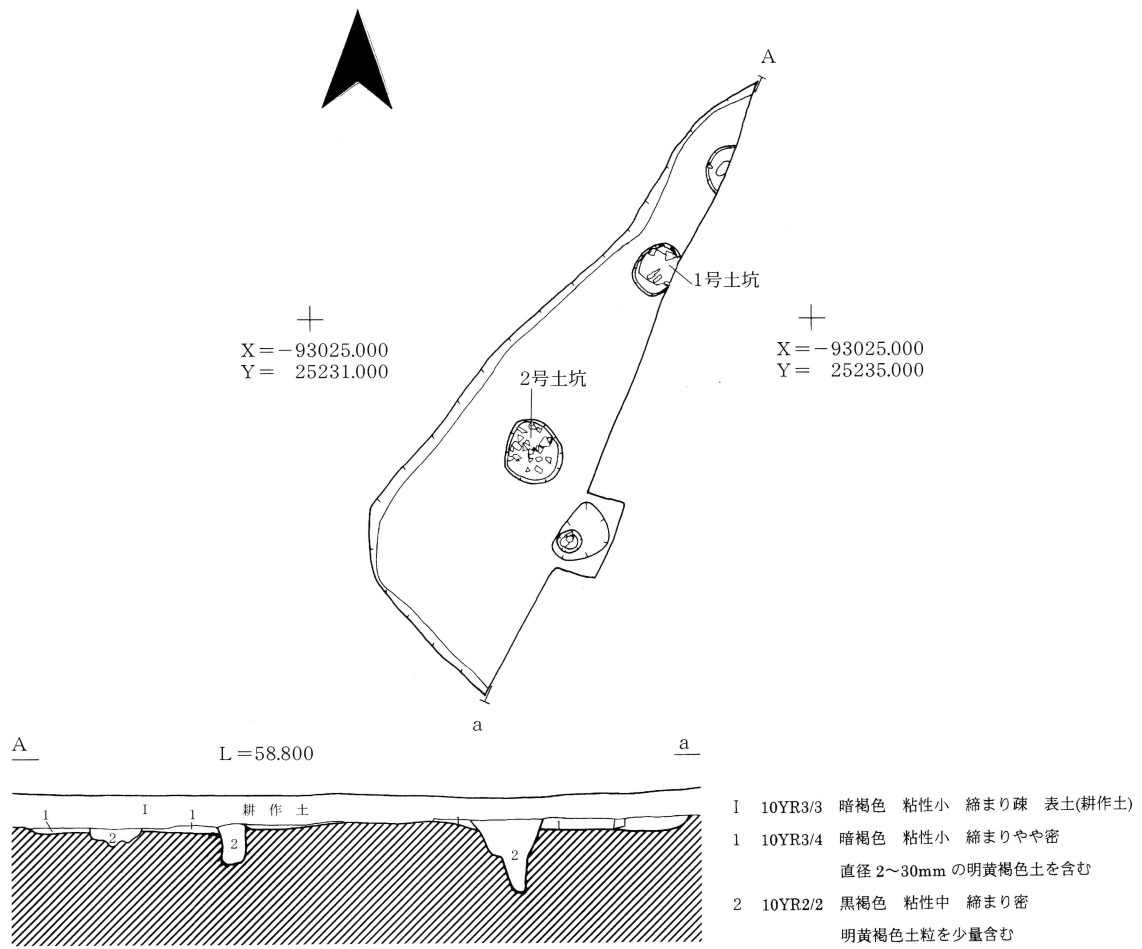
25は小型で平底気味の壺である。口縁部は欠損している。胴部の最大径はほぼ中央に求められ、13.2cmを計り、現存高が9.2cmである。外面にはミガキが施されるが、内面はヘラ状工具をあてた痕跡が残るのみで調整はわからない。頸部から胴部にかけて内外面とも赤色塗彩が見られる。

26は甕と思われる底部の破片で、推定底径4.0cm、現存高2.6cmを計る。調整は内外面ともはっきりしない。底部内面はすり鉢状を呈している。

S D 01～05 溝跡 (第10～12図、写真図版7・8・22)

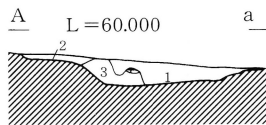
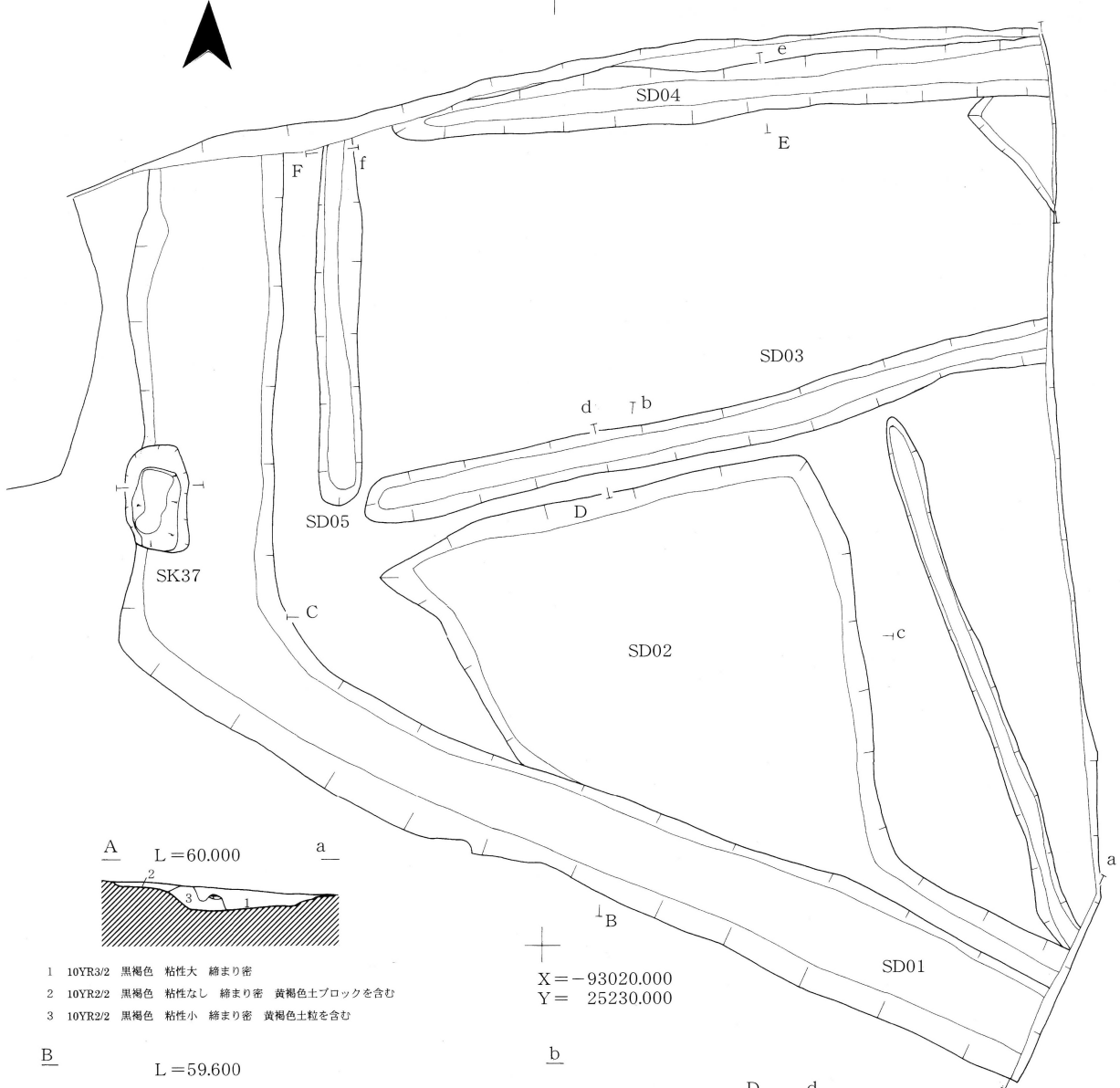
調査区北部で検出された。5本の溝跡が検出されたが時期、性格はわからない。溝跡が検出された調査区は他の調査区よりも低く、現在でも湧水が見られ乾きが悪いことから、水場としての遺構が推定される。B—bの断面を見るとSD02よりSD01、03が新しいことがわかる。東西方向のSD01には拳大以上の礫が多数埋土中に混入しており、人為的に埋設されたことが考えられる。南北方向のSD01を壊してSK37近世墓が掘られていること、また、石筥等の石器とともに須恵器の破片が出土していることから、古代以降、近世までの間に掘られたものと思われる。

遺物はSD01溝跡から石筥、磨石が、SD02溝跡から石筥、環状石斧、須恵器壺の底部付近と思われる破片が、SD04溝跡から石筥が出土している。個別の遺物説明は紙面の都合上省略する。



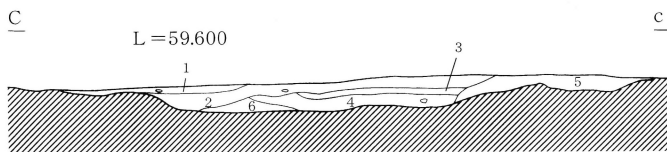
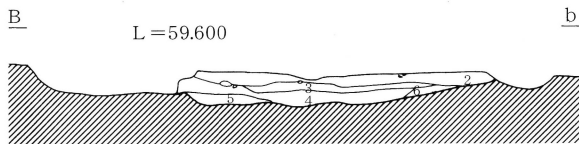
第9図 SI03竖穴住居跡

X = -93009.000
Y = 25230.000

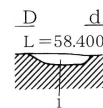


- 1 10YR3/2 黒褐色 粘性大 締まり密
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性なし 締まり密 黄褐色土ブロックを含む
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性小 締まり密 黄褐色土粒を含む

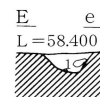
X = -93020.000
Y = 25230.000



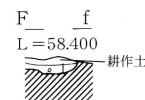
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締まりやや疎 明黄褐色土ブロックを少量含む
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性中 締まりやや密 明黄褐色土ブロックを含む
- 3 10YR2/1 黒色 粘性大 締まり密
- 4 10YR4/4 褐色 粘性大 締まり密 明黄褐色土ブロックを多く含む
- 5 10YR3/4 暗褐色土 粘性大 締まり密 明黄褐色土ブロック及び灰黄褐色土ブロックを含む



- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性小 締まりやや密 暗褐色土ブロックを含む



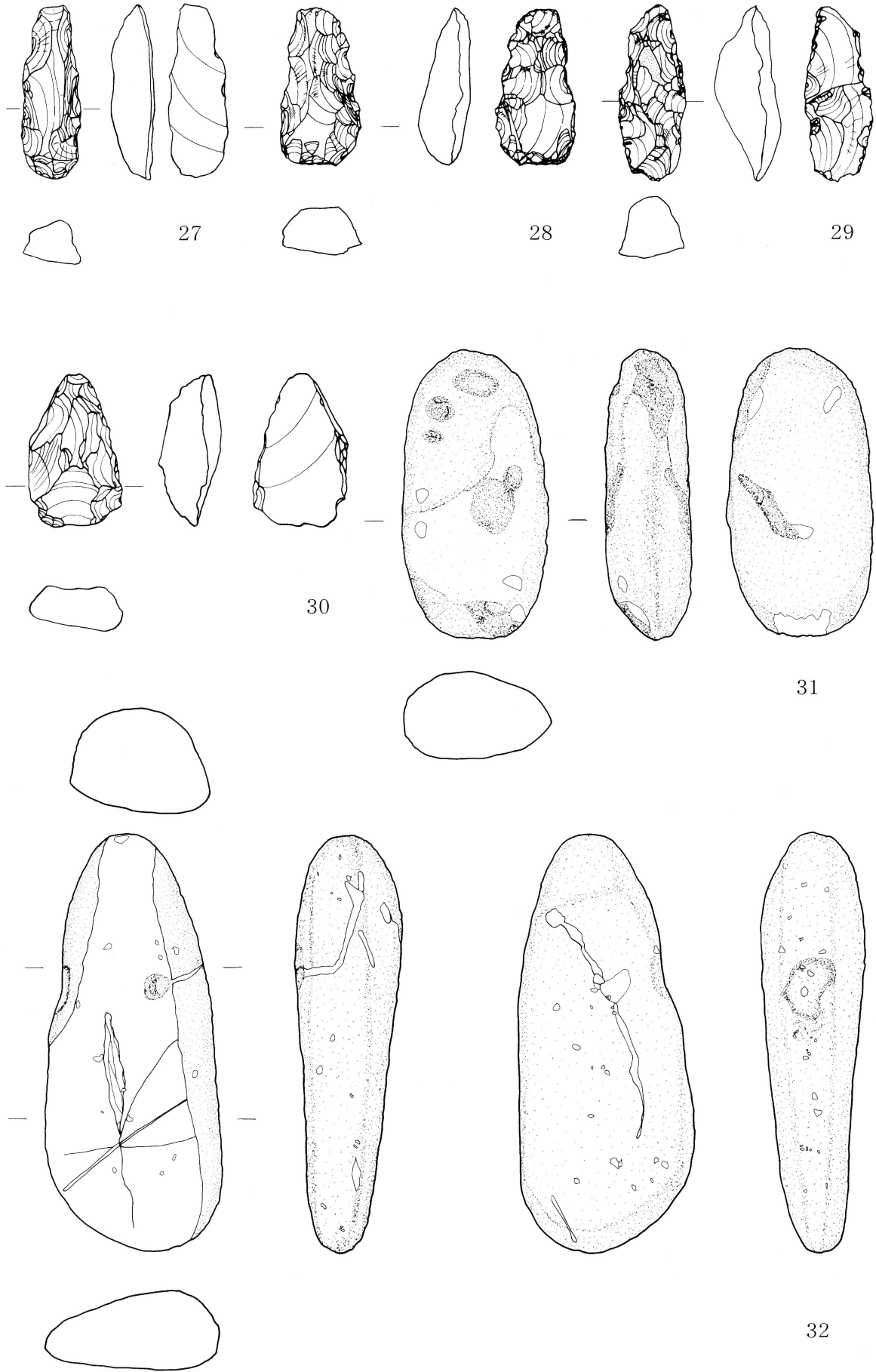
- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まりやや疎 明黄褐色土ブロックを含む



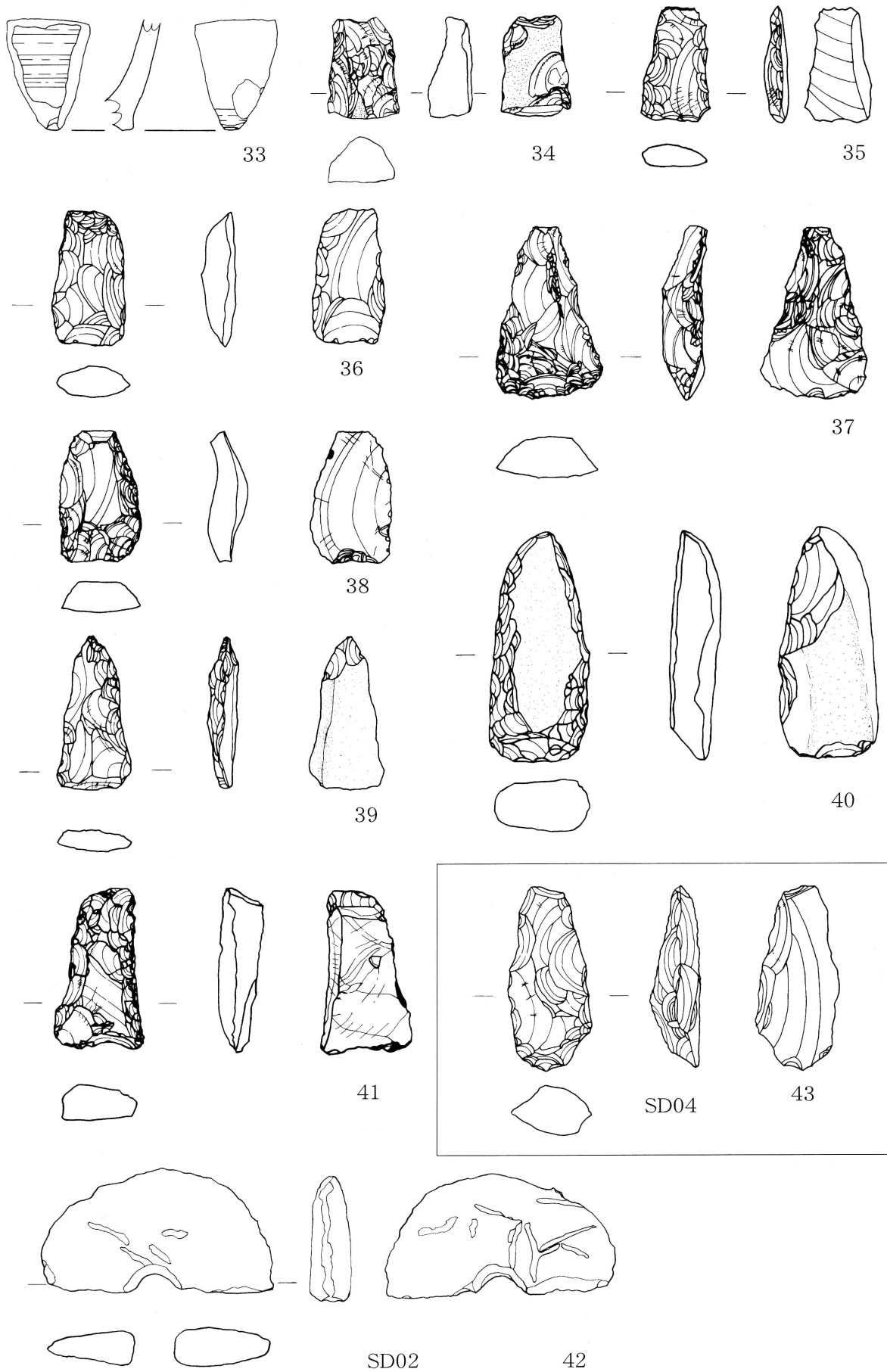
- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締まりやや密



第10図 SI01~05溝跡



第11圖 S101溝跡出土遺物



第12圖 SI02,04溝跡出土遺物

S E 01井戸跡（第13図、写真図版9・23）

調査区南部東側の調査区境で検出した。長軸1.86m、短軸1.60m、深さは検出面から約0.7mの素掘りの井戸である。遺物は石篋、打製石斧、磨り石等の石器に混じり、13世紀頃の宮城県北部で生産されたと思われる甕の口縁部（44）が出土している。

S E 02井戸跡（第13図、写真図版9・23）

SI02竪穴住居跡の北で検出した。直径0.94mの円形を呈し、深さが検出面から0.64mの素掘りの井戸跡である。井戸跡としては規模が小さいと思われるが、現在でも湧水が見られるので井戸跡として登録した。遺物は出土していない。

土坑（第14～19図、写真図版9～17・23）

土坑は36基検出された。ほとんどのものは時期、性格がわからない。出土する遺物は石篋を主とした石器や縄文土器、土師器である。縄文時代の遺構として可能性の高いものはSK27、36で、陥し穴と思われる。また、近世としたものは、SK37近世墓付近で検出され、平面形、規模等が似通っているためであるが、はっきりしない。（表1参照）

SK01土坑からは土師器の坏（49）が出土している。推定口径12.0cm、器高3.1cmのものである。器面荒れが激しく内外面ともに調整がわからない。内面は黒色処理がなされていない。

SK13土坑からは土師器の小型甕（55）と思われる破片が出土している。推定口径10.5cm、現存高7.9cmのものである。外面胴部にはミガキ調整が施され、頸部から口縁部にかけてはヨコナデ調整が施された後、口縁部のみにミガキが施されているようである。内面胴部調整は良くわからないが、頸部から口縁部にかけては外面同様、ヨコナデ調整後ミガキ調整が施されている。

（佐藤良和）

SK35土坑からは縄文土器片1点（62）と石匙2点（63・65）、石篋1点が出土している。

62は深鉢形土器の口縁部付近の破片で、口縁部には横位隆帯が貼りつけられる。胴部には焼成後外面からの補修孔と思われる穿孔が2ヶ所認められるが、1ヶ所は未穿孔である。施文は内外面に行われ、外面は綾杉状縄文（原体不明）で、隆帯上にも認められる。内面は単節LR横位施文。他に同一個体の可能性のある胴部破片1点が出土している。胎土には植物繊維の混入が観察される。

現存高は5.6cmを計る。

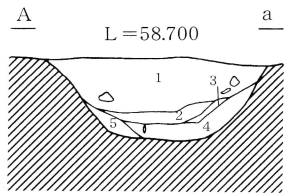
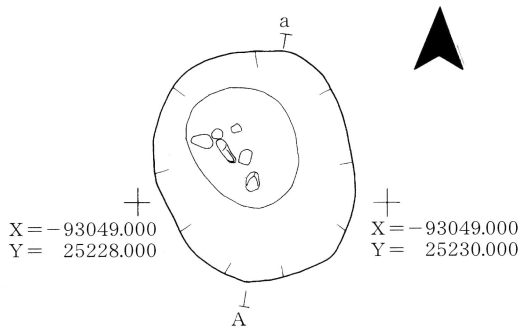
各土坑の詳細については土坑一覧表として割愛する。

（千田幸生）

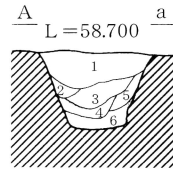
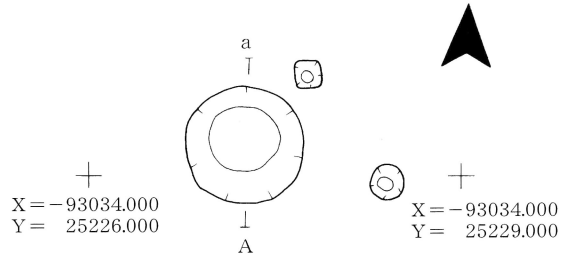
S K 37近世墓（第20・21図、写真図版18・24）

SD01の南北溝を壊して掘られたものである。掘り方の規模は長軸約67cm、短軸約52cm、深さ39cmほどである。棺は長方形の木棺で、長軸46cm、短軸27cm、深さ7cmほどである。湧水が激しく土層の観察に困難をきたし、はっきりとした解釈ができなかった。木棺中の北東隅には頭骨が置かれていた。他の骨片も検出されたが、残存状況が悪く部位を特定できなかった。木棺中には図示は出来なかったが木製の櫛、漆器碗、数珠玉、寛永通宝6枚が副葬されていた。木製の櫛、数珠玉は木箱のようなものに納められ、木棺内に副葬されたと思われる。図示してあるものは木製の漆器碗で、木棺の下部（木棺外）から出土しているものである。口径11.5cm、底径（高台径）6.0cm、器高8cmの物で、内外面とも黒漆が塗られている。高台の底部には直径2.5cmほどの円が赤漆で描かれ、その中に赤漆で「上」の文字が描かれている。

（佐藤良和）

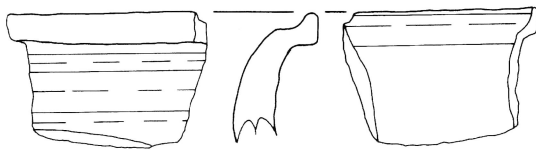


- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性大 締まり密
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性大 締まりやや密
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締まりやや密
黄褐色土ブロックを含む
- 4 10YR2/2 黒褐色 粘性大 締まり密
小礫を含む
- 5 10YR2/1 黒色 粘性大 締まりやや密

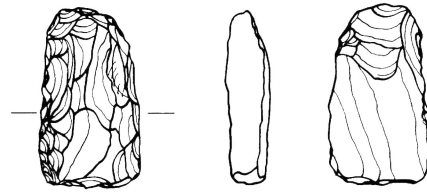


- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締まり密
明黄褐色土ブロックを多く含む
- 2 10YR2/3 黒褐色 粘性中 締まり密
明黄褐色土粒を少量含む
- 3 10YR3/1 黒褐色土 粘性中 締まりやや疎
明黄褐色土ブロックを少量含む
- 4 10YR2/1 黒色 粘性大 締まりやや疎
- 5 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まりやや疎
明黄褐色土粒を多く含む
- 6 10YR2/2 黒色 粘性大 締まりやや疎
明黄褐色土を多く含む

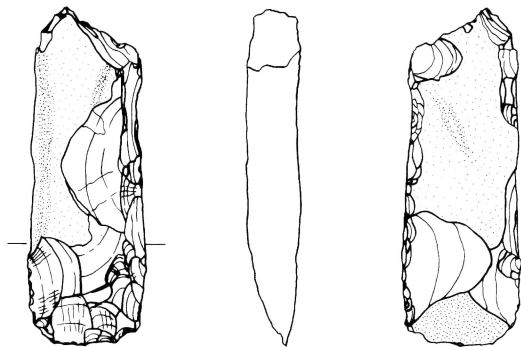
SE02



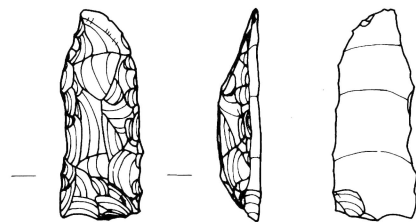
44



45



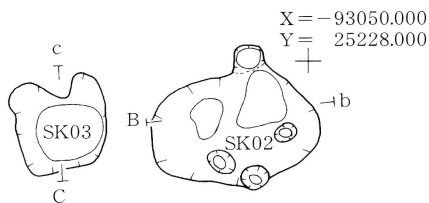
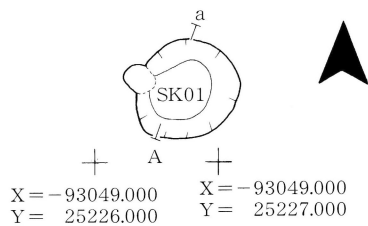
46



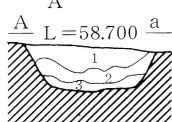
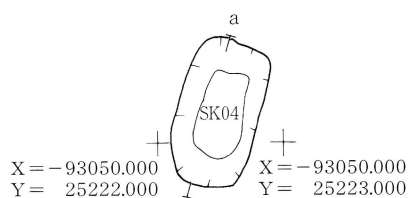
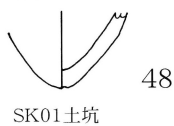
47

SE01

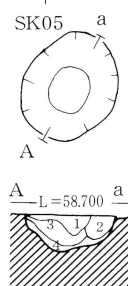
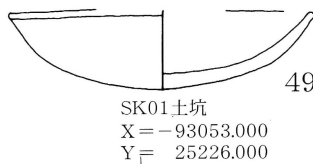
第13図 SE01,02井戸跡



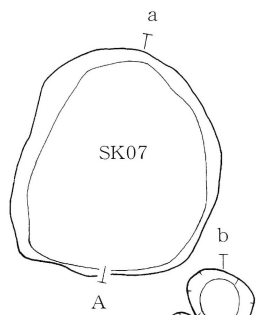
X = -93052.000
Y = 25226.000



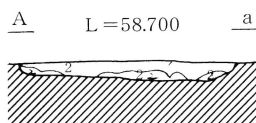
- 1 10YR2/1 黒色 粘性中 締めりやや疎
褐色土ブロックを含む
- 2 10YR2/1 黒色 粘性小 締めりやや密
黄色土、褐色土ブロックを含む
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めり密
黄色土ブロックを含む



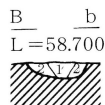
- 1 10YR2/1 黒色 粘性中 締めり密
遺物を含む
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めり密
炭化物を含む
- 3 10YR2/1 黒色 粘性中 締めりやや疎
黄色土粒を少量含む
- 4 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めり密
黄色土ブロックをまばらに含む



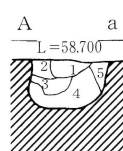
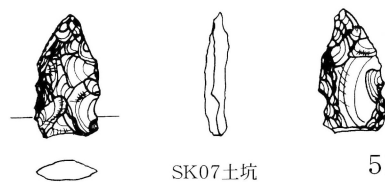
X = -93031.000
Y = 25225.000



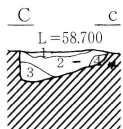
- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締めり密
遺物を含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締めり密



- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締めり密
遺物を含む
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締めり密



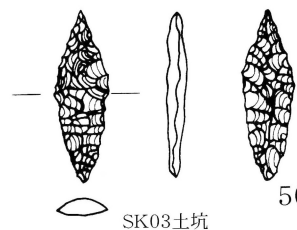
- 1 10YR2/1 黒色 粘性なし 締めり密
褐色土粒を含む
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めり密
褐色土粒を含む
- 3 10YR2/1 黒色 粘性中 締めりやや密
焼土粒、褐色土ブロック、炭化物を含む
- 4 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めり密
焼土粒、黄色土粒、炭化物をまばらに含む
- 5 10YR4/4 褐色 粘性なし 締めり密 地山?



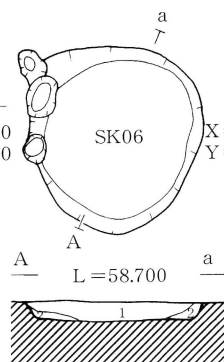
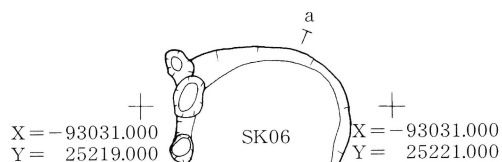
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めり密
- 2 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めりやや密
褐色土ブロック、遺物を含む
- 3 10YR3/2 黒褐色 粘性なし 締めり密
- 4 10YR2/3 黒褐色 粘性大 締めり密



- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めりやや密
黄褐色土粒を含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締めり密

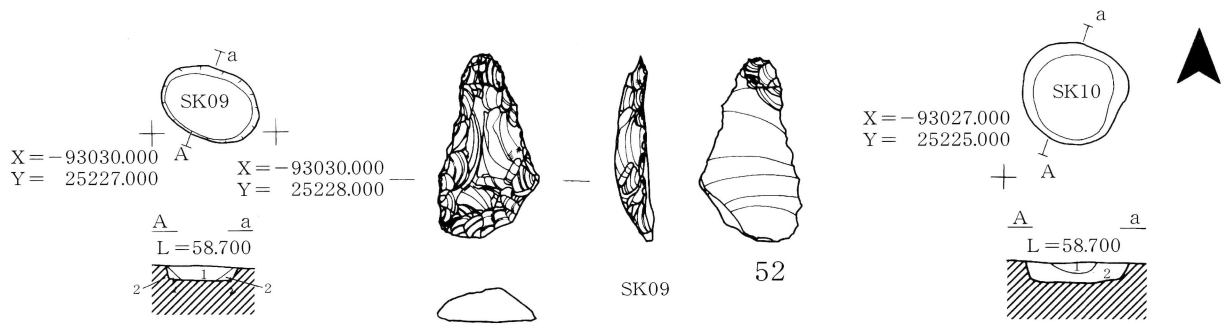


0 5cm



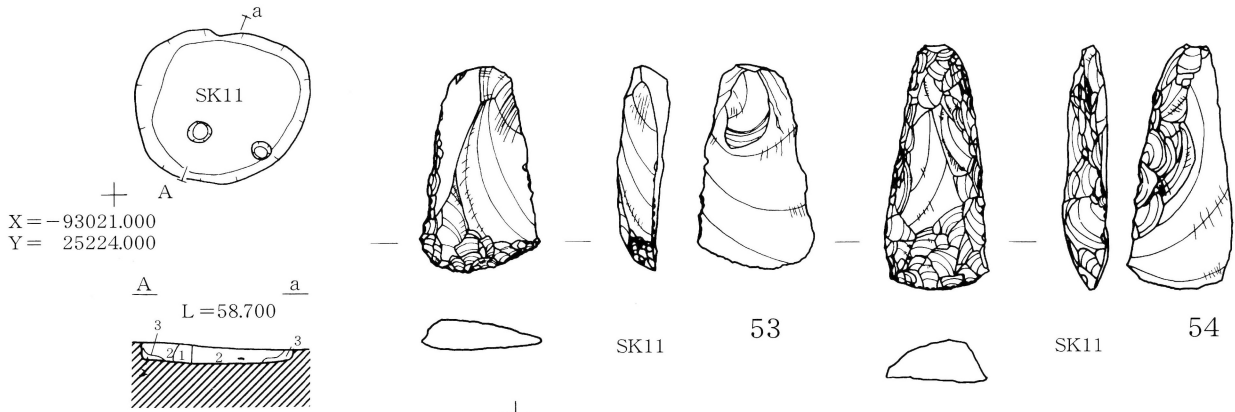
- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性小 締めり密
遺物を含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘性なし 締めり密

第14図 SK01~07土坑



- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締めり密
小礫を含む
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締めり密

- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締めり密
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締めり密



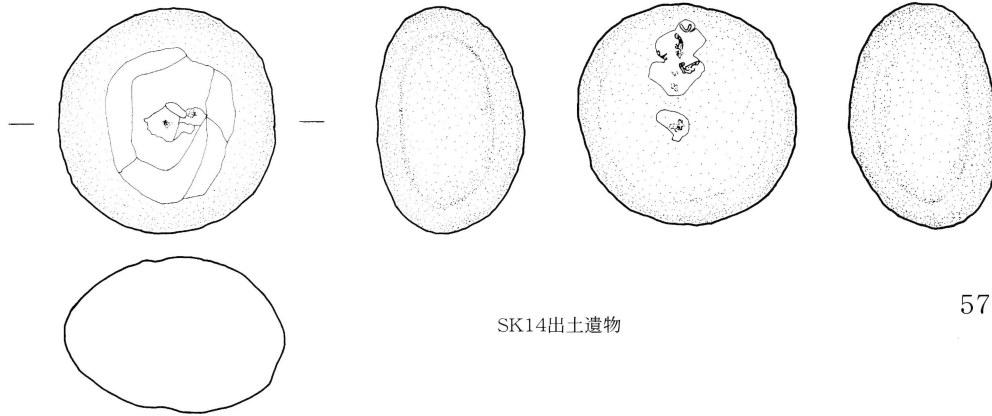
- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締めり密
遺物を含む
- 2 10YR4/6 褐色 粘性なし 締めり密
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めり密

- 1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締めり密
遺物を含む
- 2 10YR4/6 褐色 粘性なし 締めり密
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締めり密

- 1 10YR4/4 褐色 粘性なし 締めり密
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締めり密
- 3 10YR3/3 暗褐色 粘性大 締めり密

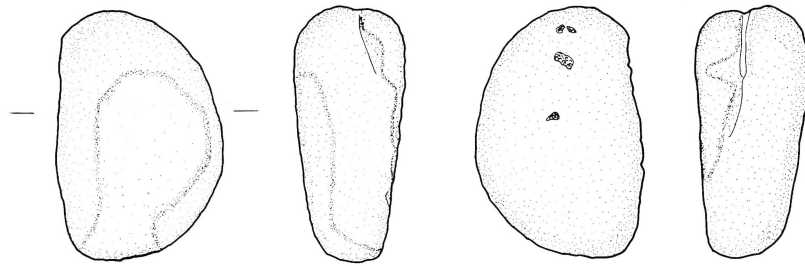
- 1 10YR2/1 黒色 粘性なし 締めり密
遺物を含む
- 2 10YR3/3 暗褐色 粘性大 締めり密

第15図 SK09~14土坑

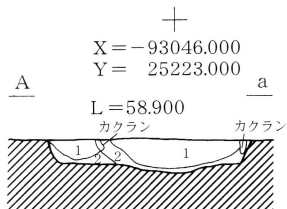
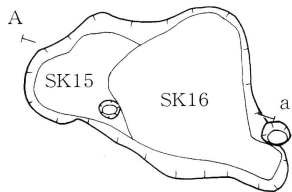
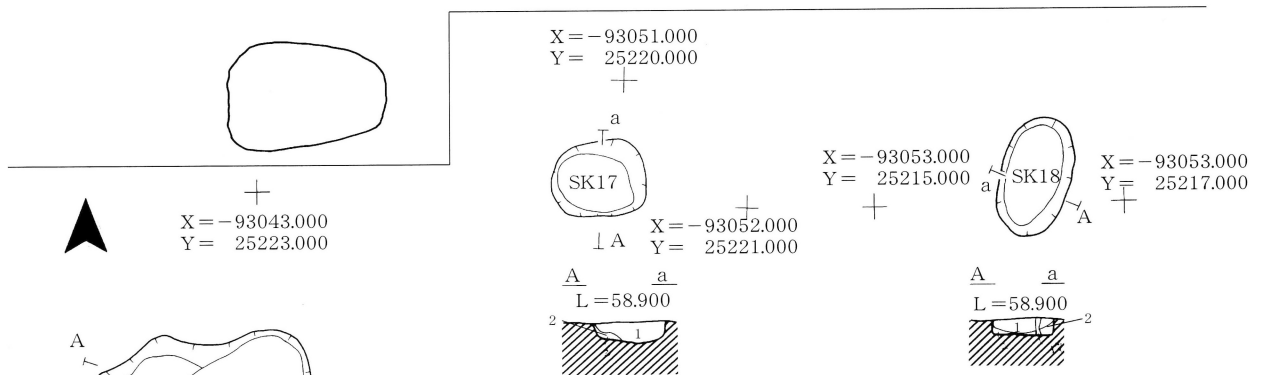


SK14出土遺物

57



58

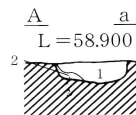


SK15

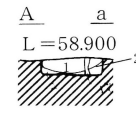
- 1 10YR4/4 褐色 粘性なし 締まり密
直径 1mm以下の白色軽石を多く含む
- 2 10YR4/6 褐色 粘性小 締まり密
直径 1mm以下の白色軽石を少量含む

SK16

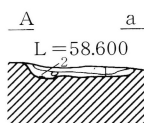
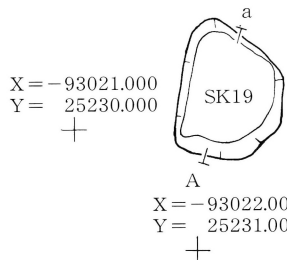
- 1 10YR2/4 暗褐色 粘性小 締まり密
直径 1mm以下の白色軽石及び炭化粒を少量含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘性小 締まりやや密
直径 1mm以下の白色軽石を少量含む



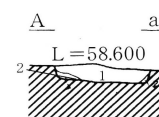
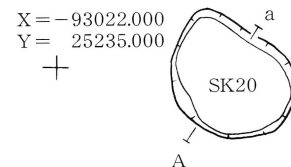
- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密
直径 1mm以下の白色軽石を含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
直径 1mm以下の白色軽石を含む



- 1 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
直径 1mm以下の白色軽石を含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘性小 締まりやや密
直径 1mm以下の白色軽石を含む

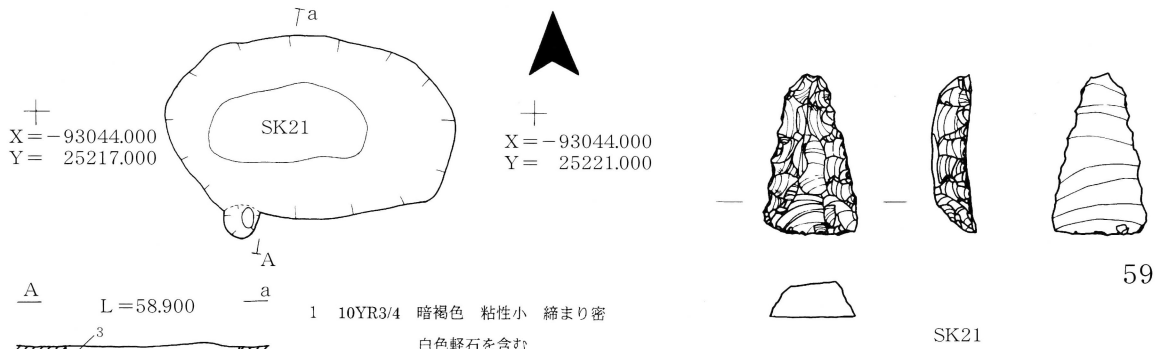


- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
明黄褐色土ブロックを少量含む
- 2 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まりやや密
明黄褐色土ブロックを多く含む

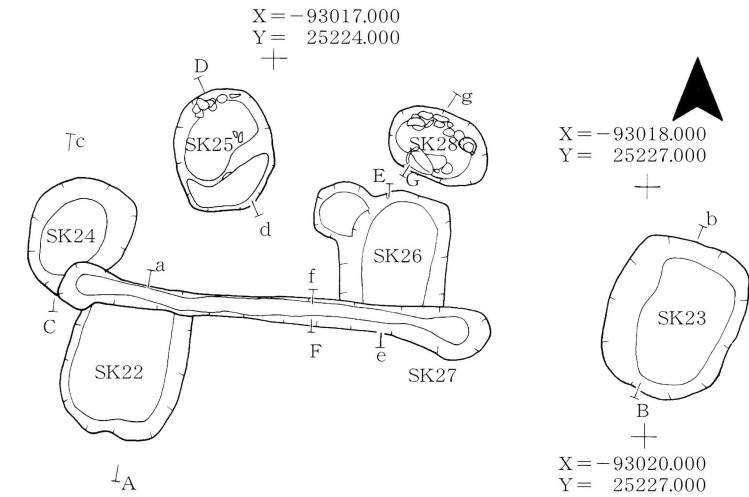


- 1 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まり密
褐色度粒をまばらに含む
- 2 10YR4/4 褐色 粘性中 締まりやや密

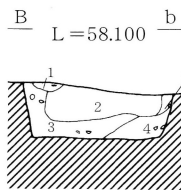
第16図 SK14~20土坑



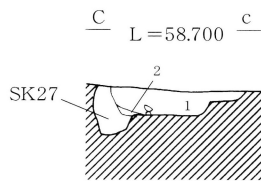
- A L=58.900 a
- 10YR3/4 暗褐色 粘性小 締まり密
白色軽石を含む
 - 10YR4/4 褐色 粘性小 締まり密
直径1mm以下の白色軽石を少量含む
 - 10YR4/6 褐色 粘性大 締まり密
 - 10YR3/4 暗褐色 粘性なし 締まり密



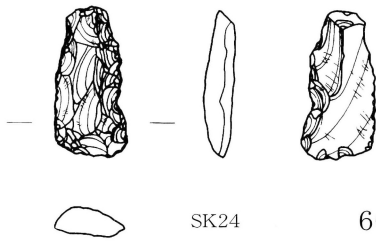
- A L=58.100 a
- 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締まりやや密
明黄褐色土ブロックを多く含む
 - 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まりやや疎
明黄褐色土ブロックを含む
 - 10YR3/3 暗褐色土 粘性大 締まりやや密
明黄褐色土ブロックを少量含む
 - 10YR2/3 黒褐色 粘性大 締まり密
明黄褐色土ブロックを少量含む



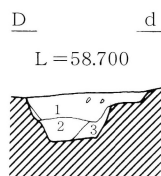
- 10YR6/6 明黄褐色 粘性なし 締まり疎
黒褐色土をまばらに含む
- 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締まり疎
明黄褐色土ブロックを多く含む
- 10YR3/3 暗褐色 粘性中 締まりやや密
明黄褐色土ブロックを多く含む
- 10YR2/3 黒褐色 粘性大 締まり密
明黄褐色土ブロック及び礫を多く含む



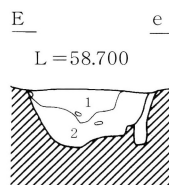
- 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まり密
明黄褐色土ブロックを含む
- 10YR3/2 黒褐色 粘性大 締まり密



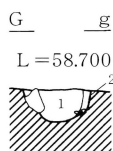
60



- 10YR3/3 暗褐色 粘性小 締まりやや疎
明黄褐色土ブロックを多く含む
- 10YR3/4 暗褐色 粘性大 締まり密
明黄褐色土ブロックを含む
- 10YR4/6 褐色 粘性中 締まりやや疎
明黄褐色土ブロックを多く含む

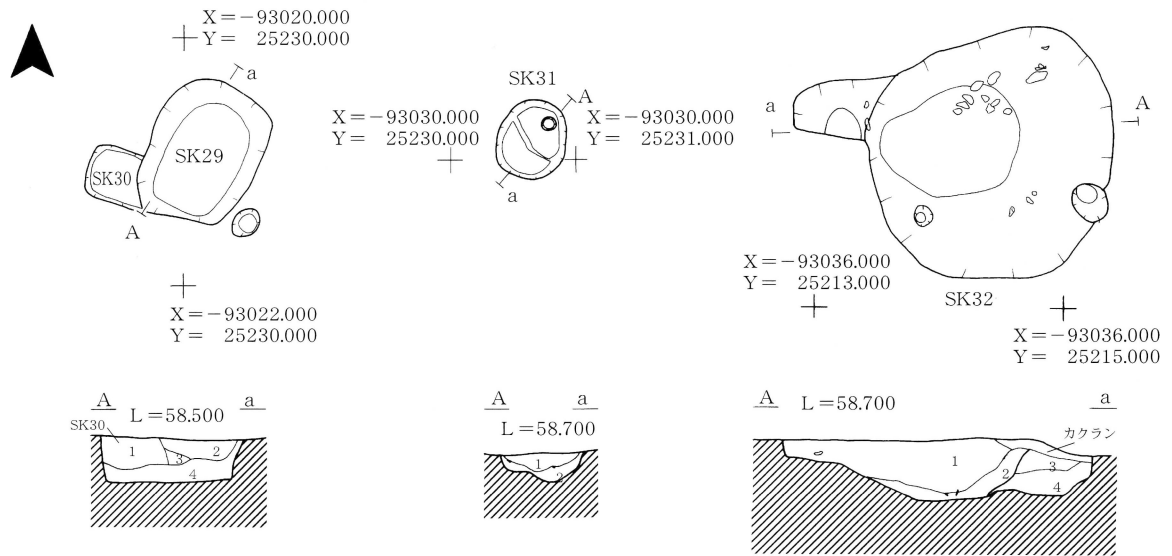


- 10YR2/3 黒褐色 粘性大 締まり密
炭化物、明黄褐色土ブロックを少量含む
- 10YR3/3 暗褐色 粘性大 締まり密
明黄褐色土ブロックを多く含む

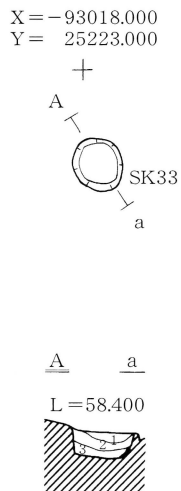


- 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締まり密 黄褐色土ブロックを多く含む
- 10YR2/3 黒褐色土 粘性中 締まりやや密 黄褐色土粒子を少量含む

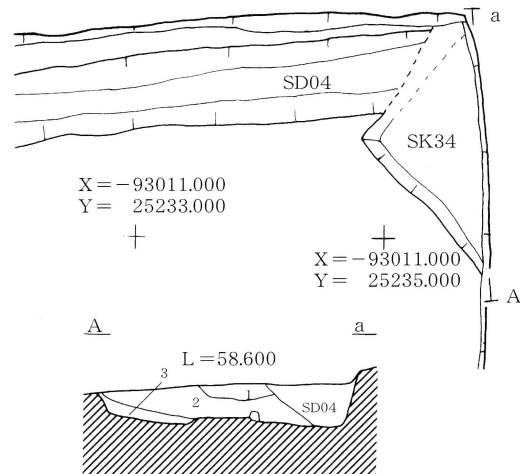
第17図 SK21~28土坑



- | | | |
|--|--|---|
| <p>1 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締めり密
黄褐色土ブロック、小礫を多く含む</p> <p>2 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締めり密
黄褐色土ブロックを多量に含む</p> <p>3 10YR2/3 黒褐色 粘性なし 締めり密
黄褐色土ブロックをまばらに含む</p> <p>4 10YR5/6 黄褐色 粘性小 締めり密
暗褐色土ブロックを含む</p> | <p>1 10YR2/3 黒褐色 粘性中 締めりやや密
白色軽石(直径1mm以下)を少量含む</p> <p>2 10YR3/4 暗褐色 粘性中 締めりやや密
明黄褐色土粒を少量含む</p> | <p>1 7.5YR3/4 暗褐色 粘性小 締めり密
炭化物を少量含む</p> <p>2 10YR3/3 暗褐色 粘性なし 締めり密 砂層</p> <p>3 10YR4/4 褐色 粘性なし 締めり密 砂層</p> <p>4 10YR4/3 にぶい黄褐色 粘性なし 締めり密 砂層</p> |
|--|--|---|



- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性中 締めりやや密
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性中 締めりやや密
明黄褐色土ブロックを含む
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性大 締めりやや密



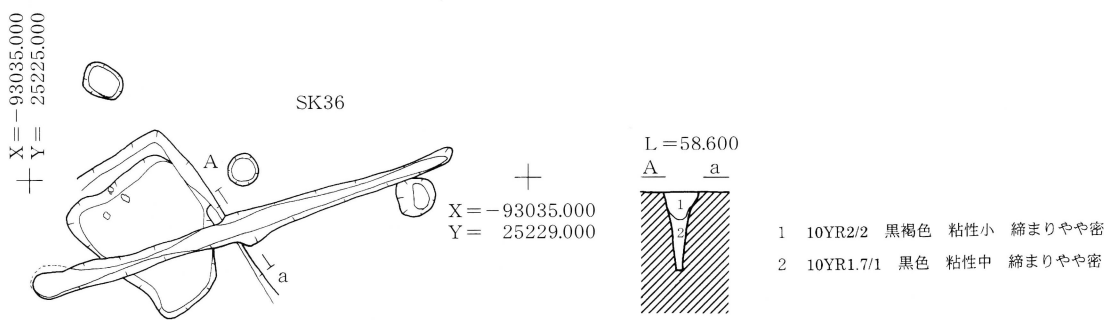
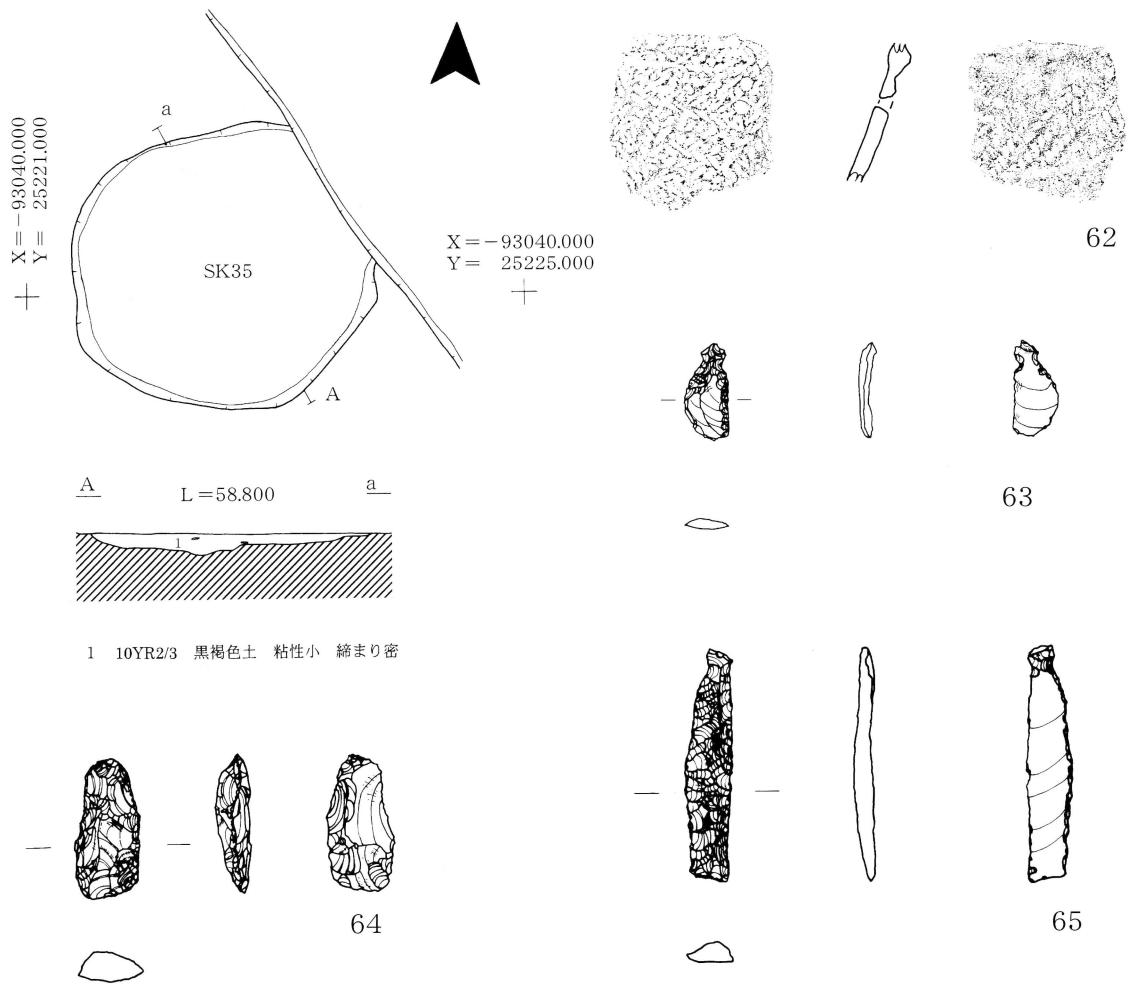
- 1 10YR2/2 黒褐色 粘性中 締めりやや密
黄褐色度粒を少量含む
- 2 7.5YR3/4 暗褐色 粘性中 締めりやや密
炭化物を少量含む
- 3 7.5YR4/6 褐色 粘性大 締めり密



SK34

61

第18図 SK29~34土坑

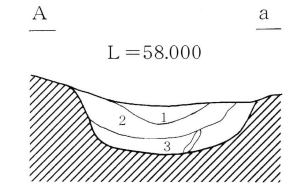
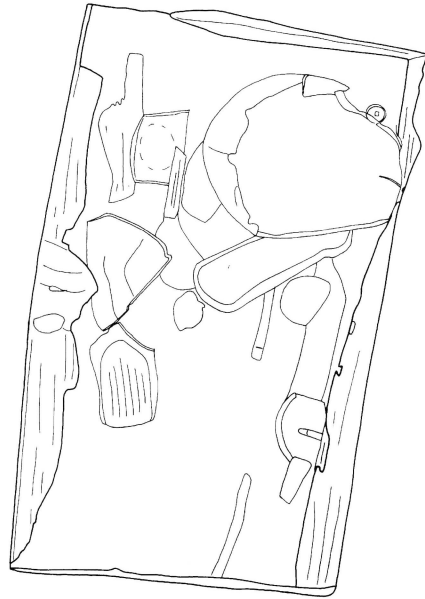


第19図 SK35,36土坑

X = -93014.000
Y = 25225.000



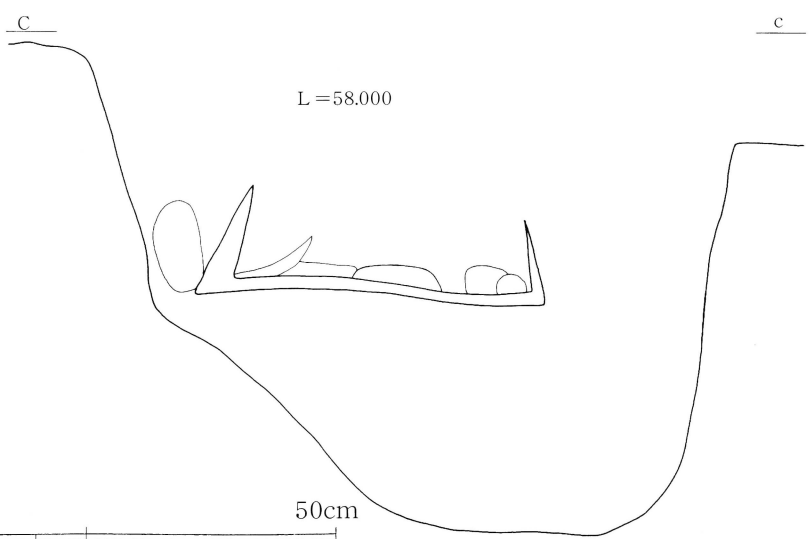
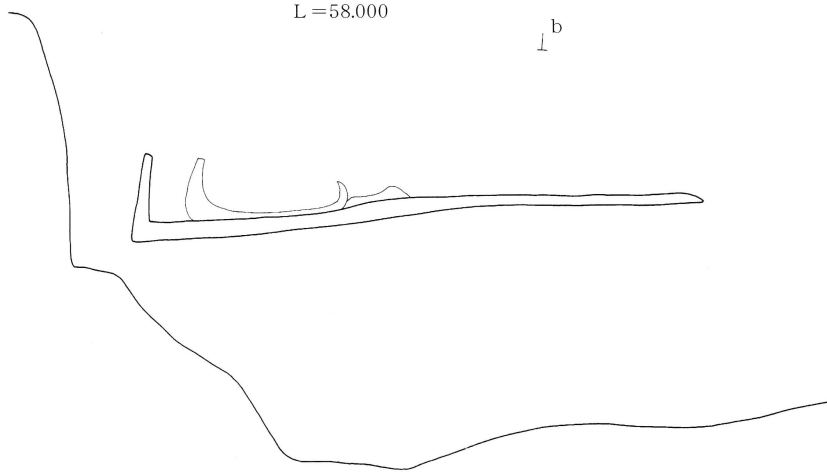
X = -93014.000
Y = 25228.000



0 1m

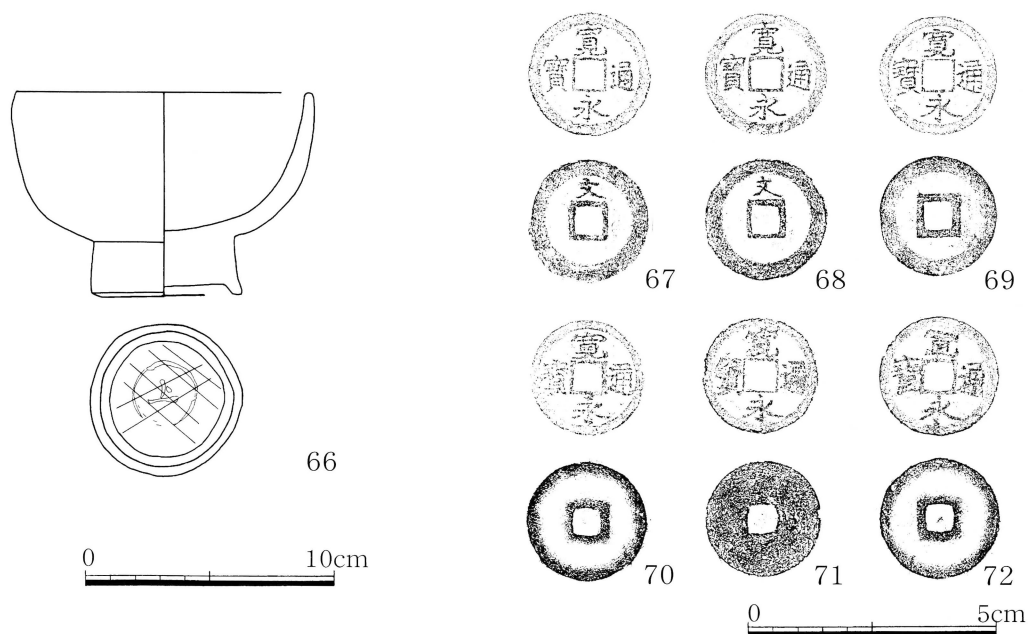
- 1 10YR2/3 黒褐色土 粘性中 締めりやや密
- 2 10YR3/3 暗褐色土 粘性中 締めりやや密
明黄褐色土ブロックを含む
- 3 10YR2/2 黒褐色 粘性大 締めりやや密

B



0 50cm

第20図 SK37近世墓



掲載番号	種類	直径(cm)	重さ(g)	初鑄年代	その他、備考	掲載番号	種類	直径(cm)	重さ(g)	初鑄年代	その他、備考
67	寛永通宝	2.6	3.41	1668年	文銭、新寛永	70	寛永通宝	2.4	2.43	1636年	古寛永
68	寛永通宝	2.5	3.02	1668年	文銭、新寛永	71	寛永通宝	2.4	2.43		
69	寛永通宝	2.5	3.71	1668年	新寛永	72	寛永通宝	2.5	2.96		

第21図 SK27近世墓出土遺物

S X 01 (第22・23図、写真図版19・24)

調査区の南部、西側で検出された。性格はわからない。埋土には直径1mm以下の白色軽石が混入している層がある。竪穴住居などの可能性も考えられたが、不整形な形をしており、また床面のレベルも一定しない。柱穴、焼土等も確認されなかった。今回記録はとらなかったがこのような遺構が他に3つほど確認されている。いずれもS X 01と類似する形態を示すものである。埋土も同様に白色軽石が混入し、場所によっては非常にしまった砂層が混入しているところもあった。

遺物は縄文土器片(73~75)と、石篋(76、77)などが出土している。(佐藤良和)

73は深鉢形土器の口縁部の破片と思われる、口唇部には刻みが施される。施文は上半部に横位多段の綾絡文(結節の回転文)、その下部にRL横位が施される。現存長11.5cmで、胎土に植物繊維の混入は認められない。

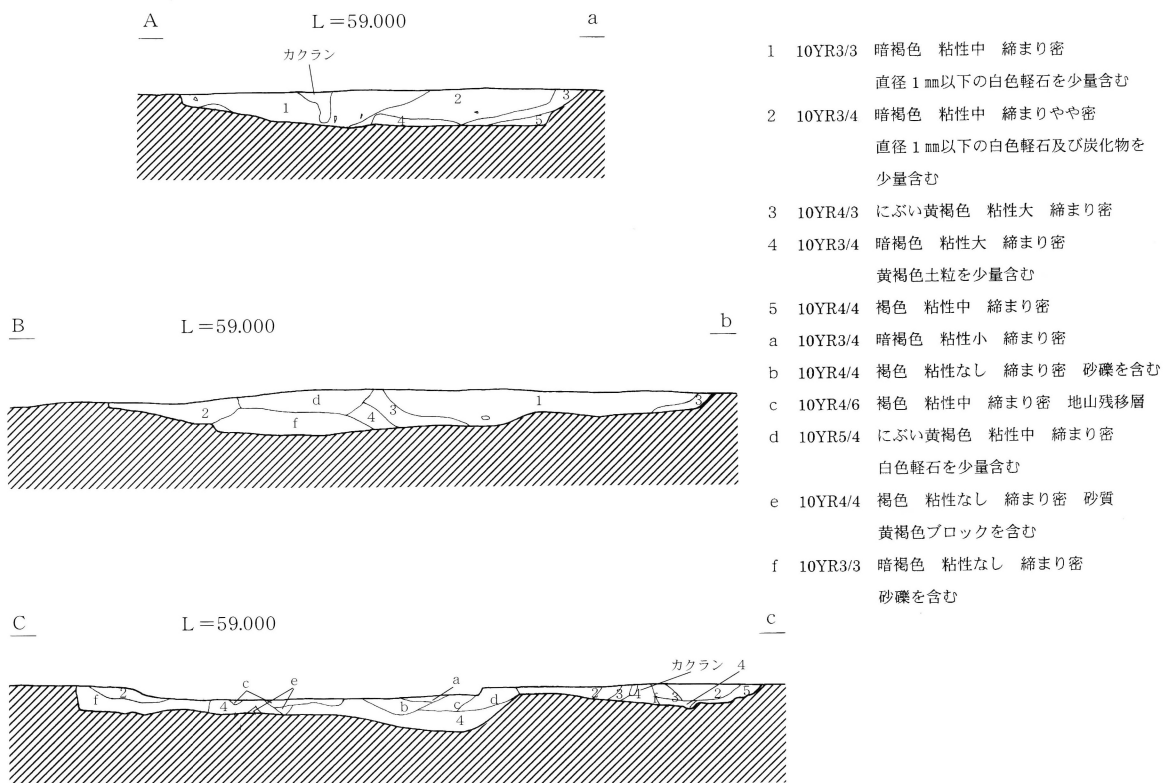
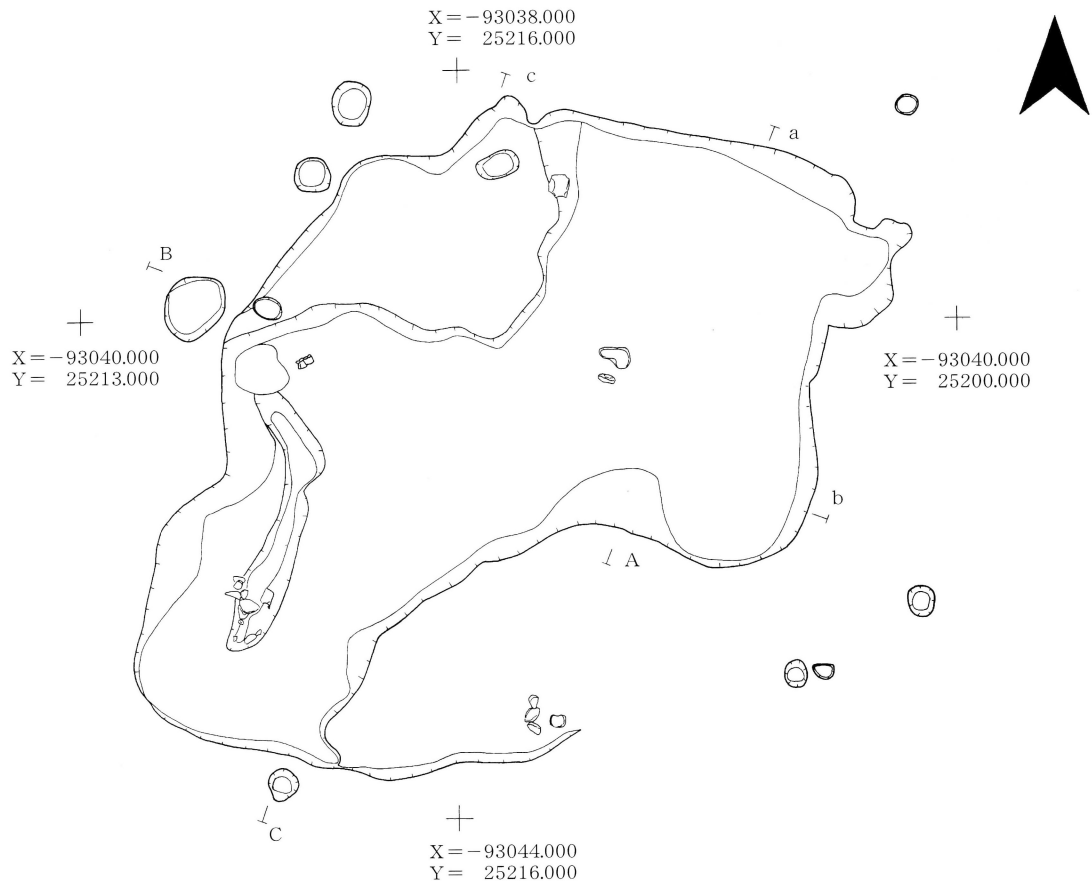
74は深鉢形土器の口縁部の破片と思われる、口縁部に刻みの名残りの縦の沈線が認められる。外面には0段多条LR横位施文。現存高4.4cm。

75は深鉢形土器の口縁部片と思われる、口唇部は波状となり、波底部に縄文原体圧痕が認められる。外面はRL横位施文。現存高4.8cm。(千田幸生)

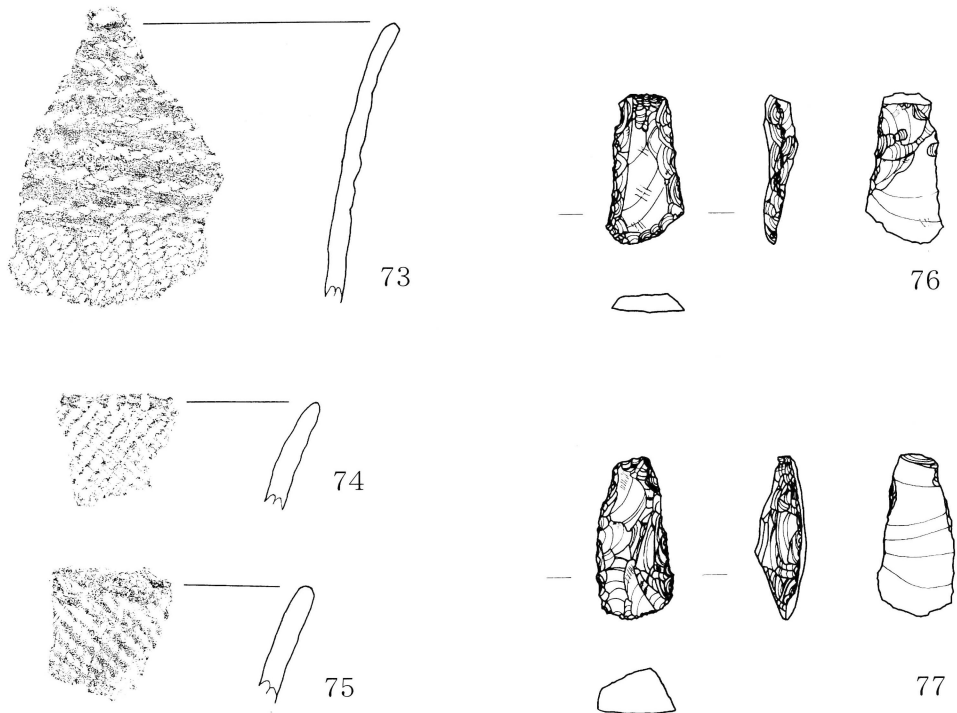
遺構外出土遺物(第24~27図、写真図版24~26)

縄文土器、石器が出土している。

78は深鉢形土器の口縁部片である。口唇部と口縁部の横位隆帯上に刻み(縄文原体RL押圧か)が施されている。RL横位施文で前存部に4帯の磨り消し帯が認められ、隆帯上にも転がす。内面はRL縦位



第22図 SX01



第23図 SX01出土遺物

をまばらに施す。ほかに同一個体が1点あり胎土には植物繊維が確認できる。現存高17.5cm。

79は深鉢形土器の口縁部片である。口縁部LR横位施文で結節部が認められる。胎土には植物繊維が認められ、現存高は5.8cmである。80は深鉢形土器の口縁部片で、口唇部肥やし絡条体圧痕文が施される。口縁部下にも横位の2条の沈線間に隆帯があり、同様の絡条体圧痕文が施される。胴部の地文は不明。現存高4.5cm。

81は深鉢形土器の口縁部片で、口唇部に刻み（原体圧痕か）が施される。外面にはLR縦位が、内面には横位条痕文が施文される。胴部には焼成後に外面から穿孔された補修孔と思われる小孔が見られる。胎土には植物繊維の混入が見られ、現存高は4.4cmである。

82は深鉢形土器の口縁部片で、口唇部に絡条体圧痕文が施される。内外面に擦痕条の条痕文が横位に施される。胎土には植物繊維の混入が見られ、現存高は2.1cmである。

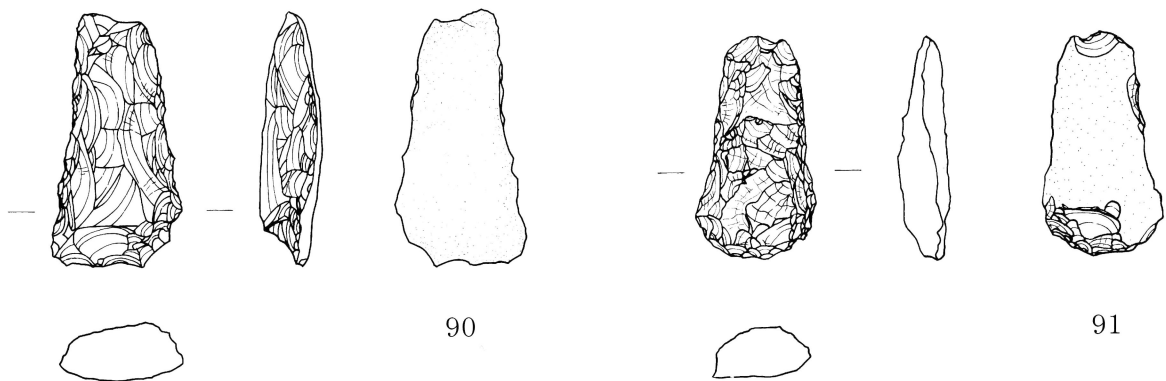
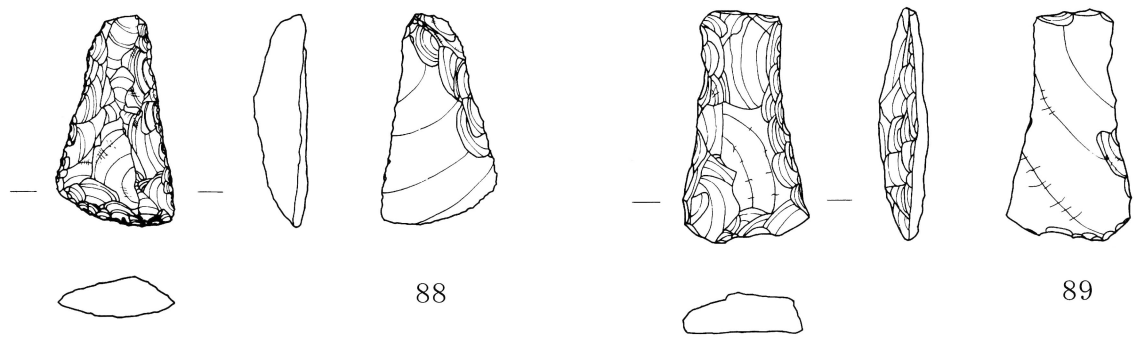
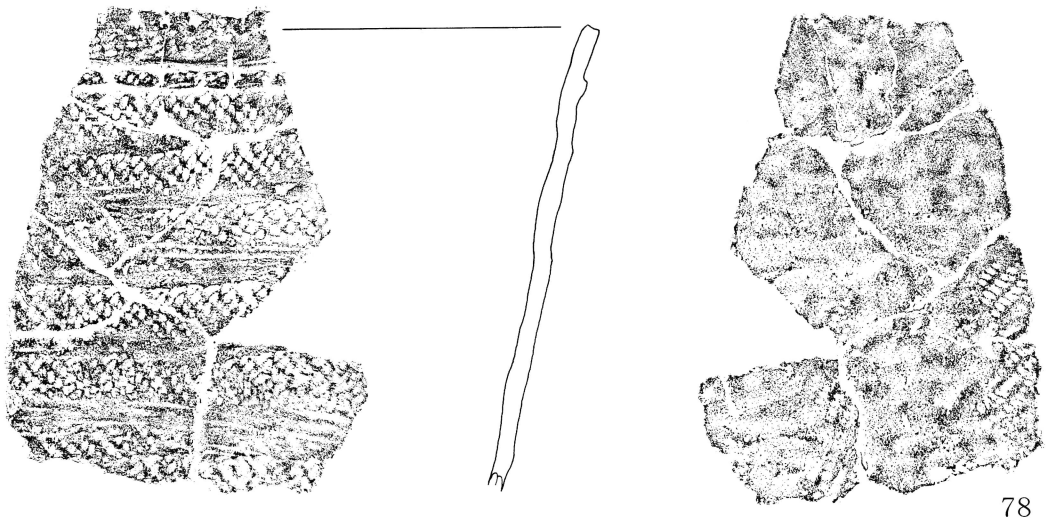
83は深鉢形土器の胴部片で、撚糸Rが外面斜位に、内面横位に施される。胎土には植物繊維の混入が認められ、現存高は5.8cmである。

84は深鉢形土器の胴部片と思われ、貝殻腹縁文と横位沈線文が施される。現存高は2.1cm。

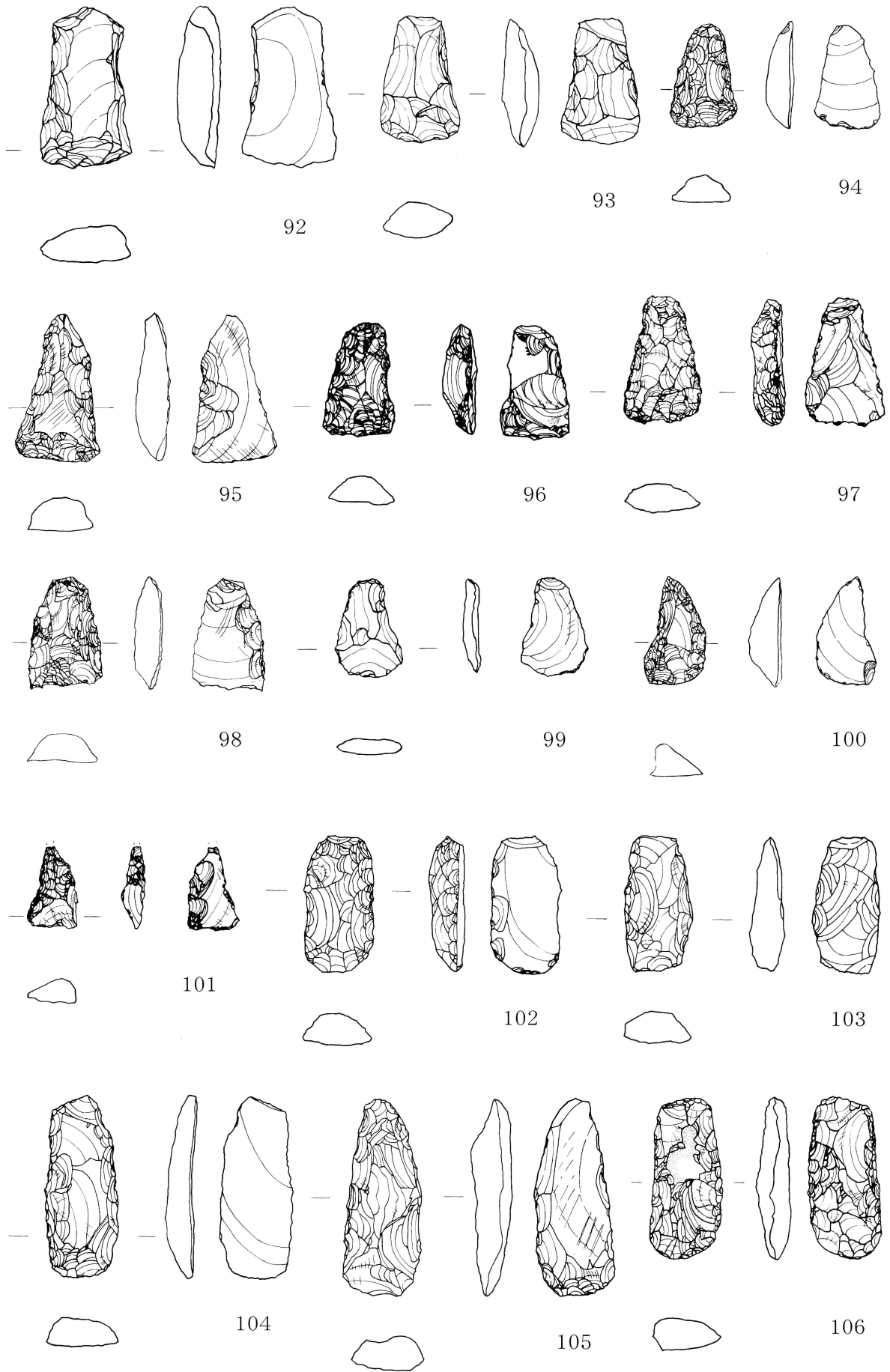
85、86は深鉢形土器の底部片で、尖底部である。外面に不定方向の単節縄文を施文する。85の胎土には植物繊維の混入が見られる。現存高はそれぞれ5.3cm、4.4cmである。

87も尖底深鉢形土器の尖底部片である。無文で胎土には植物繊維の混入が認められる。現存高2.7cm。

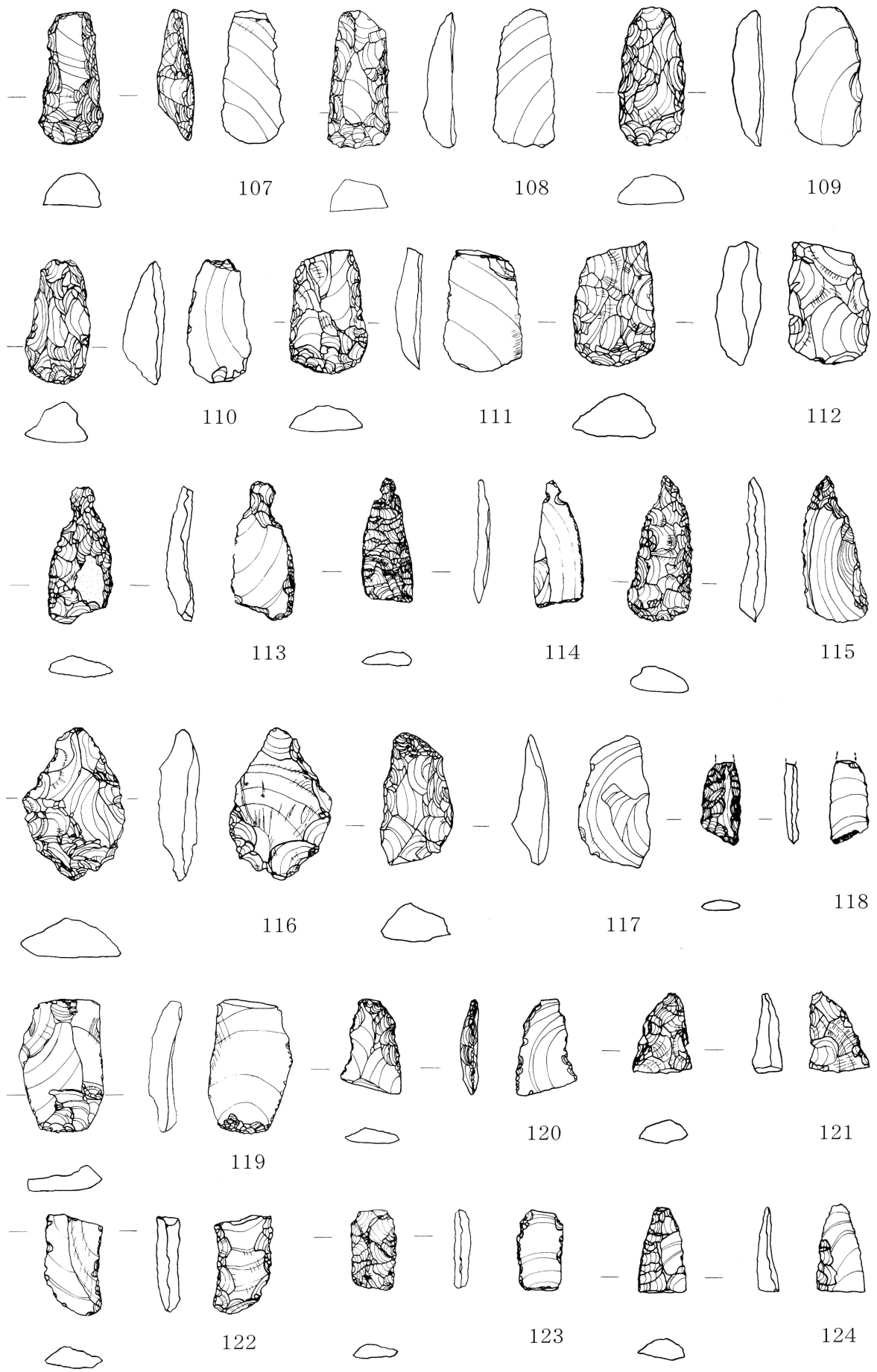
88以降は石器で、石筥（88～112）、石匙（113～115）、削搔器と思われる石器（116～124、134、139）、石鏃（125～127）、石錐（128～130）、黒曜石製のラウンドスクレイパー（131,132）、鉄石英製と思わ



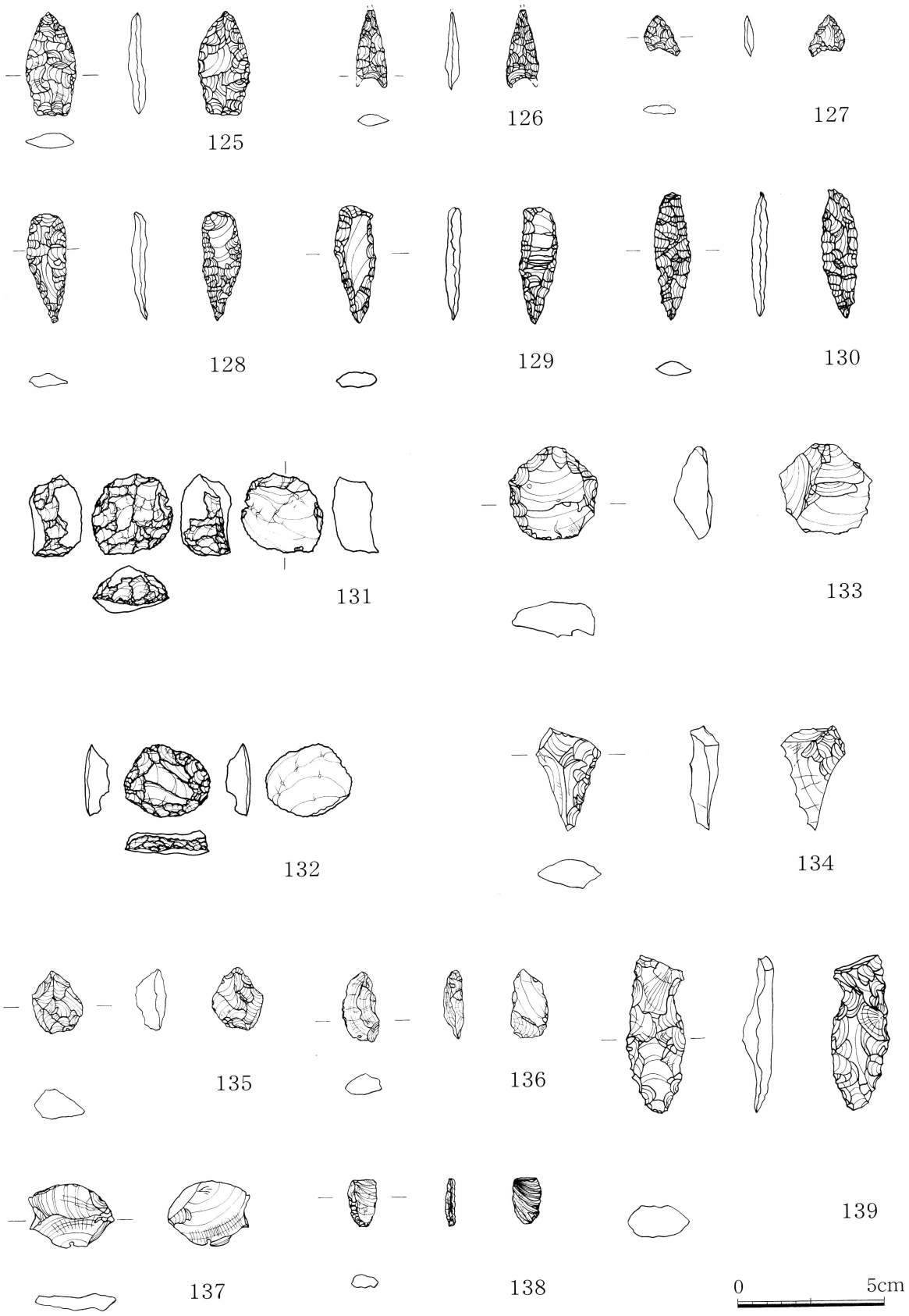
第24図 遺構外出土遺物 (1)



第25図 遺構外出土遺物 (2)



第26図 遺構外出土遺物 (3)



第27図 遺構外出土遺物 (4)

れるラウンドスクレイパー（133）黒曜石片(135～138)が出土している。紙数の都合上、法量等は一覧表とする。（千田幸生）

IV まとめ

1 縄文時代

本遺跡出土の縄文土器は量もそれほど多くなく、文様の抽出できたものは少ない。掲載した14点について特徴を示すと以下のとおりとなる。

1 群土器	1 類	貝殻腹縁文を施文するもの	84
2 群土器		表裏に文様を施文するもの	
	1 類	表裏に単節縄文を施文するもの	78
	2 類	表に単節縄文、裏に条痕文を施文するもの	81
	3 類	表裏に条痕文を施文するもの	82
	4 類	表裏に撚糸文を施文するもの	83
	5 類	表に綾杉状縄文、裏に単節縄文を施文するもの	62
3 群土器		表面にのみ縄文を施文するもの	
	1 類	単節縄文を施文するもの	75・79
	2 類	0段多条の単節縄文を施文するもの	74
	3 類	絡状体圧痕文を施文するもの	80
4 群土器		尖底部（底部の資料は他に1点あるが、4群2類のもので平底は確認されない）	
	1 類	縄文を施文する尖底部	85・86
	2 類	無文の尖底部	87
5 群土器	1 類	多段の綾絡文を施文するもの	73

これらの土器の時期は大まかに以下の通りであろう。

1 群土器は貝殻沈線文土器で早期中葉に位置付けられる。

2 群土器は表裏に施文される縄文条痕文土器群で、早期後半から早期末葉に位置付けられ、一部前期初頭に下るものもあろう。

3 群土器は表面にのみ縄文を施文する土器で、早期末葉から前期初頭に位置付けられる。

4 群土器は尖底部で2群、あるいは3群に伴うものと思われる。

5 群土器は前期初頭から前半に位置付けられる。

また、口唇部や口縁部の隆帯に縄文や絡条体を圧痕したもの75・(81)・82・78・80や、胎土中に植物繊維を含むもの62・74・78・79・81・82・83・85・87が多く、羽状縄文がないのもこの時期（早期後半から前期初頭）における本遺跡の特徴といえよう。（千田幸生）

また、石器については石筥が54点と最も多く出土し、石匙9点、石鏃6点、石錐3点が出土している。なお、この数字は破片も含めたもので、本報告書に掲載されていないものも含めている。

石筥は大別すると撥形に開くもの(81~101等)、と開かないもの(102~110等)とに分類できる。さらにこの両者は背面に細かな調整を加えるものと加えないものと2つに分類することも可能と思われる。

石匙は完形のものを見るとほとんどが縦長のもので、つまみがついている。

石鏃はすべて無茎鏃で、平基のものと凹基のものである。

石錐は錐部が一端のみにつけられ、明瞭なつまみが見つからないものである。また器体の前面に調整加工が施されている。

(佐藤良和)

2 古墳時代

今回の調査では竪穴住居跡を3棟検出した。規模は1辺が4.7~5.0m前後を計るもので、かまどが屋内の壁際に敷設されるものである。煙道や煙出しは持たず、かまどの初現期の様相を呈しているものとおもわれる。

遺物は土器のほとんどが土師器で、須恵器は短頸壺蓋と思われる口縁部の小片とハソウの肩部と思われる小片の2点のみである。どちらの破片とも5世紀後半から6世紀初頭と思われるものである。土師器の器種は坏、甕、鉢、壺類で、高坏は認められない。

坏はそのバリエーションが豊富で、同じ個体は認められない。口縁部形態では、口唇部でやや外方に摘み上げられるもの(1、2、11)、直立、または内湾し、外面に稜、内面に屈曲線が見られるもので、口縁部と体部の境の外面には屈曲線、内面には稜線が見られるもの(6、7、23)、体部が内湾しながら立ち上がり、口縁部が外傾、外椀するもので、(9、10)がみられる。この他には鉢形を呈する坏(3、12)が出土している。調整はどれもミガキを主体とし、口縁部にヨコナデが施されるもの(1、2、3、7、24)、と施されないものが見られる。底部は平底のもの(1、3、6~9、11)と丸底のもの(10、22)、上げ底のもの(2)と平底のものが圧倒的に多い。

甕は長胴のもので、球胴を呈するようなものはない。調整は口縁部にヨコナデ(15、16)を施すものとミガキが施されるもの(4)がある。体部にはミガキともケズリともつかない調整が内外面に施される。4の甕は内面に見られる口縁部と体部の境の稜が、他の甕に比べ鋭い。

壺は体部のみ出土である。胴部の最大径は中央部に求められる。外面の調整はミガキともケズリともつかない調整が施される。

鉢に関しては前述したとおりであるので省略する。

各遺物の時期であるが、これらの遺物は各々が竪穴住居跡出土の一括遺物であることから、1つのセットとして考えていきたい。

岩手県内の土師器、須恵器の編年では、過去に相原氏がI~X群に分類しており、このうち古墳時代の土器群はI~VII群に相当するものと思われる。このI~VII群中で、カマドが敷設され始める時期をIII群期としており、また、IV群期になると長い煙道を備えるとしている。このようなことから本遺跡出土の遺物、及び竪穴住居跡はIII群期に該当すると思われる。

このIII群期であるが、今回の調査によりさらに2つに分けられる可能性がある。III期の古いほうを仮にIII-1期とし、新しいほうをIII-2期とする。III-1期では昭和55年調査面塚遺跡のSI01竪穴住居跡出土資料が該当する。この期には高坏が伴わず、口縁部が内湾、外湾、または内傾、外傾をせずに立ちあがる深い椀形の坏が見られる。また、複合口縁を持つ甕の最終段階と思われる。

III-2期の資料としては、今年度調査の竪穴住居跡3棟から出土した遺物が該当すると思われる。

II	
III 1	
III 2	
IV	

第28図 土師器分類表

この期には坏の口縁部が直立するものや底部が平底のものが見られるようになり、甕は長胴化を示す傾向にある。また壺においては胴径よりも口径が小さくなり、胴部の球形が崩れてくる。今年度調査のSI01竪穴住居跡出土資料はこのⅢ－2期中でも比較的新しい時期と思われる。この後に継続するⅣ群期の土器は膳性遺跡G－15竪穴住居跡出土資料で、坏の口縁部が外湾し、大型化する傾向にある。

各期の時期であるが、本県でカマドが普及し始める時期が5世紀後半以降と考えられていることから、Ⅲ－1期を5世紀第3四半世紀、Ⅲ－2期を5世紀第4四半世紀としたい。

なお参考資料として、Ⅱ期（5世紀前半）に位置付けられると思われる西大畑遺跡Ca21竪穴住居跡から出土した資料も掲載した。この住居跡はかまどを持たず、また、甕の調整にハケメが残ることからこの期と考える。

※第28図で使用した実測図のうち、西大畑遺跡、膳性遺跡の遺物に関しては再実測をした。

結びにかえて

今回の調査では昭和55年次調査に引き続き5世紀後半頃の土師器と黒曜石が出土した。

面塚遺跡は今回が2度目の調査となり、その結果、縄文時代早期末～前期、古墳時代中期、奈良時代、中世、近世の複合遺跡であることがわかった。

今回の調査で検出した遺構、遺物に与えた年代は、非常に大まかで、まだまだ検討の余地は残されている。今後、該期の遺構が増加することは確実であり、土器の編年、さらには当地の古墳時代の様子が明らかになっていくことだろう。

引用・参考文献

- 相原 康二 大渡野遺跡（岩手県埋蔵文化財調査報告書第32集 東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－Ⅱ－ 岩手県教育委員会 1979年）
岩手県南部における古代の土器群編年試案（東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書－ⅩⅠ－岩手県教育委員会 1981年）
- 池田 雅美 風土の特性（水沢市史1 原始－古代 水沢市史編纂委員会 1974年）
（財）岩手県埋蔵文化財センター 中半入遺跡現地説明会資料（1998年）
- 高木 晃 大日向Ⅱ遺跡発掘調査報告書（岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第273集（財）岩手県埋蔵文化財センター 1998年）
- 水沢市教育委員会 面塚遺跡（岩手県水沢市文化財報告書第15集 水沢遺跡群範囲確認調査 1986年）
- 山口 義伸 他 表館(1)遺跡Ⅲ・発茶沢(1)遺跡Ⅳ（青森県埋蔵文化財調査報告書第120集 青森県教育委員会 1989年）

土坑No.	規 模			出 土 遺 物	時期	性格	その他備考
	長軸	短軸	深さ				
1	直径0.8		0.4	尖底深鉢、土師器坏	不明	不明	
2	1.36	0.84	0.36	なし	不明	不明	
3	0.72	0.58	0.24	石鏃?	縄文?	墓壙?	不整形
4	1.18	0.66	0.34	なし	近世?	不明	隅丸長方形
5	0.88	0.76	0.6	なし	不明	不明	楕円形
6	1.62	1.34	0.15	なし	不明	不明	楕円形
7	1.88	1.58	0.16	石鏃?	縄文?	不明	楕円形
8	0.6	0.54	0.12	なし	不明	不明	不整形
9	0.78	0.66	0.12	石篋	縄文?	不明	楕円形
10	直径0.98		0.17	なし	不明	不明	不正円形
11	直径1.14		0.14	石篋2点	縄文?	不明	不正円形
12	1.26	1	0.24	なし	不明	不明	底面すり鉢形
13	1.6	0.94	0.16	土師器甕	奈良?	不明	楕円形
14	2.16	1.44	0.48	石篋、磨石、凹石	縄文?	不明	楕円形
15	不明	0.64	0.18	なし	不明	不明	SK16に切られる
16	1.62	1.38	0.24	なし	不明	不明	SK15を切る
17	0.76	0.58	0.14	なし	不明	不明	不整形
18	0.98	0.56	0.14	なし	不明	不明	長楕円形
19	1.14	0.82	0.08	なし	不明	不明	不整形
20	1.08	0.82	0.14	なし	不明	不明	長楕円形
21	2.32	1.46	0.46	石篋	縄文?	不明	楕円形
22	1.19	0.96	0.24	なし	近世?	墓壙?	隅丸長方形?
23	1.26	1.04	0.4	なし	近世?	墓壙?	隅丸長方形?
24	1.18	0.8	0.19	なし	不明	不明	楕円形
25	1	0.8	0.37	なし	不明	不明	楕円形
26	1.04	0.84	0.46	なし	近世?	墓壙?	隅丸長方形?
27	3.48	0.22	0.42	なし	縄文	陥し穴	
28	0.84	0.57	0.24	なし	近世?	墓壙?	楕円形?
29	1.14	0.91	0.34	なし	近世?	墓壙?	隅丸長方形
30	0.74	0.44	0.25	なし	不明	不明	隅丸長方形
31	0.64	0.58	0.23	なし	不明	不明	楕円形
32	直径1.86		0.48	なし	不明	不明	不正円形
33	0.47	0.4	0.2	なし	不明	不明	楕円形
34	不明	不明	0.27	削搔器	縄文?	不明	方形?
35	直径2.2		0.14	縄文土器、石匙2点、石篋	縄文?	不明	不正円形
36	3.52	0.36	0.62	なし	縄文	陥し穴	

表1 土坑一覧表

掲載 番号	出土地	層位	器 種	口径	底径	器高	調 整		その他備考
							外 面	内 面	
1	SI01	床面	坏	15.2	4.0	6.7	ヨコナデ、ミガキ、ケズリ	ヨコナデ、ヘラナデ	口縁端部付近内外面赤色塗彩
2		床面	坏	17.8	4.4	6.3	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ、ミガキ	口縁端部付近内外面赤色塗彩、上げ底
3		床面	椀形坏	17.6	4.4	6.3	ヨコナデ、ミガキ	ヨコナデ?	外面赤色塗彩
4	1土	床面	甕	20.5	6.0	31.5	ヨコナデ、ミガキ?	ヨコナデ、ミガキ?	胴部中央に穿孔
5		床面	須・ハソウ?	—	—	(2.4)	タタキメ?	不明	外面灰黄色灰
6	1土	埋土	須・蓋	—	—	(1.4)	ヨコナデ	ヨコナデ	外面青黒色灰釉
7	SI02 2・4土	埋土	坏	(12.6)	3.2	5.9	ミガキ	ミガキ	内外面赤色塗彩
8		埋土	坏	14.4	4.9	6.5	ハケメ、ミガキ、ケズリ、ヨコナデ	ミガキ	内面粉厚痕、内外面赤色塗彩
9		埋土	坏	15.2	3.0	6.0	ハケメ、ミガキ	ミガキ	内外面赤色塗彩
10		埋土	坏	(14.0)	4.2	7.1	ケズリ、ミガキ	ミガキ	内外面赤色塗彩
11	カマド、1土	埋土	坏	15.4	—	(7.4)	ミガキ	ミガキ	内面粉厚痕、内外面赤色塗彩
12		埋土	椀形坏	(17.6)	—	(6.3)	ミガキ	ミガキ	内外面赤色塗彩
13	2土	埋土	鉢形?坏	13.4	5.4	16.0	ミガキ、ケズリ?	ミガキ、指ナデ	外面煤付着、内外面赤色塗彩
14	1土	埋土	壺	—	(5.6)	(10.7)	ミガキ (ケズリ)	ナデ	
15	1土	埋土	鉢	(18.6)	(4.0)	16.6	ミガキ (ケズリ)	ミガキ (ケズリ)	内外面赤色塗彩、胎土粗雑、上げ底気味
16	カマド	埋土	甕	17.0	—	(18.6)	ヨコナデ、ミガキ (ケズリ)	ヨコナデ、ミガキ (ケズリ)	
17		埋土	甕	16.0	—	(27.0)	ヨコナデ、ミガキ (ケズリ)	ヨコナデ、ミガキ (ケズリ)	
18	5土	埋土	甌	—	—	(5.4)	ミガキ (ケズリ)	ミガキ (ケズリ)、ケズリ	
22	SI03 2土	埋土	坏	(13.6)	—	7.0	ミガキ	ミガキ	内外面赤色塗彩
23	3土	埋土	坏	(15.4)	—	(5.5)	ハケメ、ミガキ	ミガキ	内外面赤色塗彩
24	1土	埋土	坏	(17.8)	—	(5.7)	ハケメ、ミガキ、ヨコナデ	ミガキ	内外面赤色塗彩
25	PP1	埋土	壺	—	—	(9.2)	ミガキ	不明	内外面赤色塗彩
26		埋土	甕	—	(7.0)	(2.6)	不明	不明	底部内面播鉢状
33	SD02	埋土	壺?	—	—	(5.9)	ロクロ	ロクロ	底部片、外面釉
44	SE01	埋土	甕	—	—	(5.3)	ロクロ	ロクロ	内外面釉
49	SK01	埋土	坏	(12.0)	—	3.1	不明	不明	内外面器面荒れ
55	SK13	埋土	甕	(10.5)	—	(7.9)	ミガキ、ヨコナデ	ヨコナデ、ミガキ	8世紀代?

※数値はすべてcm、()内の数値は推定値及び現存高

表2 土師器等観察表

掲載番号	出土地	器種	現存高	原 体		その他、備考
				外 面	内 面	
62	SK35	深鉢	5.6	不明	単節LR	外面綾杉状縄文、横位隆帯、補修孔?
73	SX01	深鉢	11.5	RL	—	口唇部刻み、横位多段綾絡文(結節回転文)
74		深鉢	4.4	LR	—	口縁部縦位沈線、0段多条
75		深鉢	4.8	RL	—	口唇部波状、縄文原体圧痕
78	遺構外	深鉢	17.5	RL	RL	横位隆帯、磨り消し帯、植物繊維混入
79		深鉢	5.8	LR	—	植物繊維混入
80		深鉢	4.5	不明	—	絡条体圧痕文、2条沈線、隆帯
81		深鉢	4.4	LR	横位条痕文	口唇部刻み、補修孔
82		深鉢	2.1	擦痕条痕文	条痕文	植物繊維混入
83		深鉢	5.8	R	R	撚り糸、植物繊維混入
84		深鉢	2.1	貝殻腹縁文	—	横位沈線文
85		深鉢	5.3	不明	—	単節縄文
86		深鉢	4.4	不明	—	単節縄文
87		深鉢	2.7	無文	—	植物繊維混入

表3 縄文土器観察表

掲載番号	出土地	層位	器 種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量 (g)	その他備考
19	SI02	床面	紡錘車	直径4.3		1.2	31.24	裏面破損
20	カマド	埋土	削搔器?	1.9	2.8	0.6	3.70	黒曜石
21		埋土	削搔器?	1.5	2.2	1.0	3.59	黒曜石
27	SD01	埋土	石篋	9.2	2.9	1.7	68.09	
28		埋土	石篋	8.4	3.7	2.3	99.81	
29		埋土	石篋	9.4	3.5	2.7	87.01	
30		埋土	石篋?	8.1	4.6	2.8	127.62	
31		埋土	凹石?	15.3	7.6	4.4	729.83	
32		埋土	磨石	22.0	8.7	4.5	1470.35	
34	SD02	埋土	石篋	(5.3)	3.4	1.8	90.44	
35		埋土	石篋	6.0	2.8	1.0	30.05	
36		埋土	石篋	7.2	3.5	1.7	63.66	
37		埋土	石篋	9.0	3.3	1.8	90.44	
38		埋土	石篋	6.9	4.2	1.6	62.10	
39		埋土	石篋	8.0	2.8	1.4	47.19	
40		埋土	石鍬	12.4	4.9	2.4	230.03	
41		埋土	石篋	8.5	3.2	1.5	88.99	
42		埋土	環状石斧?	(5.4)	(20.0)	2.0	220.19	破損
43	SD04	埋土	石篋?	9.7	4.2	2.0	98.02	
45		埋土	石篋?	7.2	3.7	1.5	66.37	
46		埋土	石斧	13.5	4.4	2.1	198.68	
47		埋土	石篋	8.4	3.3	1.7	57.87	
50	SK03	埋土	石錐	3.5	1.0	0.4	1.13	
51	SK07	埋土	削搔器?	2.6	4.6	0.7	11.41	
52	SK09	埋土	石篋	7.2	2.7	1.1	36.12	
53	SK11	埋土	石篋	8.0	3.7	1.5	61.57	
54		埋土	石篋	9.6	3.5	1.1	75.28	
56	SK14	埋土	石篋	6.0	3.0	1.5	27.73	
57		埋土	凹石	9.0	8.5	5.7	501.13	
58		埋土	磨石	10.0	6.6	3.9	438.13	
59	SK21	埋土	石篋	6.2	2.9	1.3	36.82	
60	SK24	埋土	石篋	5.9	2.7	0.9	23.05	

表4 石器観察表(1)

掲載番号	出土地	層位	器種	長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量 (g)	その他備考
61	SK34	埋土	削搔器	3.6	4.0	1.0	17.88	
63	SK35	埋土	石匙	3.8	1.6	0.3	2.56	
64		埋土	石筥	5.5	2.3	1.0	17.35	
65		埋土	石匙	14.5	1.7	0.7	12.89	
76	SX01	埋土	石筥	5.6	2.5	0.8	24.81	
77		埋土	石筥	6.5	3.0	1.9	42.21	
89	遺構外		石筥	9.1	3.7	1.6	92.68	
90			石筥	10.1	3.5	2.2	123.28	
91			石筥	9.0	3.5	1.5	88.74	
92			石筥?	8.6	4.0	2.7	112.70	
93			石筥	6.7	3.2	1.9	53.28	
94			石筥	5.5	2.8	1.3	21.62	
95			石筥	8.0	3.2	1.5	45.85	
96			石筥	6.0	3.9	1.6	36.68	
97			石筥	6.9	3.1	1.5	45.94	
98			石筥	5.8	3.4	1.5	32.32	
99			石筥?	5.3	2.5	0.5	15.09	
100			石筥?	5.7	2.6	1.2	22.46	
101			石筥?	2.7	4.2	1.0	11.73	
102			石筥	7.2	3.5	1.5	63.85	
103			石筥	7.3	3.4	1.1	54.81	
104			石筥	9.7	3.6	1.4	77.06	
105			石筥	10.6	3.9	1.5	96.42	
106			石筥	8.6	3.7	1.6	62.00	
107			石筥	7.3	3.4	1.1	54.81	
108			石筥	7.4	3.0	1.1	44.31	
109			石筥	7.6	3.7	1.6	58.03	
110			石筥	6.7	2.9	2.0	58.48	
111			石筥	(6.6)	3.7	1.2	38.71	破損
112			石筥	(6.8)	4.2	2.0	44.62	破損
113			石匙	7.3	3.3	1.0	25.38	
114			石匙	6.7	2.6	0.5	11.98	
115			石匙	7.9	2.8	1.0	30.25	
116			削搔器?	8.3	5.1	1.8	69.57	
117			石筥	6.9	3.6	1.6	48.28	
118			石匙?	(4.4)	2.0	0.6	6.36	破損
119			削搔器?	4.2	6.9	0.8	38.34	
120			石筥?	(5.0)	2.6	0.9	13.96	破損
121			石槍?	(4.4)	2.0	1.1	13.64	破損
122			石匙?	(5.6)	3.8	0.9	20.78	破損
123			石匙?	(4.2)	2.3	0.6	10.08	破損
124			石槍?	(4.6)	2.0	0.6	8.47	破損
125			石鏃	3.5	1.7	0.5	2.88	
126			石鏃	2.6	0.9	0.4	0.92	
127			石鏃	1.1	1.0	0.4	0.34	
128			石錐	3.6	1.3	0.4	1.99	
129			石錐	3.9	1.2	0.4	2.28	
130			石錐	4.3	1.1	0.5	2.09	
131			削搔器	2.6	2.8	1.6	3.41	ラウンドスクレイパー?、黒曜石
132			削搔器	2.4	2.9	0.7	3.02	ラウンドスクレイパー?、黒曜石
133			削搔器	5.0	3.0	1.0	11.20	ラウンドスクレイパー?
134			削搔器?	1.9	2.5	0.7	4.16	
135			削搔器?	1.6	1.7	0.5	2.47	黒曜石
136			削搔器?	1.3	2.4	0.7		黒曜石
137			削搔器?	2.0	2.6	0.4	3.22	黒曜石
138			削搔器?	1.0	1.6	0.4		黒曜石
139			削搔器?	5.2	1.9	0.9	8.31	

表5 石器観察表(2)

写 真 图 版



面塚遺跡空中写真(1) 南から



面塚遺跡空中写真(2)

写真図版1 面塚遺跡全景(1)



南部全景



北部全景

写真図版2 面塚遺跡全景(2)



全 景



1・2号土坑全景



1号土坑完掘



1号土坑埋土断面



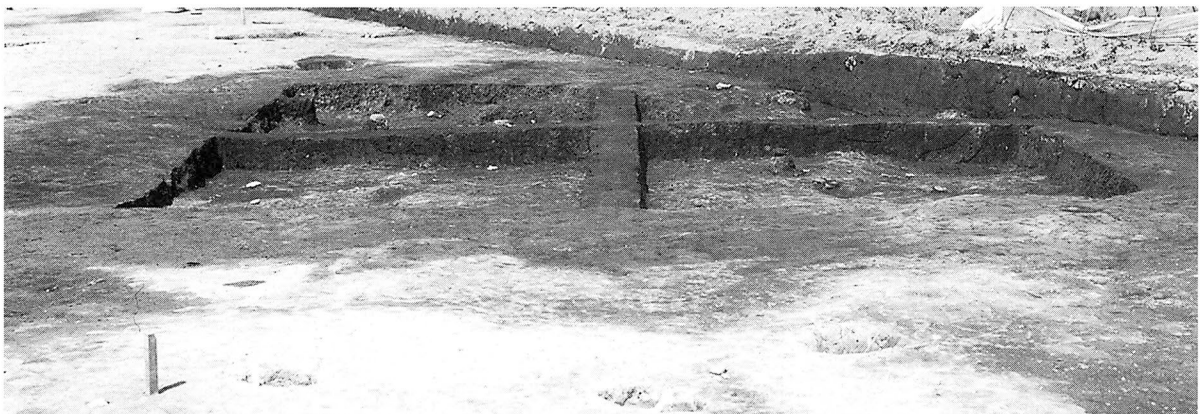
2号土坑埋土断面



全 景



A-a 埋土断面



B-b 埋土断面

写真図版 4 SI02 竪穴住居跡 (1)



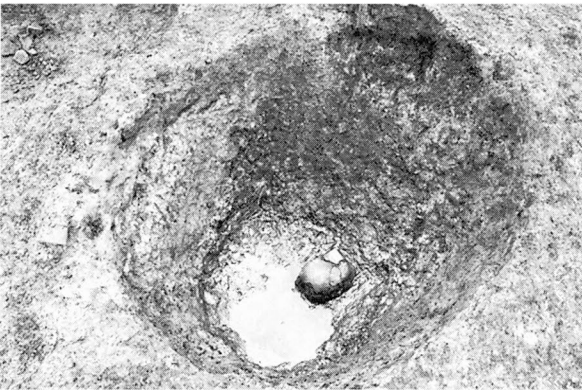
カマド全景



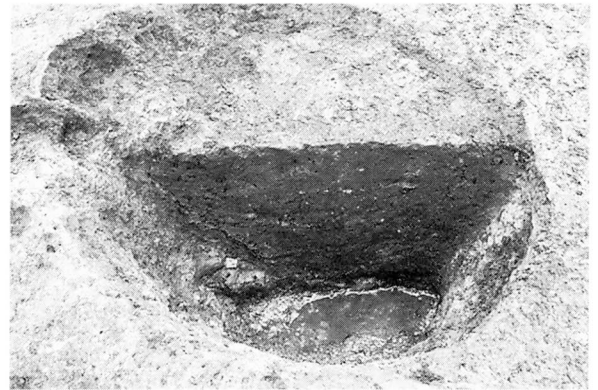
A-a'埋土断面



遺物出土状況



1号土坑全景



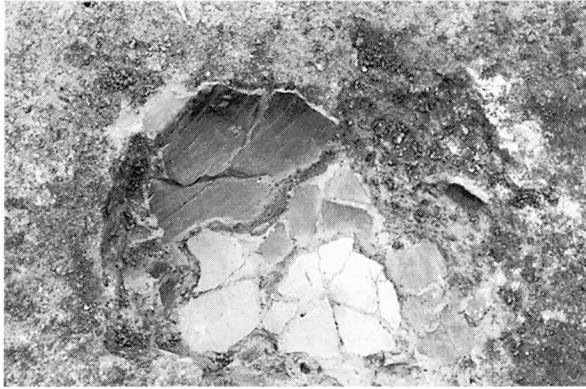
1号土坑埋土断面



5号土坑全景



5号土坑埋土断面



SI02竖穴住居跡遺物出土状況



SI03竖穴住居跡全景



SI03 2号土坑遺物出土状況



SI03 3号土坑全景



全 景

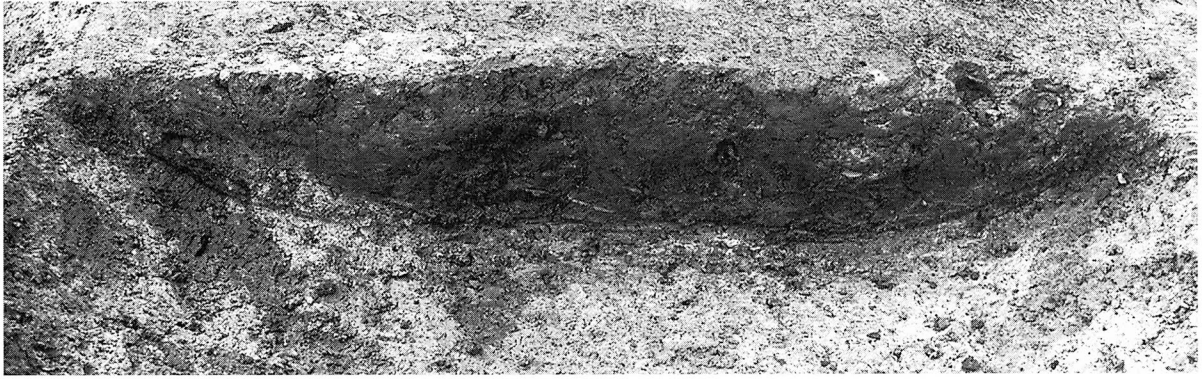


A-a 埋土断面



B-b・C-c 埋土断面

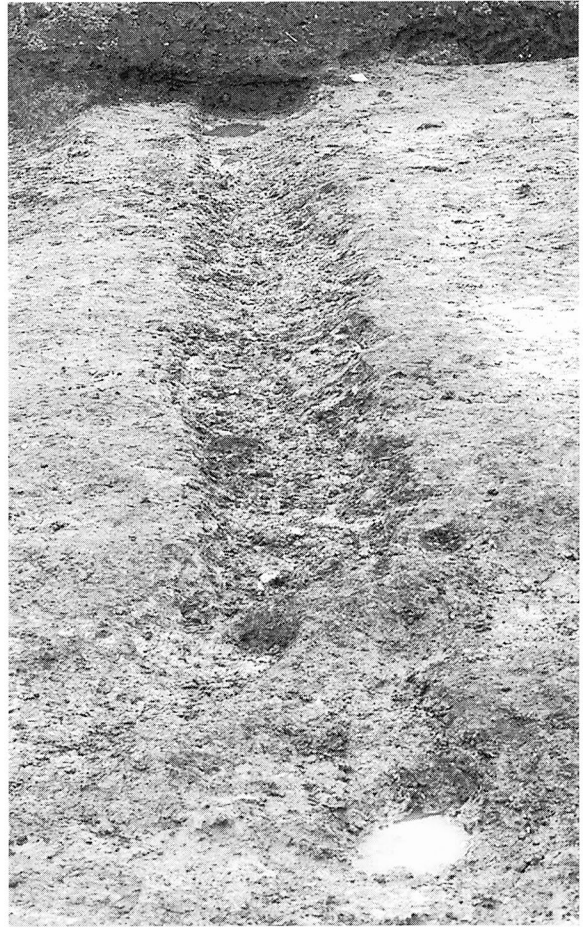
写真図版 7 SI01・02溝跡



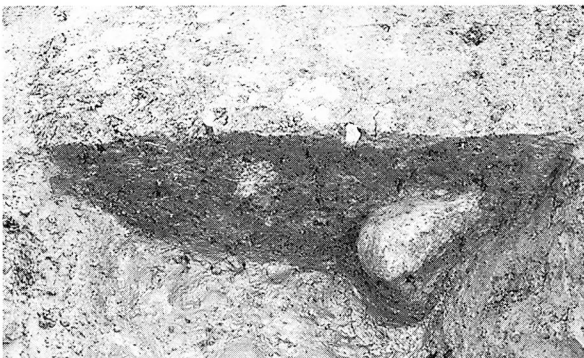
SD03 (D-d) 埋土断面



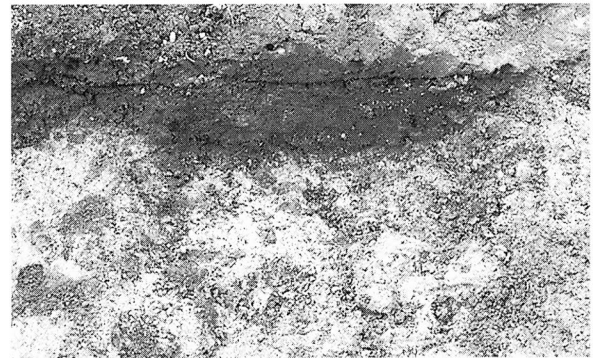
SD04全景



SD05全景



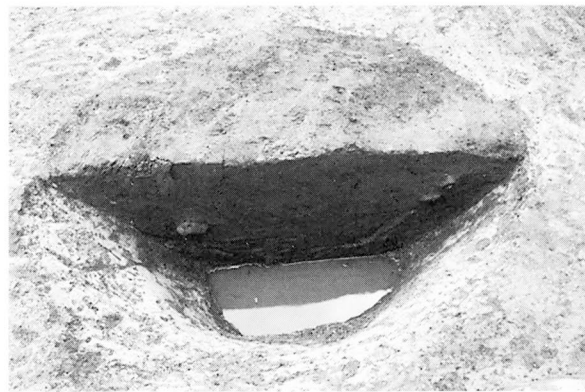
E-e 埋土断面



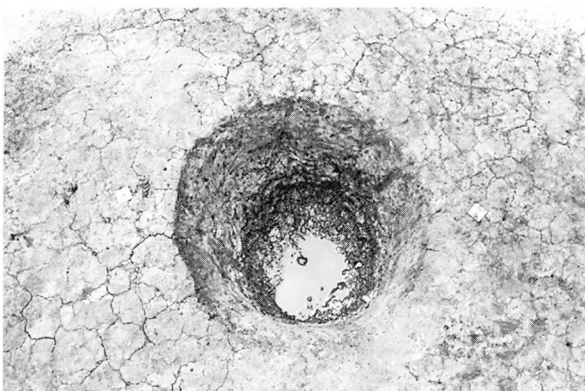
F-f 埋土断面



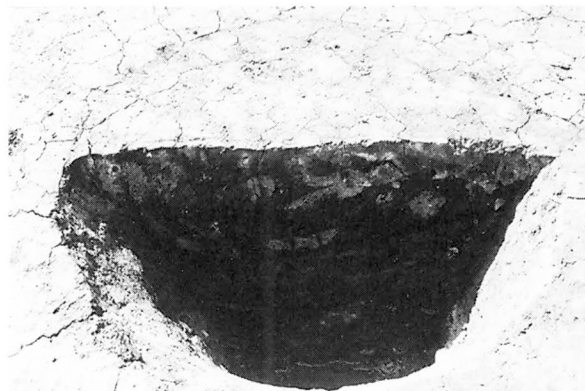
SE01井戸跡全景



SE01井戸跡埋土断面



SE02井戸跡全景



SE02井戸跡埋土断面



SK01土坑全景



SK01土坑埋土断面



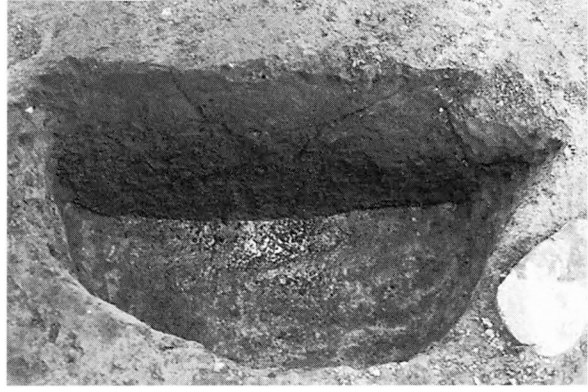
SK02土坑全景



SK02土坑埋土断面



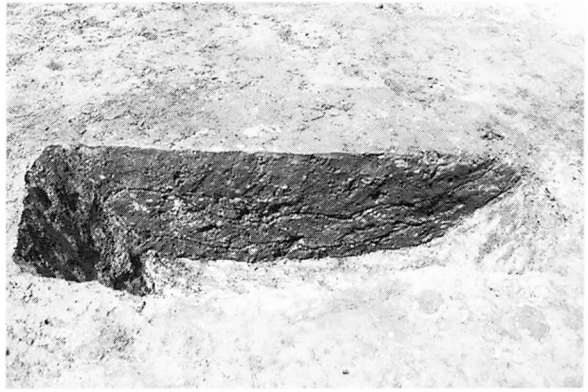
SK03土坑全景



SK03土坑埋土断面



SK04土坑全景



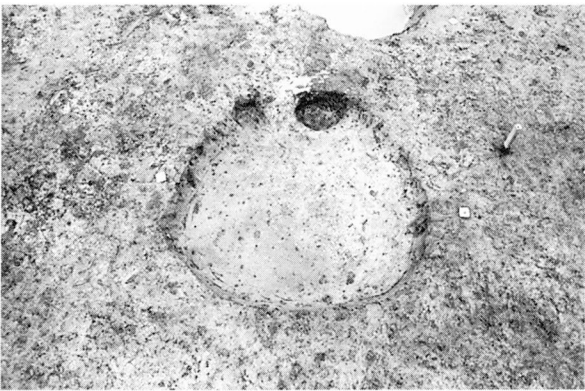
SK04土坑埋土断面



SK05土坑全景



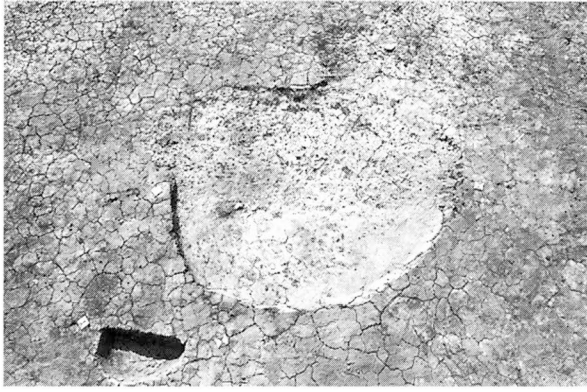
SK05土坑埋土断面



SK06土坑全景



SK06土坑埋土断面



SK07土坑全景



SK07土坑埋土断面



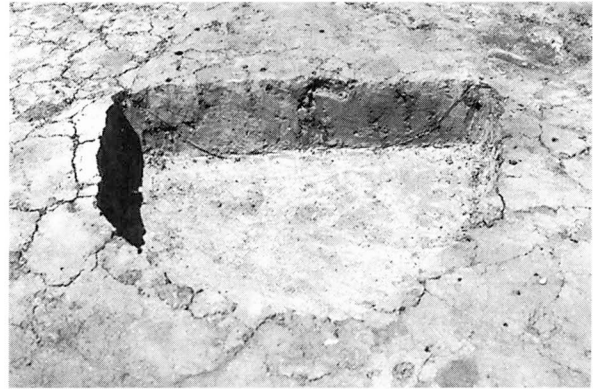
SK08土坑全景



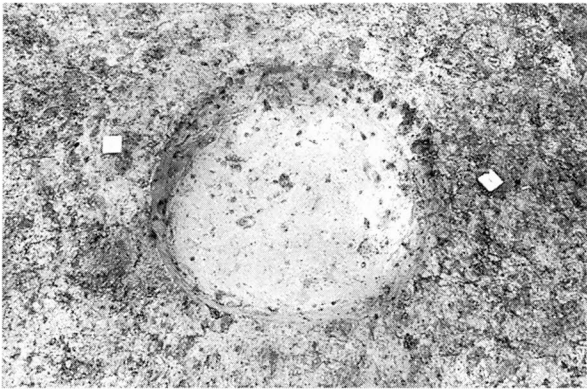
SK08土坑埋土断面



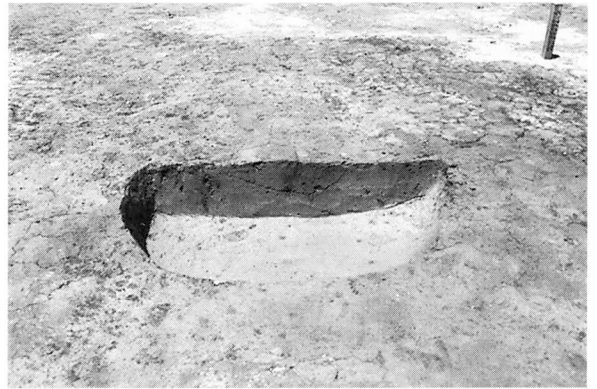
SK09土坑全景



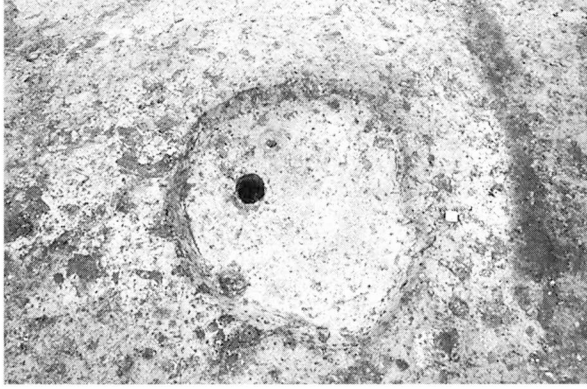
SK09土坑埋土断面



SK10土坑全景



SK10土坑埋土断面



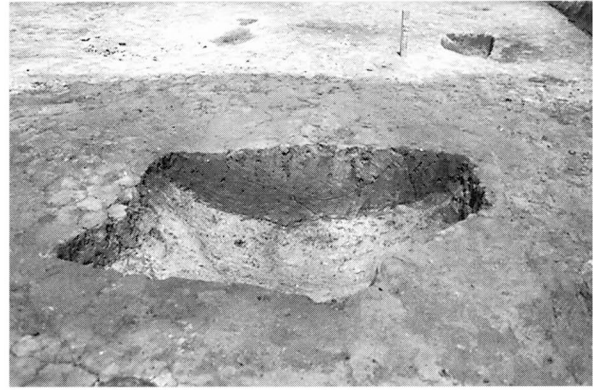
SK11土坑全景



SK11土坑埋土断面



SK12土坑全景



SK12土坑埋土断面



SK13土坑全景



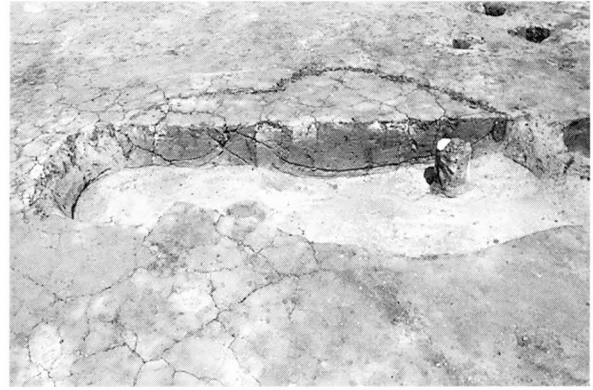
SK13土坑埋土断面



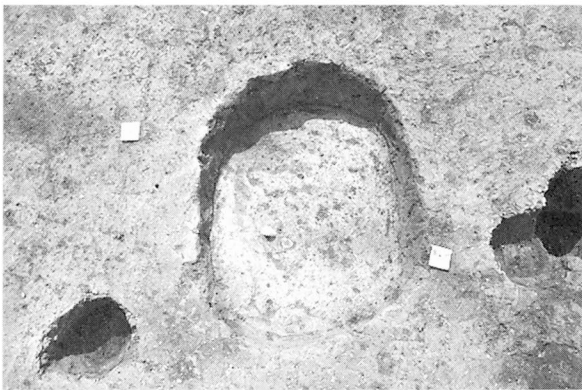
SK14土坑



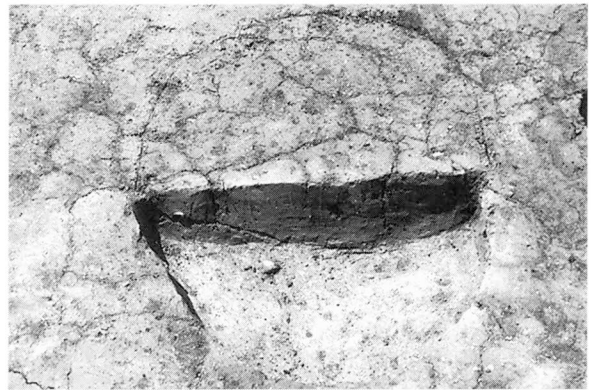
SK15・16土坑全景



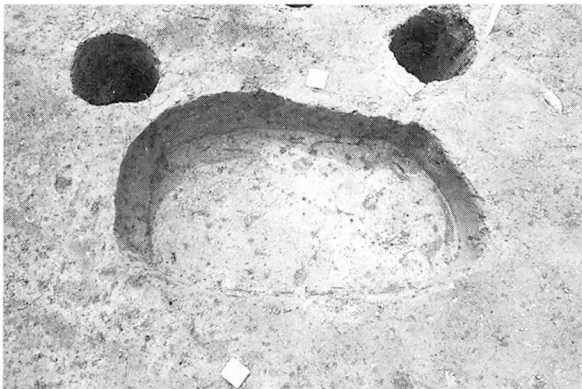
SK15・16土坑埋土断面



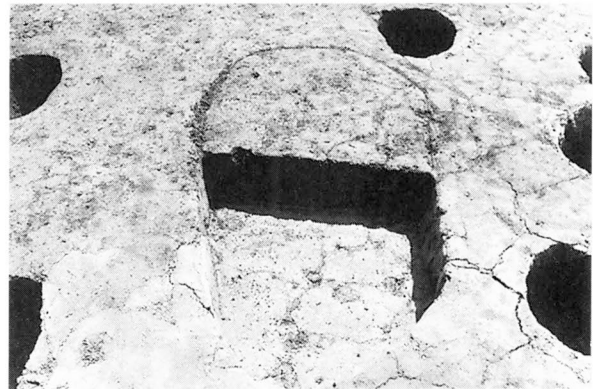
SK17土坑全景



SK17土坑埋土断面



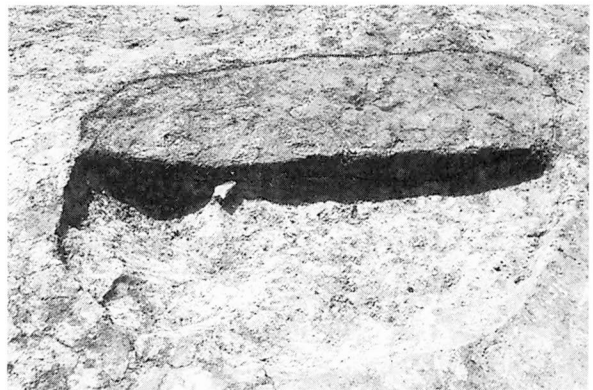
SK18土坑全景



SK18土坑埋土断面



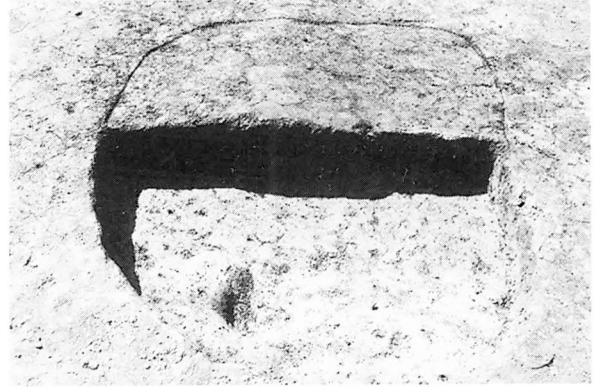
SK19土坑全景



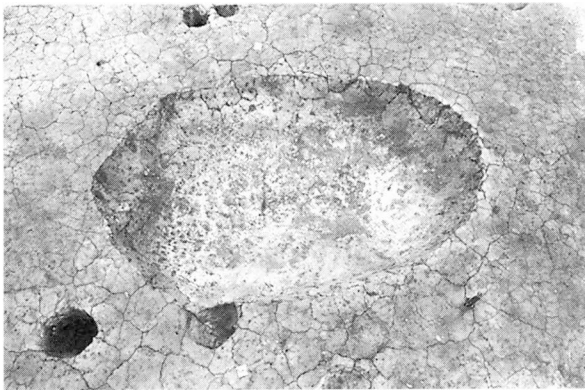
SK19土坑埋土断面



SK20土坑全景



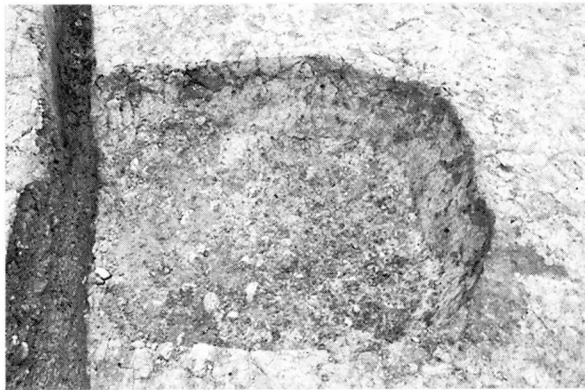
SK20土坑埋土断面



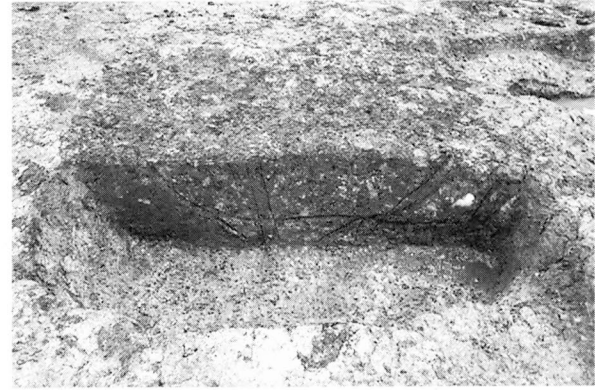
SK21土坑全景



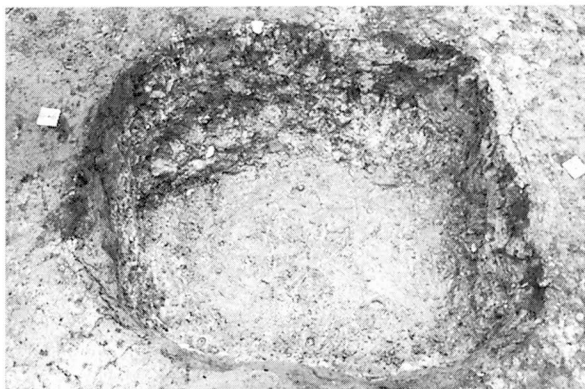
SK21土坑埋土断面



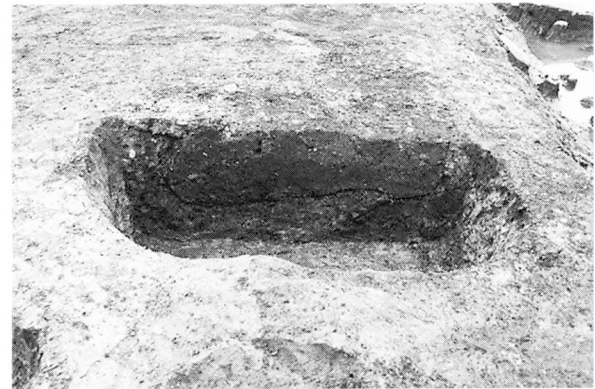
SK22土坑全景



SK22土坑埋土断面



SK23土坑全景



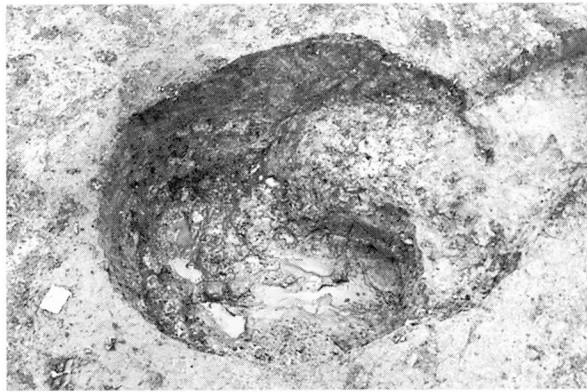
SK23土坑埋土断面



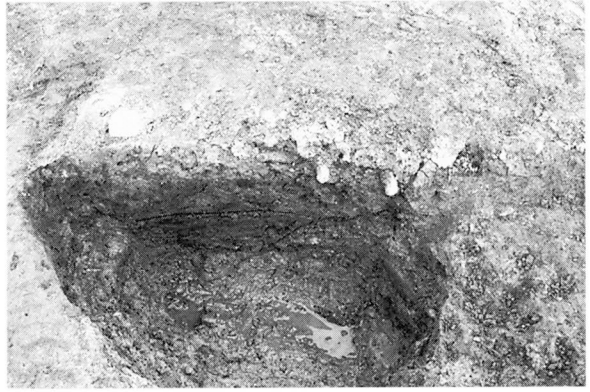
SK24土坑全景



SK24土坑埋土断面



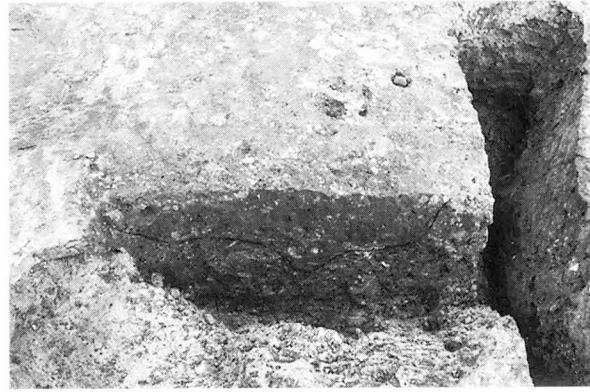
SK25土坑全景



SK25土坑埋土断面



SK26土坑全景



SK26土坑埋土断面



SK27土坑全景



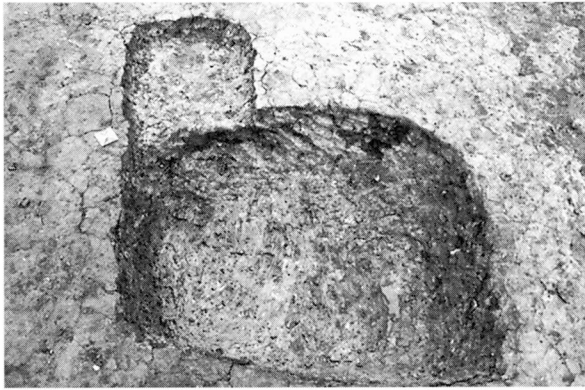
SK27土坑埋土断面



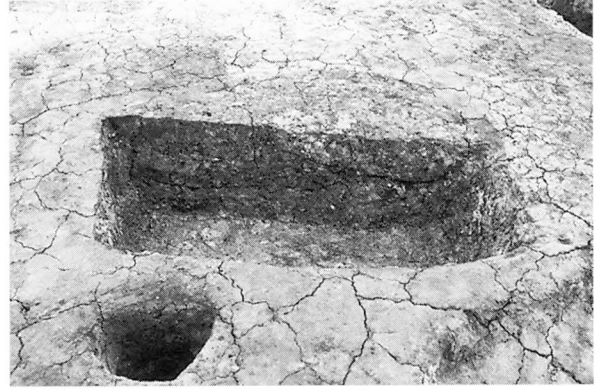
SK28土坑全景



SK28土坑埋土断面



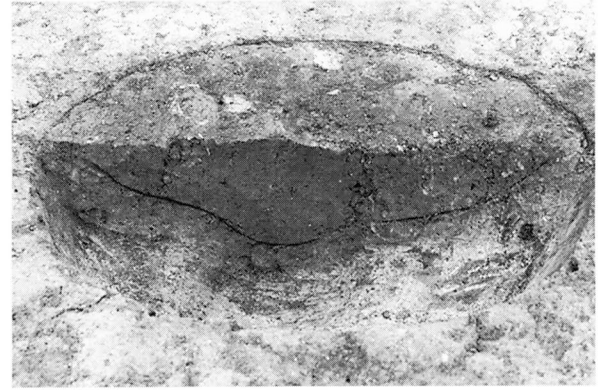
SK29・30土坑全景



SK29・30土坑埋土断面



SK31土坑全景



SK31土坑埋土断面



SK32土坑全景



SK32土坑埋土断面



SK34 全景



SK35土坑全景



SK35土坑埋土断面



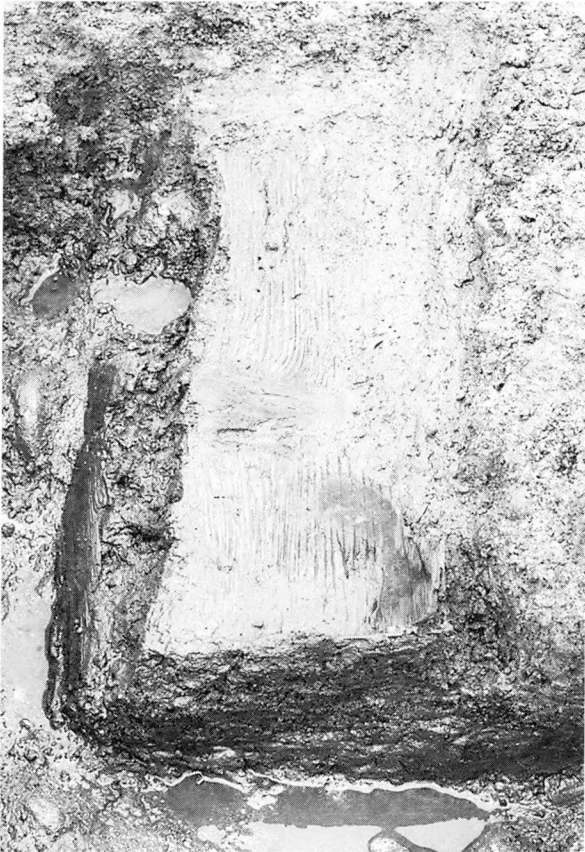
SK36土坑全景



SK36土坑埋土断面



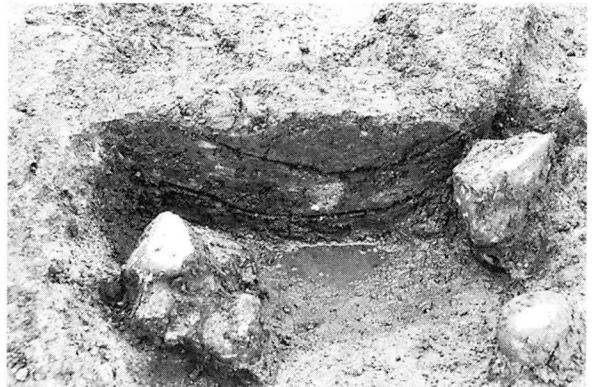
全 景



大棺上蓋



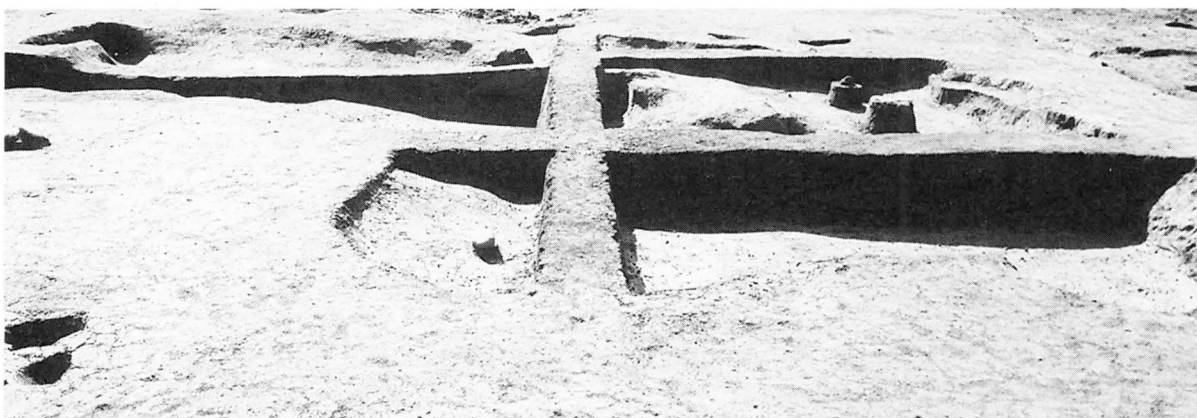
棺下遺物出土狀況



A-a埋土断面



全 景

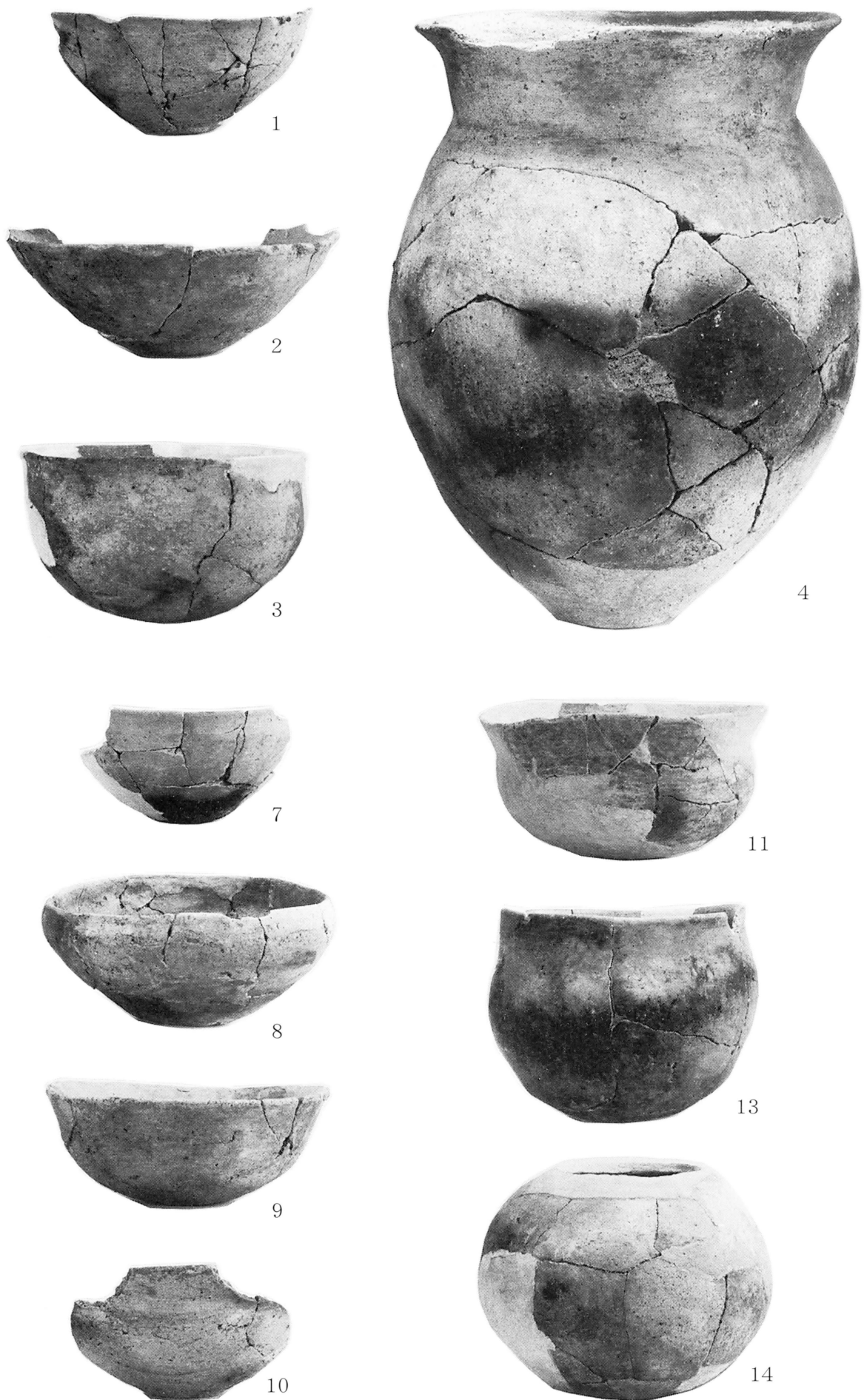


A-a·C-c 埋土断面

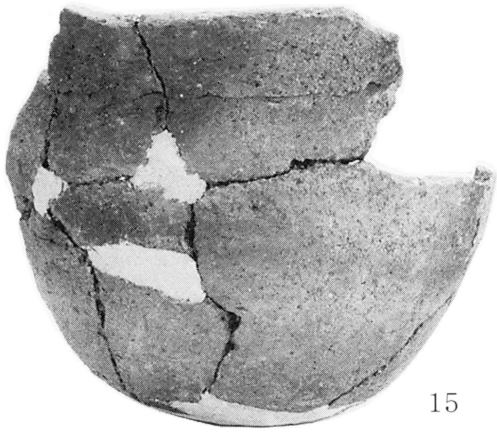


B-b 埋土断面

写真图版 19 SX01



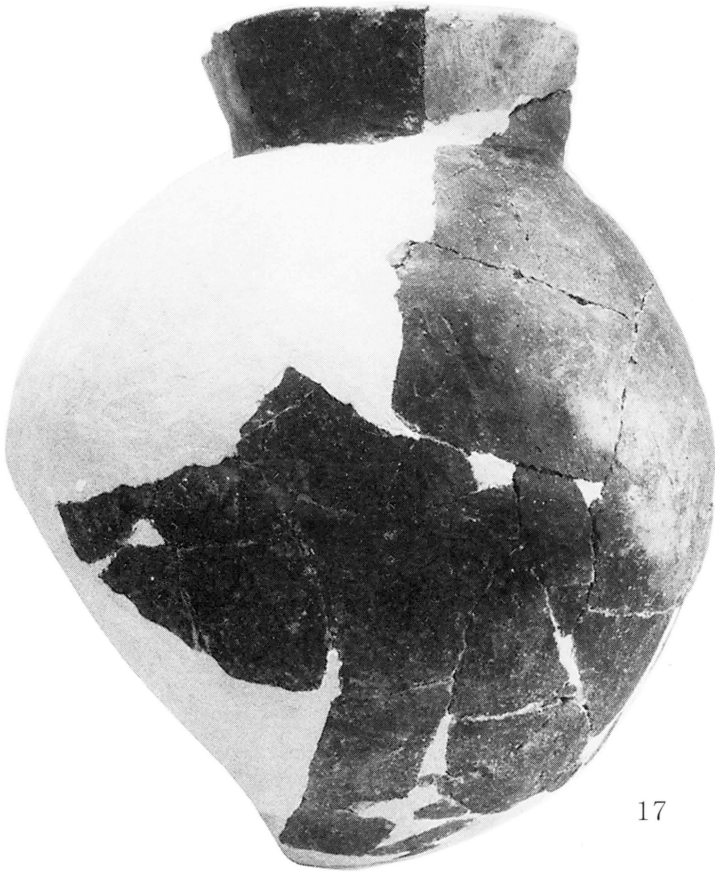
写真図版20 SI01・02竪穴住居跡出土遺物



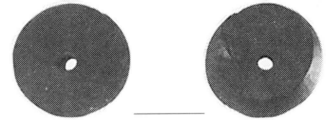
15



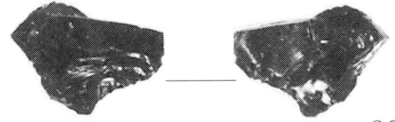
16



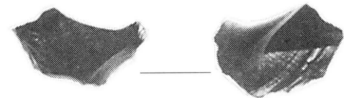
17



19



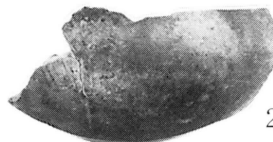
20



21



22

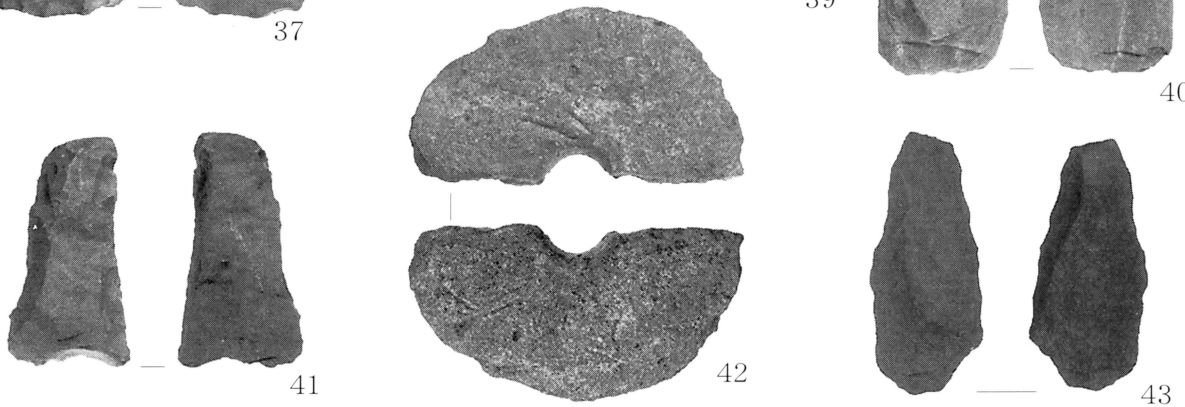
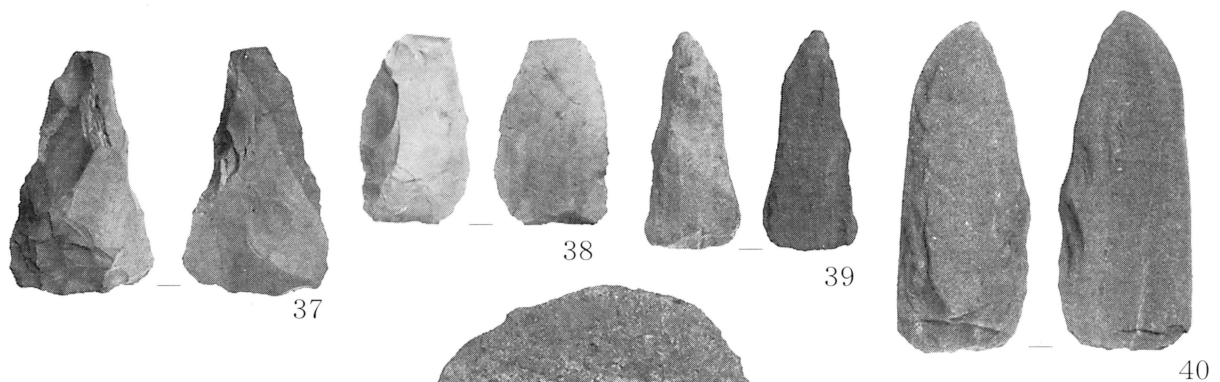
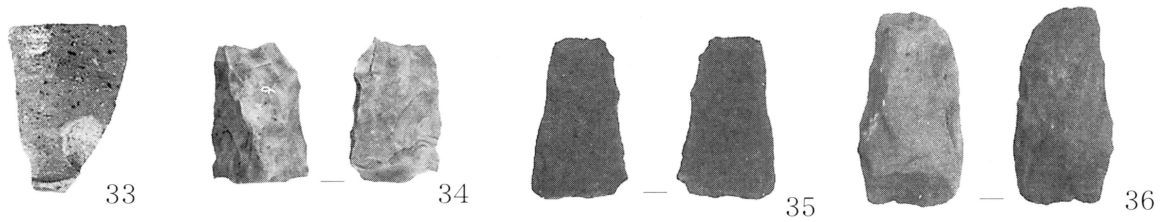
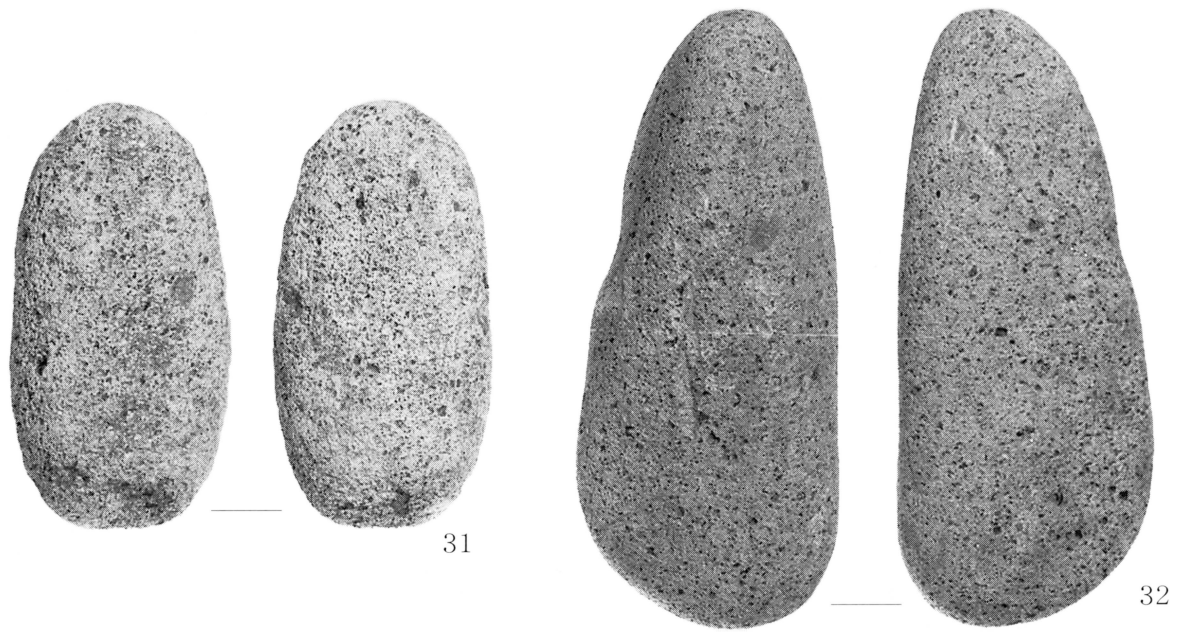
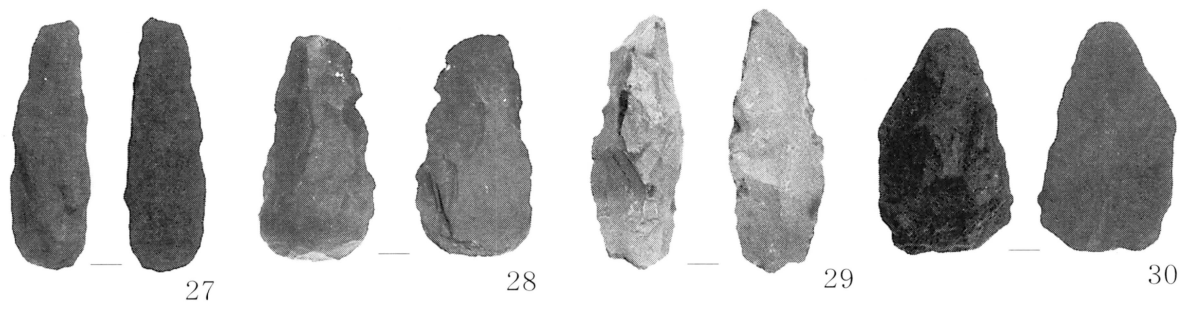


23

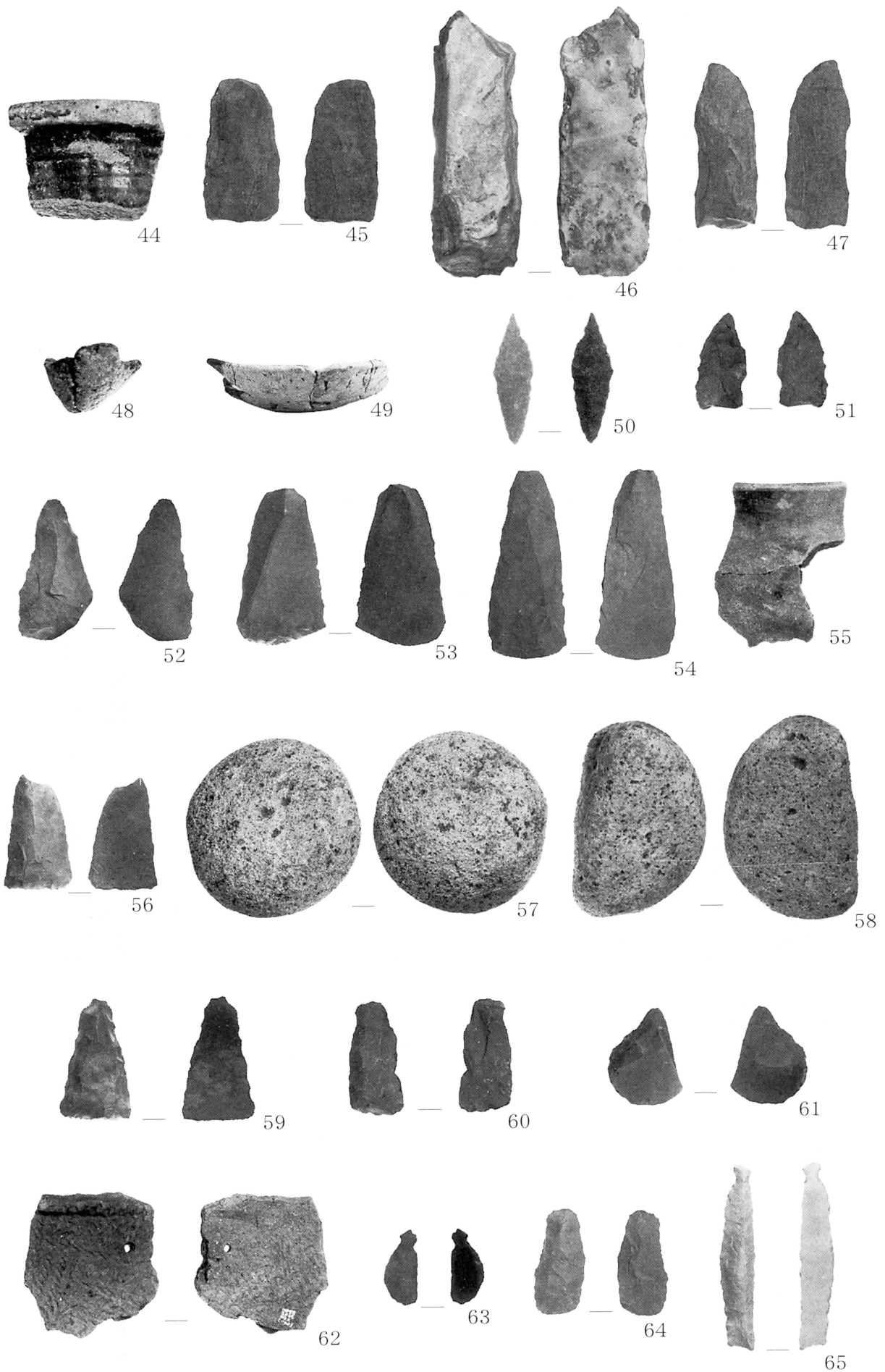


25

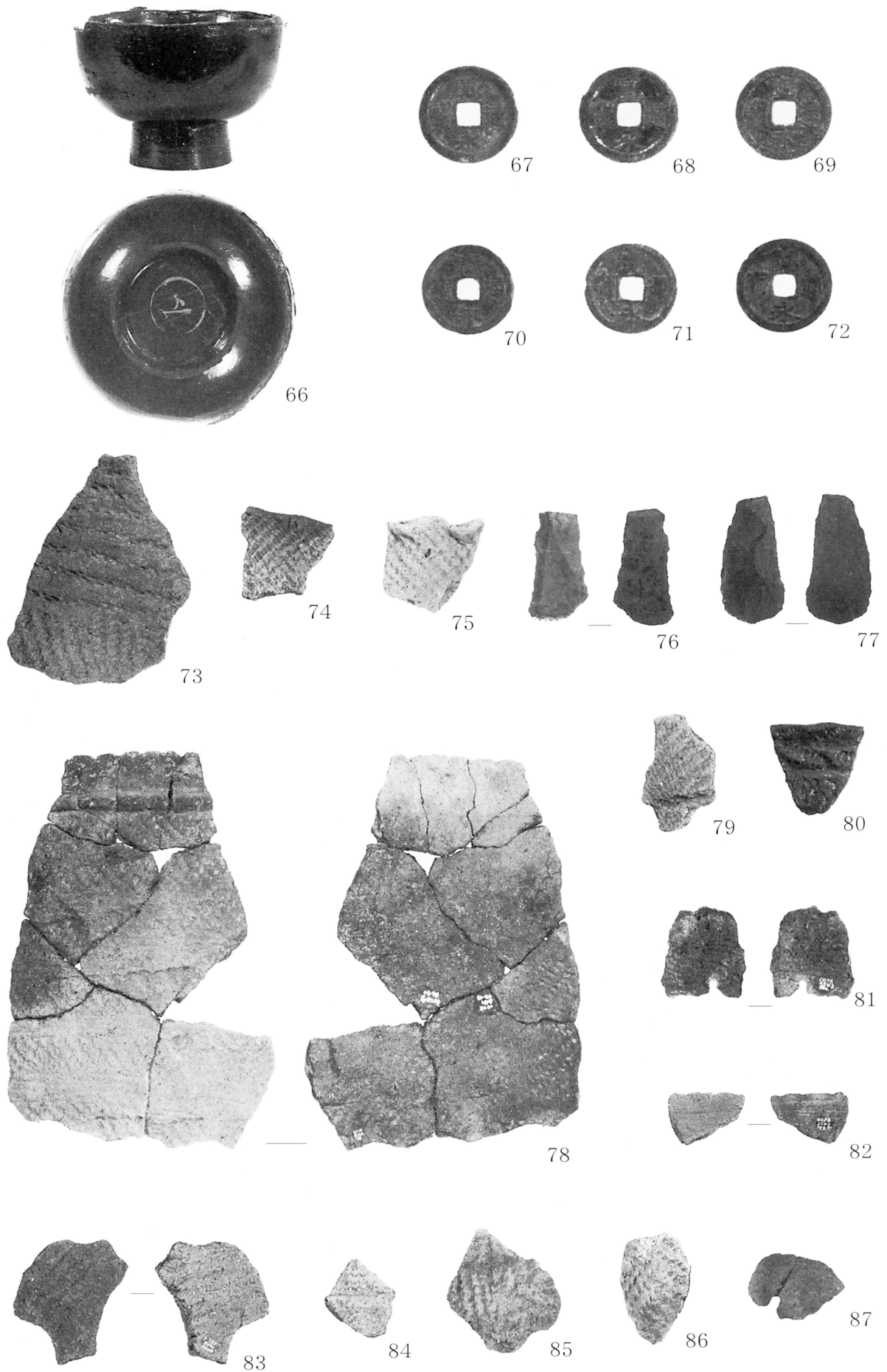
写真図版21 SI02・03竪穴住居跡出土遺物



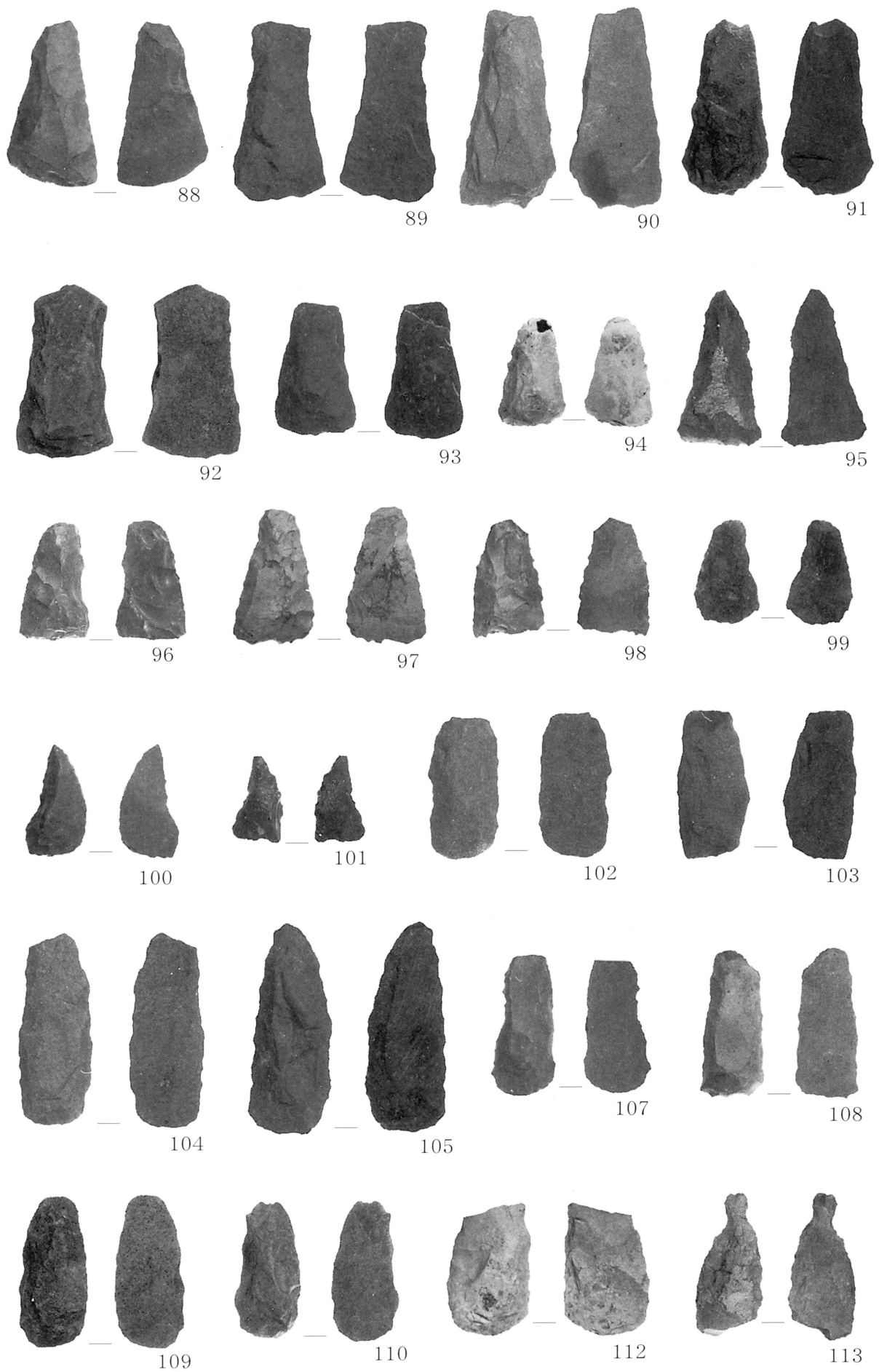
写真図版22 SD01~05溝跡出土遺物



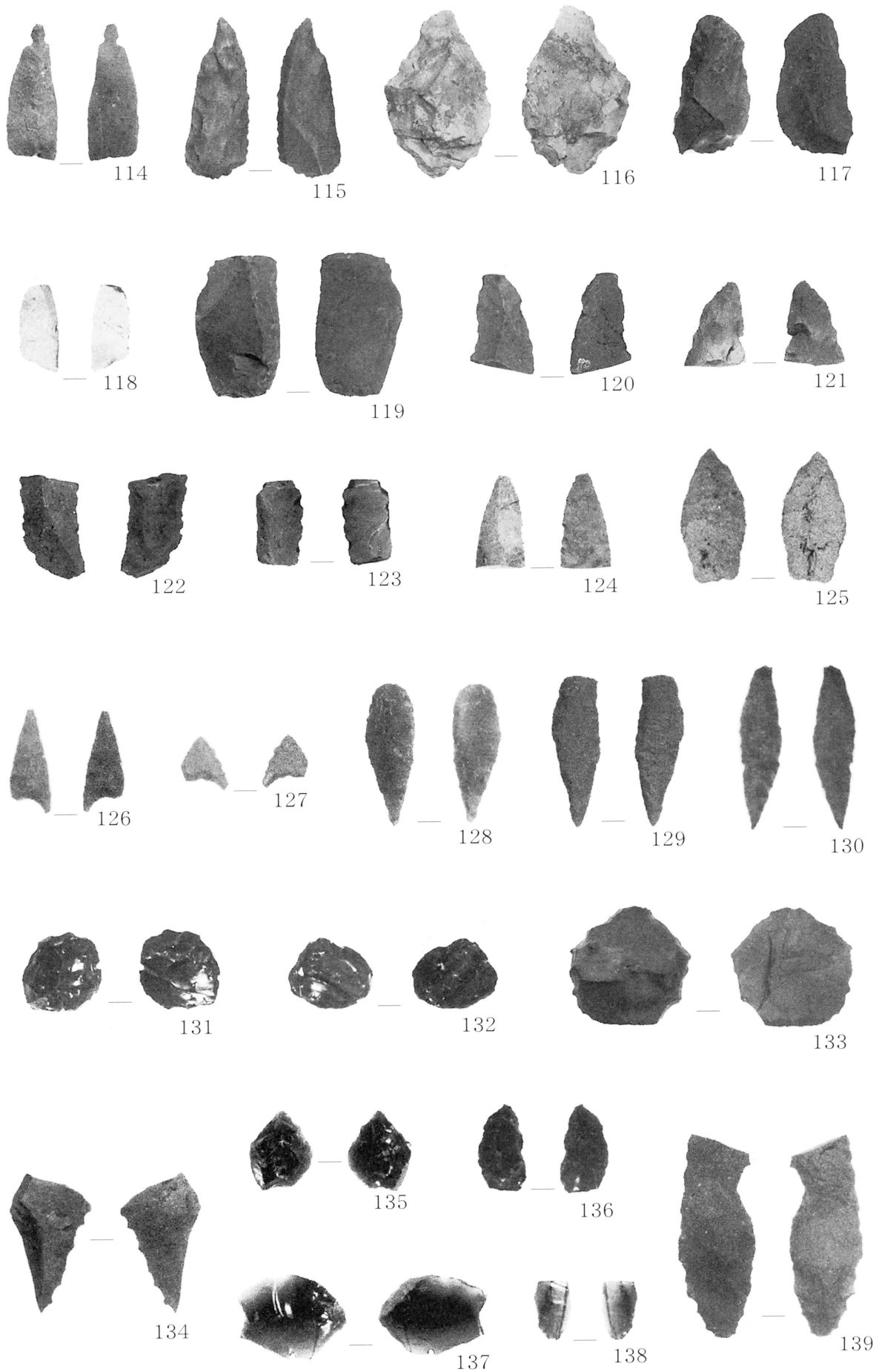
写真図版23 SE01井戸跡・SK01~36土坑出土遺物



写真図版24 SK37近世墓・SX01・遺構外出土遺物



写真図版25 遺構外出土遺物 (2)



写真図版26 遺構外出土遺物 (3)

報 告 書 抄 録

ふりがな		おもてづかいせき						
書名		面塚遺跡						
副書名								
巻次								
シリーズ名		水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書						
シリーズ番号		第12集						
編著者名		佐藤良和・千田幸生						
編集機関		(財)水沢市文化振興財団 水沢市埋蔵文化財調査センター						
所在地		〒023-0003 岩手県水沢市佐倉河字九蔵田96-1 TEL 0197-22-4400						
発行年月日		西暦1999年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "			
おもてづかいせき 面塚遺跡	佐倉河字 面塚52番 1号他	03204	NE16- 0102	39° 9' 45"	141° 7' 30"	19980428 ∩ 19980620	897.5	宅地造成
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
面塚遺跡	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 3棟 溝跡 5条 井戸跡 2基 土坑跡 36基 近世墓 1基	縄文土器 石器 土師器 中世陶器	古墳時代の竪穴住居跡が検出され、概期の社会状況の一部が解明されつつある。			

水沢市埋蔵文化財調査センター調査報告書 第11集

面 塚 遺 跡

平成11年 3月31日 発行

編集／発行 財団法人 水沢市文化振興財団
水沢市埋蔵文化財調査センター
〒023-0003 水沢市佐倉河字九蔵田96-1
電 話 0197-22-4400
F A X 0197-22-4600

印 刷 あ べ 印 刷 株 式 会 社
〒023-0003 水沢市佐倉河字鏡田80-4
電 話 0197-24-8303